

システム管理者ガイド

目次

商標	4	Web Config (デバイスのウェブページ)	25
マニュアルの見方	5	印刷機能を使う	26
マークの意味	5	サーバークライアント型接続での印刷設定	26
マニュアル記載の前提	5	ピアツーピア型接続での印刷設定	31
OS表記	5	ユーザー用紙設定を編集する	32
マニュアルのご注意	6	サーバーや共有フォルダーを設定する	33
はじめに	7	サーバーと各機能の関連	34
マニュアルの構成	7	メールサーバーを設定する	34
マニュアルで使用する用語	7	共有フォルダー設定	38
用語	7	アドレス帳を使う	58
ネットワーク環境の例	9	宛先設定の概要	58
プリンター接続のタイプ	12	アドレス帳の設定	58
プリンターの設定と管理	14	アドレス帳のバックアップとインポート	62
プリンター設定、管理の流れ	14	スキャン機能を使う	63
プリンターのネットワーク接続	15	操作パネルを使ってスキャンするには	63
印刷機能設定	15	システムの詳細を設定する	64
サーバー、共有フォルダー設定	15	操作パネルの動作を設定する	64
アドレス帳設定	15	無操作時の省電力設定をする	64
スキャン設定	16	タイムサーバーと日付/時刻を同期する	65
セキュリティ設定	16	スキャン、コピーの標準値を設定する (ユーザー デフォルト設定)	65
運用・管理	16	AirPrint設定	66
ネットワーク接続編	17	本体のセキュリティー編	67
ネットワーク接続の前に	17	本体のセキュリティー機能の紹介	67
接続設定情報の収集	17	管理者パスワードの設定	68
IPアドレスの割り当て	18	操作パネルから管理者パスワードを設定する	68
DNSサーバー、プロキシサーバーについて	18	Web Configから管理者パスワードを設定する	68
操作パネルでネットワークに接続する	18	パネル操作を制限する	69
IPアドレスを設定する	19	管理者ロックを有効にする	70
LANに接続する	23	本体設定メニューの管理者ロック項目	70
機能設定編	25	その他の管理者ロック項目	73
設定に使うソフトウェア	25	表示や機能を個別に制御する	74
		利用できる機能を制限する	74
		利用制限を設定する	75
		外部インターフェイスを無効にする	76
		運用・管理編	78
		管理者としてプリンターにログオンする	78
		操作パネルからプリンターにログオンする	78
		Web Configで管理者としてログオンする	78

プリンターの情報を確認する	79
操作パネルから情報を確認する	79
Web Configから情報を確認する	79
イベント発生時にメール通知を受け取る	80
メール通知の概要	80
メール通知を設定する	80
ファームウェアのアップデート	82
操作パネルを使ってプリンターのファームウェアをアップデートする	82
Web Configでファームウェアをアップデートする	83
プリンターをインターネットに接続しないでファームウェアをアップデートする	83
設定のバックアップ	84
設定をエクスポートする	84
設定をインポートする	84

トラブルを解決する 86

トラブルを解決するための糸口	86
プリンターの状態を確認する	86
エラーメッセージを確認する	86
ネットワーク接続診断レポートを印刷する	88
通信状態を確認する	94
接続テストをする	98
設定の初期化	99
トラブル事例	101
Web Configにアクセスできない	101
操作パネルから共有フォルダーにスキャンできない	102
プリンター共有時のトラブル	105
共有サーバーの動作が重い	105
プリントサーバーのプリンター設定がクライアントコンピュータに反映されない	105

付録 107

ネットワーク関連のソフトウェア	107
Epson Device Admin	107
EpsonNet Config	107
EpsonNet Print (Windowsのみ)	108
EpsonNet SetupManager	109
ツールを使ったアドレス帳のエクスポートや一括登録	109
操作パネルを使って無線LANに接続する (WPS)	111
プッシュボタンで自動設定する (AOSS/WPS)	111
PINコードで設定する (WPS)	112

Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続を使う	113
操作パネルから Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続を有効にする	113
Wi-Fi Direct (シンプルAP) の設定を変更する	113
接続方法を変更する	114
有線LANから無線LANへの接続変更	114
無線LANから有線LANへの接続変更	115
プリンターが使用するポート	116

エンタープライズセキュリティ設定編 118

セキュリティ設定と防止できる脅威	119
セキュリティ機能の設定	119
プリンターとのSSL/TLS通信	120
使用できる電子証明書	120
CA署名証明書の取得とインポート	120
CA署名証明書を削除する	125
相手サーバー検証用CA証明書を設定する	125
利用するプロトコルを制御する	128
プロトコルを制御する	128
有効・無効が設定可能なプロトコル	129
プロトコルの設定項目	130
IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する ...	133
IPsec/IPフィルタリングの概要	133
基本ポリシーを設定する	133
個別ポリシーを設定する	137
IPsec/IPフィルタリングの設定例	143
IPsec/IPフィルタリングで使用する証明書を設定する	144
IEEE802.1X環境にプリンターを接続する ...	145
IEEE802.1Xを設定する	145
IEEE802.1Xで使用する証明書を設定する	147
プリンターのIEEE802.1X状態表示	148
トラブルを解決する	149
セキュリティ設定の初期化	149
セキュア環境への接続時のトラブル	150
電子証明書使用時のトラブル	152

商標

- EPSONおよびEXCEED YOUR VISIONはセイコーエプソン株式会社の登録商標です。
- Chrome、Chrome OS、AndroidはGoogle Inc.の商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
- Apple、Mac、macOS、OS X、Bonjour、ColorSync、Safari、AirPrint、iPad、iPhone、iPod touch、iTunes、TrueType、iBeaconは米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。“iPhone”の商標は日本国内においてアイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
- その他の製品名は各社の商標または登録商標です。

マニュアルの見方

マークの意味

⚠ 注意 この内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および財産の損害の可能性が想定される内容を示しています。

！重要 必ず守っていただきたい内容を記載しています。この内容を見逃して誤った取り扱いをすると、本製品の故障や、動作不良の原因になる可能性があります。

参考 補足情報や参考情報を記載しています。

関連情報

➔ 関連したページにジャンプします。

マニュアル記載の前提

- 画面やイラストの詳細はお使いのプリンターとは異なることがありますが、操作方法は同じです。
- 画面はWindows Server 2012 R2の表示画面を使用しています。OSやバージョンにより異なることがあります。
- 機種や設定状況により画面の設定項目は異なることがあります。

OS表記

Windows

本書では、以下のOS（オペレーティングシステム）をそれぞれ「Windows 10」「Windows 8.1」「Windows 8」「Windows 7」「Windows Vista」「Windows XP」「Windows Server 2019」「Windows Server 2016」「Windows Server 2012 R2」「Windows Server 2012」「Windows Server 2008 R2」「Windows Server 2008」「Windows Server 2003 R2」「Windows Server 2003」と表記しています。また、これらの総称として「Windows」を使用しています。

- Microsoft® Windows® 10 operating system日本語版
- Microsoft® Windows® 8.1 operating system日本語版
- Microsoft® Windows® 8 operating system日本語版
- Microsoft® Windows® 7 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Vista® operating system日本語版
- Microsoft® Windows® XP operating system日本語版

マニュアルの見方

- Microsoft® Windows® XP Professional x64 Edition operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2019 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2016 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012 R2 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2012 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 R2 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2008 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2003 R2 operating system日本語版
- Microsoft® Windows Server® 2003 operating system日本語版

Mac OS

本書では、「macOS Mojave」「macOS High Sierra」「macOS Sierra」「OS X El Capitan」「OS X Yosemite」「OS X Mavericks」「OS X Mountain Lion」「Mac OS X v10.7.x」「Mac OS X v10.6.8」の総称として「Mac OS」を使用しています。

マニュアルのご注意

- 本書の内容の一部または全部を無断転載することを禁止します。
- 本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容にご不明な点や誤り、記載漏れなど、お気付きの点がありましたら弊社までご連絡ください。
- 運用した結果の影響については前項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品が、本書の記載に従わずに取り扱われたり、不適當に使用されたり、弊社および弊社指定以外の、第三者によって修理や変更されたことなどに起因して生じた障害等の責任は負いかねますのでご了承ください。

© 2021 Seiko Epson Corporation

はじめに

本書はシステム管理者向けに、複合機を使用するための設定や運用、管理方法を記載した機種共通のマニュアルです。共通マニュアルのため、機種によっては使用できない機能や表示されないメニューがあります。差分の情報は設定項目やメニューなどの近くで説明します。それぞれの機能を使用する方法は『ユーザーズガイド』をご覧ください。

マニュアルの構成

プリンターの設定と管理

プリンターのネットワーク設定～管理・運用までの流れを簡単な図で表します。

接続編

デバイスをネットワークに接続する方法を説明しています。プリンターが使用するポートやDNS、プロキシサーバーの設定も説明しています。

機能設定編

印刷やスキャンなどプリンターの各機能を使用するための設定を説明しています。

本体のセキュリティー編

管理者パスワードの設定や利用者制限などプリンター本体に設定する、基本的なセキュリティーのことを説明しています。

運用・管理編

プリンターの情報確認や、イベント発生時の通知設定など、使用開始後の運用、管理を説明しています。

トラブルを解決する

設定の初期化とネットワークのトラブルシューティングを説明しています。

エンタープライズセキュリティー設定編

SSL/TLS通信やIPsec/IPフィルタリングなど、ネットワークで機能する高度なセキュリティー機能を説明しています。

マニュアルで使用する用語

用語

本書では以下の用語を使用しています。

はじめに

システム管理者

企業や組織などでデバイスやネットワークに関して設置や設定をする権限を持つ人を指しています。小規模な組織ではネットワーク管理者、デバイス管理者を兼ねているケースがあります。大規模な組織では、部や課といった組織のグループ内のネットワークや機器に関しての権限を持つ人を指していて、インターネットなど組織外への通信設定の権限はネットワーク管理者が担います。

ネットワーク管理者

企業や組織などでネットワーク通信の制御を担当している人を指しています。ルーターやプロキシサーバー、DNSサーバー、メールサーバーなど、インターネットやネットワーク間の通信を制御している人です。

ユーザー（利用者）

プリンターやスキャナーなどのデバイスを使用するエンドユーザーを指しています。

サーバクライアント型接続（Windowsサーバーによるプリンター共有）

プリンターをWindowsサーバーにネットワークまたはUSBケーブルなどで接続し、サーバーで設定したプリントキューを共有する接続を指しています。プリンターとコンピューターの通信はサーバーを経由し、プリンターの制御をサーバーで行います。

ピアツーピア型接続（直接印刷）

プリンターとコンピューターがハブやアクセスポイントなどでネットワークに接続されていて、コンピューターから直接プリンターに印刷を実行する接続を指しています。

Web Config（デバイスのウェブページ）

デバイスに内蔵しているウェブサーバーです。Web Config（ウェブ コンフィグ）と表記しています。ネットワークからブラウザを使ってデバイスの情報確認や設定ができます。

プリントキュー

Windowsの場合、[デバイスとプリンター]にあるプリンターのポートごとに作られるアイコンを指しています。1台のプリンターでもStandard TCP/IPやWSDなどネットワークに接続しているポートにそれぞれのアイコンが作成されます。

ツール

Epson Device Admin（エプソン デバイス アドミン）やEpsonNet Config（エプソンネット コンフィグ）、EpsonNet SetupManager（エプソンネット セットアップマネージャー）など、デバイスの設定や管理を行うソフトウェアの総称として使用しています。

プッシュスキャン

デバイスのパネル操作を起点としたスキャンの総称です。スキャン結果をフォルダーに保存、メールに添付する機能を指します。

はじめに

ASCII (アスキー、American Standard Code for Information Interchange)

標準的な文字コードの一つです。アルファベット (a-z、A-Z) やアラビア数字 (0-9)、記号、空白文字、制御文字などを収録した128文字が規定されています。本書で「ASCII文字」と表記している場合、下表にある0x20~0x7E (16進数) を指し、制御文字は含みません。

	00	01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0E	0F
20	sp*	!	"	#	\$	%	&	'	()	*	+	,	-	.	/
30	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	:	;	<	=	>	?
40	@	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
50	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z	[\]	^	_
60	`	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m	n	o
70	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z	{		}	~	

* 空白文字 (スペース) です。

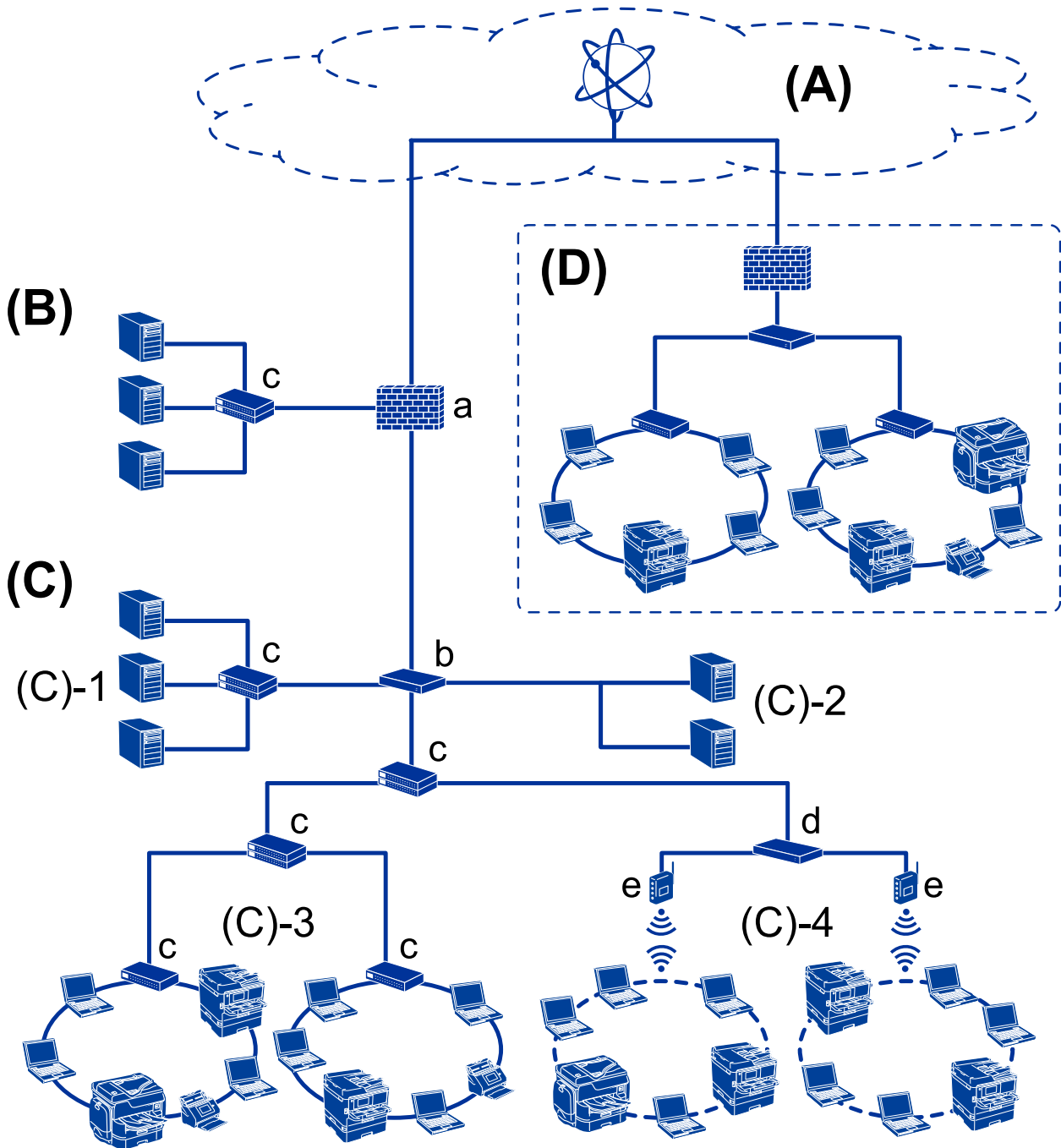
Unicode (UTF-8)

国際的な文字コード規格です。世界中の主な言語で主に使われる文字をカバーしています。「UTF-8」とある場合、UTF-8形式で符号化した文字を指します。

ネットワーク環境の例

製品を接続するネットワーク環境の例です。お使いの製品で利用できない機能やサービスが含まれている場合があります。

企業向けネットワークの例（中～大規模）



(A) : インターネット

プリンターがインターネットに接続できると、以下のようなサービスを利用できます。

- Epson Connect
メールプリント、リモートプリントなど
- クラウドサービス
Googleクラウドプリント、Evernoteなど
- エプソンのサイト
ドライバーやアプリケーションソフトのダウンロード、ファームウェアのアップデートなど

はじめに

(B) : DMZ (非武装地帯)

内部ネットワーク (イントラネット) と外部ネットワーク (インターネット) の中間にあって、どちらからもファイアウォールで隔離されたセグメントです。一般的に外部へ公開するサーバーを配置します。外部からの脅威を内部ネットワークへ拡散することを防止できます。また、内部から公開サーバーへの不正アクセスも防止できます。

- DNSサーバー
- プロキシサーバー
- メール転送サーバー
- ウェブサーバー
- FTPサーバー

(C) : トラストゾーン (イントラネット)

ファイアウォールやUTM (総合脅威管理) で守られた信頼性のあるネットワークです。

- (C) -1 : イントラネット内サーバー
組織内のコンピューターに対してそれぞれのサービスを提供します。
 - DNSサーバー
 - DHCPサーバー
 - メールサーバー
 - Active Directoryサーバー / LDAPサーバー
 - ファイルサーバー
- (C) -2 : アプリケーションサーバー
組織内のコンピューターに以下のようなサーバーアプリケーションの機能を提供します。
 - Epson Print Admin
 - Document Capture Pro Server
- (C) -3 : 有線LAN (Ethernet) 、 (C) -4 : 無線LAN (Wi-Fi)
プリンターやスキャナー、コンピューターなどをLANケーブルや無線でLANに接続します。

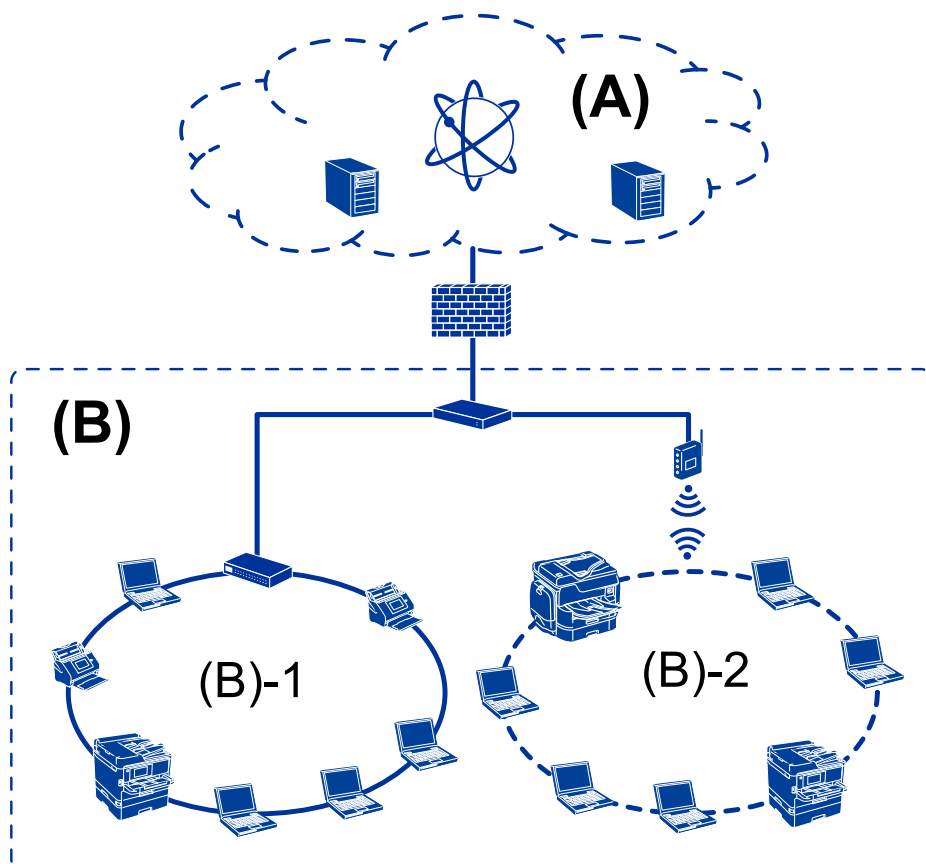
(D) : 他の拠点

他の拠点のネットワークです。インターネットや専用線などで拠点同士が接続されます。

ネットワーク装置

- a : ファイアウォール、UTM
- b : ルーター
- c : LANスイッチ
- d : 無線LANコントローラー
- e : アクセスポイント

企業向けネットワークの例（小規模）



(A) : インターネット

- Epson Connect
- クラウドサービス
- メールサーバー、FTPサーバー

(B) : トラストゾーン（イントラネット）

- (B) -1 : 有線LAN (Ethernet)
- (B) -2 : 無線LAN (Wi-Fi)

プリンター接続のタイプ

プリンターのネットワーク接続は主に以下の2つのタイプがあります。

- サーバークライアント型接続（Windowsサーバーによるプリンター共有）
- ピアツーピア型接続（直接印刷）

サーバークライアント型接続設定

サーバーになるコンピュータがプリンターを共有する接続です。プリンターにサーバー経由以外の通信を遮断すると、セキュリティを強化できます。

USBで接続するとネットワーク機能がないプリンターも共有できます。

接続方法：

プリンターをLANスイッチやアクセスポイントを介して直接ネットワークに接続します。

プリンターとサーバーをUSBケーブルで直接接続することもできます。

プリンタードライバー：

Windowsサーバー上に、クライアントコンピュータのOSにおけるシステムの種類に対応したドライバーをインストールします。

Windowsサーバーにアクセスしてプリンターをリンクすると、クライアントコンピュータにインストールされて使用できるようになります。

特徴：

- プリンターやプリンタードライバーを一括管理できます。
- 全ての印刷データはサーバーを経由するため、サーバーの能力によっては印刷開始までに時間がかかることがあります。
- Windowsサーバーが停止していると印刷できません。

関連情報

➔ [「用語」7ページ](#)

ピアツーピア型接続設定

プリンターとネットワーク上のコンピュータが直接通信する接続です。ネットワーク対応プリンターのみ接続できます。

接続方法：

プリンターをハブやアクセスポイントを介して直接ネットワークに接続します。

プリンタードライバー：

プリンタードライバーをコンピュータにインストールします。

EpsonNet SetupManagerを使うと、プリンター設定を含んだドライバーのパッケージを配布できます。

特徴：

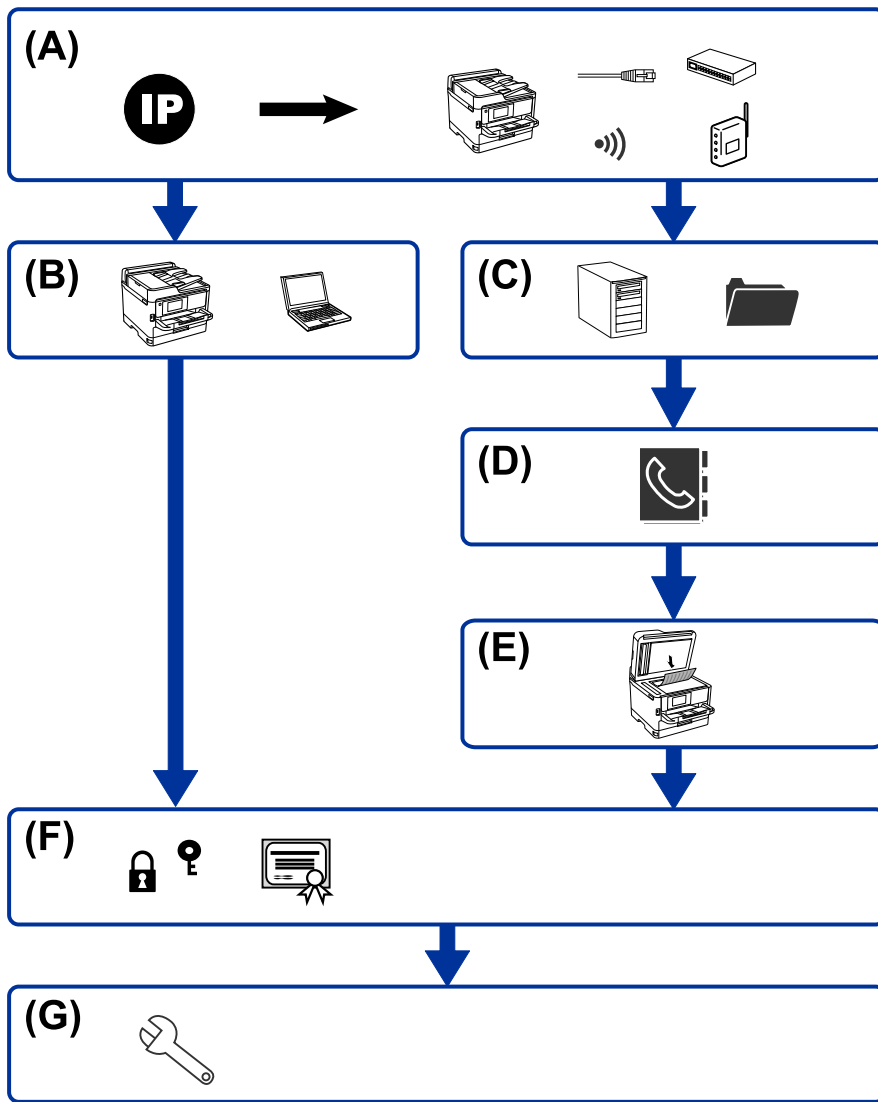
- プリンターに直接印刷データを送るので、印刷開始までに時間がかかりません。
- プリンターが稼働していれば印刷できます。

関連情報

➔ [「用語」7ページ](#)

プリンターの設定と管理

プリンター設定、管理の流れ



A	プリンターのネットワーク接続	B	印刷機能設定
C	サーバー、共有フォルダー設定	D	アドレス帳設定
E	スキャン設定	F	セキュリティー設定
G	運用・管理		

プリンターのネットワーク接続

プリンターにIPアドレスを設定して、ネットワークに接続します。

- IPアドレス設定
- ネットワークへの接続（LANケーブル接続、Wi-Fi設定）

関連情報

➔ [「ネットワーク接続編」 17ページ](#)

印刷機能設定

印刷機能を使うための設定をします。

- サーバクライアント型接続での印刷設定
- ピアツーピア型接続での印刷設定

関連情報

➔ [「印刷機能を使う」 26ページ](#)

サーバー、共有フォルダー設定

メール転送やメール通知のためのメールサーバー設定、共有フォルダーやFTP転送のためのFTPサーバーや共有フォルダーの設定をします。

- メールサーバーの設定
- ファイルサーバー設定（共有フォルダー設置）
- FTPサーバーの設定

関連情報

➔ [「サーバーや共有フォルダーを設定する」 33ページ](#)

アドレス帳設定

スキャンの宛先設定をします。

- インポート
- アドレスの登録

関連情報

➔ [「アドレス帳を使う」 58ページ](#)

スキャン設定

スキャン機能を使うための設定をします。

- ネットワーク設定

関連情報

➔ [「スキャン機能を使う」63ページ](#)

セキュリティー設定

- 管理者パスワード設定
- 利用者制限設定
- プロトコル制御設定
- 高度なセキュリティー設定

関連情報

➔ [「本体のセキュリティー編」67ページ](#)

➔ [「エンタープライズセキュリティー設定編」118ページ](#)

運用・管理

- デバイスの状況確認
- イベント発生への対応
- デバイス設定のバックアップ

関連情報

➔ [「運用・管理編」78ページ](#)

ネットワーク接続編

この章では、プリンターをネットワークに接続するための手順を説明しています。

ネットワーク接続の前に

ネットワーク接続するには、接続方法と接続のための設定情報を事前に確認してください。

接続設定情報の収集

接続に必要な設定情報を用意します。事前に以下の情報を確認してください。

区分	項目	備考
デバイス接続方法	<ul style="list-style-type: none"> 有線LAN 無線LAN (Wi-Fi) 	プリンターをネットワークに接続する方法を決定します。 有線LANは、LANスイッチ (ハブ) に接続します。 無線LANはアクセスポイントのSSIDに接続します。
LAN接続情報	<ul style="list-style-type: none"> IPアドレス サブネットマスク デフォルトゲートウェイ 	プリンターに割り当てるIPアドレスを決定します。 固定のIPアドレスを割り当てる場合は、全ての項目の値が必要です。 DHCP機能で動的にIPアドレスを割り当てる場合は、自動設定されるのでLAN接続の情報は不要です。
無線LAN接続情報	<ul style="list-style-type: none"> SSID パスワード 	プリンターを接続するアクセスポイントのSSID (ネットワークの名称)、パスワードです。 MACアドレスフィルタリング設定がされている場合は、プリンターを登録できるように事前にMACアドレスの登録をしておいてください。 対応している規格はユーザーズガイドをご覧ください。
DNSサーバー情報	<ul style="list-style-type: none"> プライマリーDNSのIPアドレス セカンダリーDNSのIPアドレス 	プリンターに固定のIPアドレスを割り当てる場合に必要です。セカンダリーDNSはシステムを冗長構成にしてセカンダリーDNSサーバーがある場合に設定します。 小規模なネットワークでDNSサーバーを構築していない場合は、ルーターのIPアドレスを設定します。
プロキシサーバー情報	<ul style="list-style-type: none"> プロキシサーバー名 	イントラネットからインターネットへの接続にプロキシサーバーを利用しているネットワーク環境において、プリンターが直接インターネットにアクセスする機能を使用する場合は設定してください。 以下の機能はプリンターが直接インターネットにアクセスします。 <ul style="list-style-type: none"> ファームウェア更新
ポート番号情報	<ul style="list-style-type: none"> 開放するポート番号 	プリンターやコンピューターが各機能で使用するポート番号を確認して、ファイアウォールでブロックされているポートを、必要に応じて開放してください。 プリンターが使用するポート番号の情報は「付録」をご覧ください。

IPアドレスの割り当て

IPアドレス（IPv4）の割り当てには、以下のタイプがあります。

固定IPアドレス：

あらかじめ決めたIPアドレスを手動でプリンター（ホスト）に割り当てます。

ネットワークに接続するための情報（サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバー設定など）を手動で設定する必要があります。

デバイスの電源を切ってもIPアドレスは変更されないため、IPアドレスの変更を追従できない環境やIPアドレスでデバイスを管理したい場合に利用できます。多数のコンピューターがアクセスする、プリンターやサーバーなどへの設定をお勧めします。また、IPsec/IPフィルタリングなどのセキュリティー機能を利用する場合は、IPアドレスが変更されないよう固定IPアドレスを割り当ててください。

DHCP機能による自動割り当て（動的IPアドレス）：

DHCPサーバーやルーターのDHCP機能を使って自動でIPアドレスをプリンター（ホスト）に割り当てます。

ネットワークに接続するための情報（サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、DNSサーバー設定など）も自動で設定されるので、デバイスのネットワークへの接続が容易にできます。

デバイスやルーターの電源を切る、または、DHCPサーバーの設定により、再接続の際にIPアドレスが変更になる場合があります。

IPアドレス以外でのデバイス管理やIPアドレスを追従できるプロトコルでの通信をお勧めします。

参考 DHCPのIPアドレス予約機能を使用すると、常にデバイスに同じIPアドレスを割り当てることができます。

DNSサーバー、プロキシサーバーについて

DNSサーバーは、ホスト名やメールアドレスのドメイン名などとIPアドレスの情報を関連付けて持っています。

コンピューターやプリンターがIP通信をするときに、ホスト名やドメイン名などで相手先を記述すると通信ができません。

その情報をDNSサーバーに問い合わせ、相手先のIPアドレスを取得します。この処理を名前解決と言います。

これによりコンピューターやプリンターなどのデバイスは、IPアドレスを使って通信ができるようになります。

プリンターがメールを使ったり、インターネット接続をして通信したりするには、名前解決が必要です。

これらの機能を使用するには、DNSサーバーの設定をしてください。

プリンターのIPアドレスをDHCPサーバーやルーターのDHCP機能で割り当てるとは自動設定されます。

プロキシサーバーはネットワークとインターネットとの出入りに配置され、コンピューターやプリンターとインターネット（相手サーバー）の代理でそれぞれのデバイスと通信します。相手サーバーはプロキシサーバーとだけ通信しているように見えます。よって、プリンターに設定されているIPアドレスやポート番号などの情報を読み取れなくなり、セキュリティーの向上が期待できます。

プロキシサーバーを介してインターネット接続をしている場合は、プリンターにプロキシサーバーの設定をしてください。

操作パネルでネットワークに接続する

プリンターの操作パネルを使って、プリンターをネットワークに接続します。

操作パネルの詳細説明は『ユーザズガイド』をご覧ください。

IPアドレスを設定する

ホストアドレスやサブネットマスク、デフォルトゲートウェイなど、基本的なIPアドレス設定をします。
ここでは固定IPアドレスを設定する手順を説明します。

1. プリンターの電源を入れます。
2. 操作パネルのホーム画面で「設定」を選択します。



3. 「本体設定」 - 「ネットワーク設定」 - 「詳細設定」の順に選択します。
4. 「TCP/IP」を選択します。



5. [TCP/IP設定方法] を [手動設定] にします。

IPアドレスをルーターなどのDHCP機能で自動設定する場合は [自動設定] にします。この場合は、手順6、7の [IPアドレス]、[サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] も自動設定になるので入力できません。手順8へ進んでください。



6. IPアドレスを入力します。

◀または▶を選択すると、ピリオドで区切られた前後の区切りにフォーカスが移動します。



戻った画面で入力した値が反映されていることを確認してください。

7. 同様に [サブネットマスク]、[デフォルトゲートウェイ] を設定します。

戻った画面で入力した値が反映されていることを確認してください。

！重要 IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイの組み合わせが不正の場合、[設定を開始する] が有効にならず、設定を続けることができません。入力に間違いがないか確認してください。

8. プライマリーDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

戻った画面で入力した値が反映されていることを確認してください。

参考 IPアドレスを [自動設定] にすると、DNSサーバー設定は [手動設定]、[自動設定] を選択できます。DNSサーバーのアドレスを自動取得できない場合に [手動設定] を選択して、DNSサーバーのIPアドレスを入力してください。引き続き、セカンダリーDNSサーバーのアドレスを直接入力します。[自動設定] を選択した場合は、手順10へ進んでください。

9. セカンダリーDNSサーバーのIPアドレスを入力します。

戻った画面で入力した値が反映されていることを確認してください。

10. [設定を開始する] をタップします。

11. 確認画面を閉じます。

プロキシサーバーを設定する

以下の両方に当てはまる場合は、プロキシサーバーを設定してください。

- インターネット接続用にプロキシサーバーを構築している
- 本体パネルまたはWeb Configから、インターネットを通じてプリンターファームウェアの更新を行う

1. ホーム画面で [設定] を選択します。

IPアドレスの設定に続いて設定するときは、[詳細設定] 画面が表示されています。手順3に進んでください。

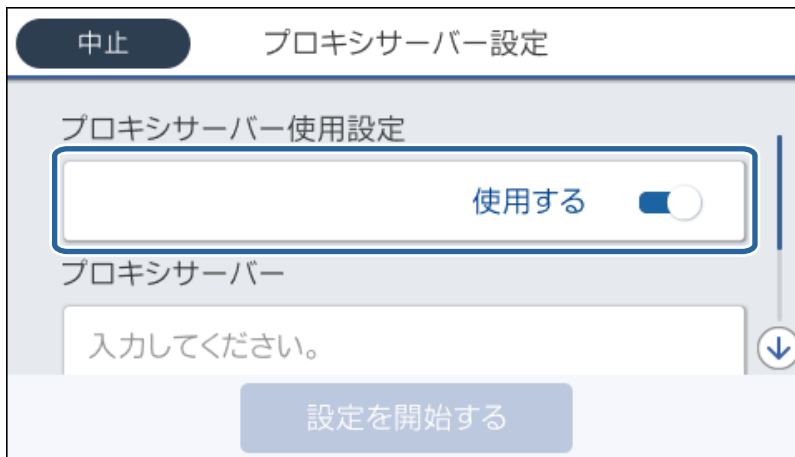


2. [本体設定] - [ネットワーク設定] - [詳細設定] の順に選択します。

3. [プロキシサーバー] を選択します。



4. [プロキシサーバー使用設定] を [使用する] にします。



5. プロキシサーバーのアドレスを、IPv4アドレスまたはFQDN形式で入力します。



戻った画面で入力した値が反映されていることを確認してください。

6. プロキシサーバーのポート番号を入力します。
戻った画面で入力した値が反映されていることを確認してください。
7. 「設定を開始する」をタップします。
8. 確認画面を閉じます。

LANに接続する

プリンターを有線LANまたは無線LANに接続します。

関連情報

- ➔ [「有線LANに接続する」23ページ](#)
- ➔ [「無線LAN \(Wi-Fi\) に接続する」24ページ](#)

有線LANに接続する

LANケーブルでネットワークに接続して、接続の確認をします。

1. プリンターとハブ（LANスイッチ）をLANケーブルで接続します。
2. ホーム画面で「設定」を選択します。



3. 「[本体設定] - [ネットワーク設定]」を選択します。
4. 「接続診断」を選択します。
接続診断の結果が表示されます。正常に接続されていることを確認してください。
5. 「OK」をタップして終了します。
「接続診断結果を印刷する」をタップすると診断結果を印刷できます。画面の案内に従って印刷してください。

関連情報

➔ [「有線LANから無線LANへの接続変更」114ページ](#)

無線LAN (Wi-Fi) に接続する

アクセスポイントに接続するための情報をプリンターの操作パネルから手動で設定する方法です。手動で設定するには、アクセスポイントのSSIDとパスワードの情報が必要です。

参考 アクセスポイント（無線LANルーター）がWPSに対応していると、SSIDやパスワードを使わずにプッシュボタンやPINコードで無線LAN接続設定できます。

1. ホーム画面で  |  をタップします。

2. [ルーター] を選択します。

3. [設定に進む] をタップします。

既にネットワーク接続している場合は、接続状態の詳細が表示されます。設定を変更する場合は [設定を変更する] をタップします。

既にプリンターが有線LANで接続されている場合は、接続状態の詳細が表示されます。[無線LAN接続に変更する] をタップし、表示されるメッセージを確認して、[はい] をタップします。

4. [アクセスポイントを検索] を選択します。

5. 接続したいSSIDを選択します。

プリンターの操作パネルに接続したいSSIDが表示されないときは、[再検索] をタップして一覧を更新してください。それでも表示されないときは、[手動入力] をタップして、SSIDを直接入力します。

6. [パスワード入力] をタップして、パスワードを入力します。

参考

- パスワードは大文字と小文字を区別して入力してください。
- SSIDを直接入力した場合は [パスワード] を [あり] にしてからパスワードを入力してください。

7. 入力が終わったら [OK] をタップします。

8. 設定内容を確認して、[設定を開始する] をタップします。

9. [OK] をタップして終了します。

接続に失敗した場合は [接続診断結果を印刷する] を選択して、ネットワーク接続診断レポートを印刷すると、対処方法を確認できます。

10. ネットワーク接続設定画面を閉じます。

関連情報

➔ [「ネットワーク接続診断レポートの見方と対処方法」89ページ](#)

➔ [「操作パネルを使って無線LANに接続する \(WPS\)」111ページ](#)

➔ [「無線LANから有線LANへの接続変更」115ページ](#)

機能設定編

この章では、デバイスの各機能を使うために始めに設定する部分の説明をしています。

設定に使うソフトウェア

ここではWeb Configを使って、システム管理者のコンピューターから設定する手順を中心に紹介します。

Web Config (デバイスのウェブページ)

Web Configの概要

Web Configは、プリンターの設定確認や変更がブラウザ上でできるプリンター内蔵のWebページです。ネットワークに接続されているプリンターを管理者のコンピューターから操作できます。

Web Configを使用するには、事前にプリンターにIPアドレスを設定しておく必要があります。

参考 プリンターに管理者パスワードを設定すると、管理者以外が設定を変更できないようにロックできます。

The screenshot displays the Epson Web Config interface. At the top, there is a navigation bar with tabs for '情報確認' (Information Check), '印刷' (Print), 'スキャンコピー' (Scan Copy), 'ファクス' (Fax), 'ネットワーク' (Network), 'ネットワークセキュリティー' (Network Security), '本体セキュリティー' (Device Security), 'デバイス管理' (Device Management), and 'Epson Open Platform'. The main content area is titled '製品情報' (Product Information) and includes a language dropdown menu set to '日本語'. Below this, there are sections for 'プリンターステータス' (Printer Status) and 'スキャナーステータス' (Scanner Status), both indicating '使用できます' (Available). A row of five ink level indicators is shown for Black (BK), Yellow (Y), Magenta (M), Cyan (C), and a paper tray icon. Below the ink indicators, there are progress bars for 'ブラック(BK)', 'イエロー(Y)', 'マゼンタ(M)', 'シアナ(C)', and 'メンテナンスボックス' (Maintenance Box). Further down, there are sections for '認証装置ステータス' (Authentication Device Status) showing '非接続' (Disconnected) and '用紙セット1' (Paper Set 1) showing '用紙サイズ: 自動(A4(縦))' (Paper Size: Auto (A4 (Portrait))). At the bottom, there is a '最新の状態へ更新' (Update to latest status) button and a link for 'ソフトウェアのライセンス' (Software License).

Web Configの起動

ネットワーク上のコンピューターやデバイスからブラウザを起動して、プリンターのIPアドレスを入力します。ブラウザのJavaScriptを有効にしてください。HTTPSアクセス時にプリンターが所有する自己署名証明書を使用するため、Web Configを起動するとブラウザに警告が表示されますが、問題ありません。

- HTTPSアクセス
IPv4 : `https://プリンターのIPアドレス`
IPv6 : `https://[プリンターのIPアドレス]`
- HTTPアクセス
IPv4 : `http://プリンターのIPアドレス`
IPv6 : `http://[プリンターのIPアドレス]`

記入例

- IPv4:
`https://192.0.2.111/`
`http://192.0.2.111/`
- IPv6:
`https://[2001:db8::1000:1]/`
`http://[2001:db8::1000:1]/`

参考 DNSにプリンター名を登録すると、IPアドレスの代わりにプリンター名が使用できます。

関連情報

- ➔ [「プリンターとのSSL/TLS通信」 120ページ](#)
- ➔ [「使用できる電子証明書」 120ページ](#)

印刷機能を使う

ネットワーク接続でプリンターから印刷できるようにします。

ネットワークでプリンターを使用するには、プリンターのネットワーク接続以外に、コンピューターにネットワーク用のポート設定が必要です。

- サーバークライアント型の接続：サーバーコンピューター
サーバークライアント型の接続時に手動で設定する方法を説明します。
- ピアツーピア型の接続：それぞれのコンピューター
プリンターとコンピューターが一对一の関係になるピアツーピア型の接続では、製品のソフトウェアディスクのインストーラーやウェブインストーラーを使用して自動設定する方法を説明します。

サーバークライアント型接続での印刷設定

サーバークライアント型で接続したプリンターから印刷できるようにします。

サーバークライアント型の接続では、先にプリントサーバーのコンピューターから印刷できるように設定してから、プリンターをネットワークで共有してプリントサーバー経由で印刷できるようにします。

USBケーブルでサーバーに接続した場合も同様に、コンピューターからプリンターに印刷できるように設定してからプリンターをネットワークで共有します。

ネットワークポートを設定する

一般的なStandard TCP/IPを使用してプリントサーバーのコンピューターにネットワーク印刷用のプリントキューを作成し、ネットワークポートを設定します。

ここではWindows Server 2012 R2を代表例として説明します。

1. デバイスとプリンターの画面を開きます。

[デスクトップ] - [設定] - [コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド]（または [ハードウェア]） - [デバイスとプリンター] の順に選択します。

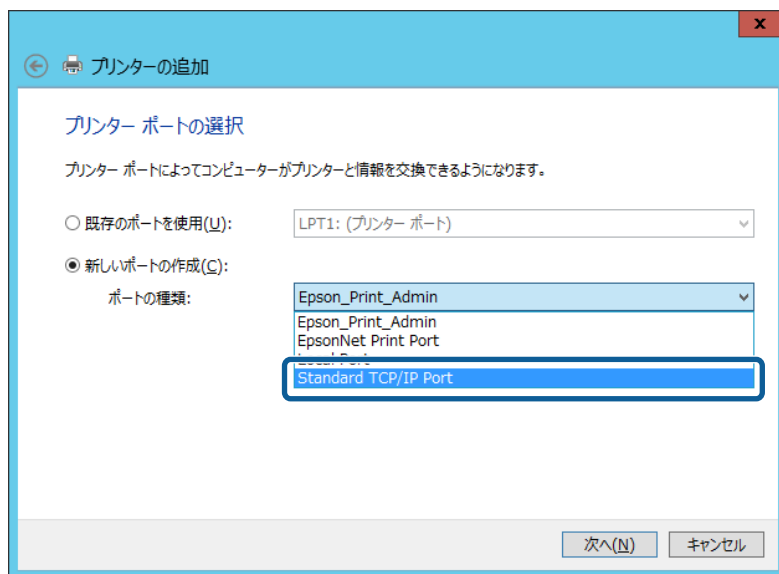
2. プリンターを追加します。

[プリンターの追加] をクリックして、表示される画面で [探しているプリンターはこの一覧にはありません] を選択します。

3. ローカルプリンターを追加します。

[ローカルプリンターまたはネットワークプリンターを手動設定で追加する] を選択して、[次へ] をクリックします。

4. [新しいポートの作成] を選択し、ポートの種類から [Standard TCP/IP Port] を選択して、[次へ] をクリックします。



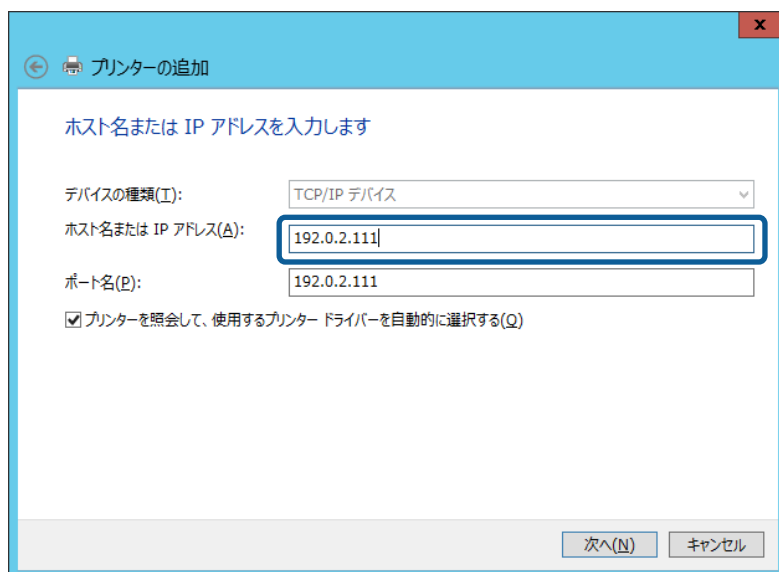
5. [ホスト名またはIP アドレス]（または [プリンター名またはIP アドレス]）にプリンター名、またはプリンターのIP アドレスを入力して、[次へ] をクリックします。

記入例：

- プリンター名：EPSONA1A2B3C
- IPアドレス：192.0.2.111

[ポート名] は変更しないでください。

[ユーザーアカウント制御] 画面が表示されたときは [続行] をクリックします。



参考 名前で検索が可能なネットワークでプリンター名を指定した場合は、DHCPによってプリンターのIPアドレスが変更になっても追従ができます。プリンター名は、操作パネルのネットワーク情報表示またはネットワークステータスシートで確認できます。

6. プリンタードライバーを設定します。

- プリンタードライバーがインストールされている場合
[製造元] - [プリンター] を選択します。[次へ] をクリックします。
- プリンタードライバーがインストールされていない場合
[ディスク使用] をクリックして、プリンターに付属のソフトウェアディスクをセットします。[参照] をクリックして、ディスクドライブのプリンタードライバーが格納されているフォルダーを指定します。正しいフォルダーを指定してください。OS環境により指定するフォルダーが異なります。
32bit版Windows : WINX86
64bit版Windows : WINX64

7. この後は、画面の指示に従って操作します。

サーバークライアント型接続 (Windowsサーバーによるプリンター共有) でプリンターを使用する場合は、続いてプリンターを共有設定します。

関連情報

➔ [「プリンターを共有する \(Windowsのみ\)」](#) 29ページ

ポート構成を確認する - Windows

プリントキューに適切なポートが設定されているか確認します。

1. デバイスとプリンターの画面を開きます。

[デスクトップ] - [設定] - [コントロールパネル] - [ハードウェアとサウンド] (または [ハードウェア]) - [デバイスとプリンター] の順に選択します。

2. プリンターのプロパティ画面を開きます。
対象プリンターのアイコンを右クリックして、[プリンターのプロパティ] をクリックします。
3. [ポート] タブをクリックし、[標準のTCP/IPポート] を選択して、[ポートの構成] をクリックします。
4. ポートの構成を確認します。
 - RAWの場合
[プロトコル] で [Raw] が選択されていることを確認して、[OK] をクリックします。
 - LPRの場合
[プロトコル] で [LPR] が選択されていることを確認します。[LPR 設定] の [キュー名] に「PASSTHRU」と入力します。[LPRバイトカウントを有効にする] をチェックして、[OK] をクリックします。

プリンターを共有する (Windowsのみ)

サーバークライアント型接続 (Windowsサーバーによるプリンター共有) でプリンターを使用する場合は、プリントサーバーからプリンターを共有設定します。

1. プrintサーバーのコンピュータで [コントロールパネル] - [デバイスとプリンター] の順に選択します。
2. 共有したいプリンターアイコン (プリントキュー) を右クリックして、[プリンターのプロパティ] - [共有] タブを選択します。
3. [このプリンターを共有する] を選択して、[共有名] を入力します。

Windows Server 2012をお使いの場合は、[共有オプションの変更] をクリックしてから設定してください。

参考 プリンター共有時のトラブル

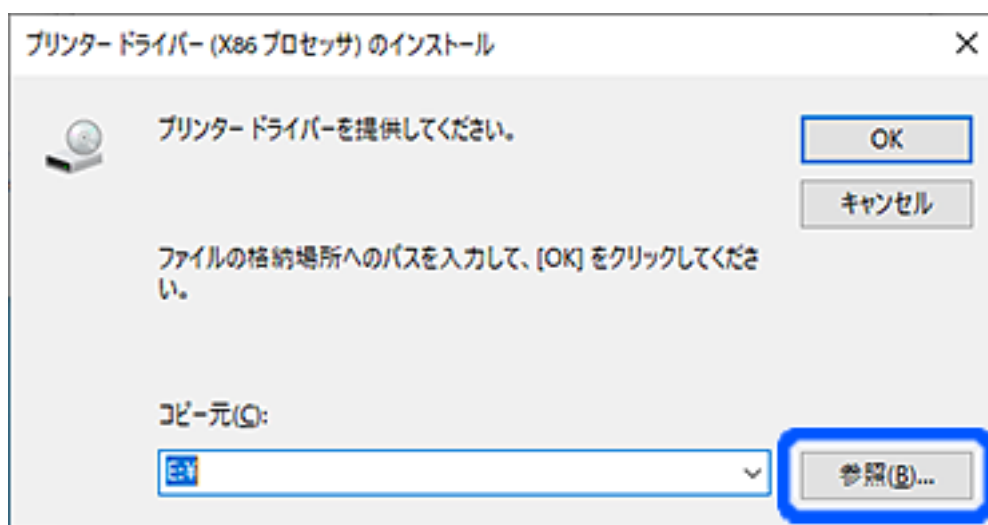
- [共有サーバーの動作が重い] 105ページ
- [プリントサーバーのプリンター設定がクライアントコンピュータに反映されない] 105ページ

追加ドライバーをインストールする (Windowsのみ)

プリントサーバーのコンピュータとクライアントコンピュータがビット数の異なるWindowsで動作している場合、それぞれのバージョンのプリンタードライバーをプリントサーバーにインストールしておくことをお勧めします。

1. 追加インストールするプリンタードライバーファイル (*.exe) を右クリックし、[名前の変更] を選択してファイルの拡張子を.zipに書き換えます。
最新のプリンタードライバーはエプソンのウェブサイトからダウンロードできます。
<https://www.epson.jp>
2. 名前を書き換えたファイルを右クリックし、[すべて展開] をクリックしてzipファイルを解凍します。
3. プrintサーバーのコンピュータで [コントロールパネル] - [デバイスとプリンター] の順に選択します。

- 共有したいプリンターアイコン（プリントキュー）を右クリックして、[プリンターのプロパティ] – [共有] タブを選択します。
- [追加ドライバー] をクリックします。
Windows Server 2012をお使いの場合は、共有オプションの変更をクリックしてから設定してください。
- クライアントコンピューターのWindowsバージョン（プロセッサタイプ）を選択して、OKをクリックします。
- 図の画面が表示されたら [参照] ボタンをクリックし、手順2で解凍したフォルダーを選択してWINX**フォルダー内にある情報ファイル (*.INF) を選択します。



INFファイルが複数表示されている場合、選択するファイルはどれでも構いません。

- [OK] をクリックしてインストールを開始します。

関連情報

➔ [「共有プリンターを使う - Windows」 30ページ](#)

共有プリンターを使う - Windows

プリンターの管理者は、クライアントコンピューターへのプリンター追加手順としてプリントサーバーに設定したコンピューター名をクライアントに連絡してください。追加ドライバーが設定されていない環境では、[デバイスとプリンター] からプリンターを追加する手順を案内してください。

以下は、プリントサーバーに追加ドライバーが設定されている場合の手順です。

- プリントサーバーのコンピューター名を [エクスプローラー] で開きます。
- 利用したいプリンターをダブルクリックします。

関連情報

➔ [「プリンターを共有する \(Windowsのみ\)」 29ページ](#)

➔ 「追加ドライバーをインストールする (Windowsのみ) 」 29ページ

ピアツーピア型接続での印刷設定

ピアツーピア型接続 (直接印刷) の場合、プリンターとクライアントコンピューターは一对一の関係になります。プリンターを使用するそれぞれのコンピューターにプリンタードライバーをインストールします。

関連情報

➔ 「プリンタードライバーを設定する」 31ページ

プリンタードライバーを設定する

小規模なネットワークの場合、それぞれのクライアントコンピューターでプリンタードライバーをインストールすることをお勧めします。エプソンのウェブサイトまたはソフトウェアディスクからインストーラーを起動します。

参考 たくさんのクライアントコンピューターからプリンターを使用する場合は、EpsonNet SetupManagerを使ってドライバーをパッケージして配布すると、インストール作業を大幅に軽減できます。

1. インストーラーを起動します。

- ウェブサイトから起動する
以下のウェブサイトアクセスして、製品名を入力します。 [セットアップ] に進み、ソフトウェアをダウンロードして起動します。
<http://epson.sn>
- ソフトウェアディスクから起動する (製品にソフトウェアディスクが同梱されていて、それを使用できる場合のみ)
ソフトウェアディスクをコンピューターにセットします。

2. 接続方法を選択して、[次へ] をクリックします。



参考 [ソフトウェアの変更と再接続方法を選択してください] 画面が表示されたら、[プリンターの再セットアップ (無線LANルーターが替わった場合など)] を選択して [次へ] をクリックしてください。

3. この後は、画面の指示に従って操作します。

関連情報

➔ [「EpsonNet SetupManager」 109ページ](#)


ユーザー用紙設定を編集する

ユーザー用紙設定の編集ができます。編集したユーザー用紙設定はプリンターのパネルから呼び出して使用できます。

1. Web Configで [印刷] タブ - [ユーザー用紙設定] を選択します。
2. 登録する番号の横の○を選択して、[編集] をクリックします。
3. 各項目を設定します。
 - ユーザー用紙名
登録するユーザー用紙設定の名称を入力します。ここで登録した名称が用紙種類のリストに表示されます。
 - 参照用紙種類
使用する用紙に最も近い用紙種類を選択します。

- プラテンギャップ設定
プラテンギャップ（プリントヘッドと用紙の間隔）を設定します。
参照用紙種類で選択した用紙種類のプラテンギャップに設定されるため、通常は変更する必要はありません。
印刷結果がこすれて汚れるときは、広げる設定（数値が大きい設定値）に変更してください。
- 先端/後端余白
印刷領域の余白を設定します。左右の余白はどの設定にしても3mmです。印刷結果の先端部分に汚れが出る
ときは、先端の余白が広い設定にしてください。
- 吸着力
用紙とプリントヘッドの距離を適正に保つために、用紙に合った吸着力を設定します。薄い用紙や柔らかい用
紙は吸着力が強すぎると、プリントヘッドと用紙の距離が広くなりすぎ印刷品質が低下する、または正しく用
紙が送られないことがあります。そのようなときは吸着力を弱めます。設定値が小さくなるほど吸着力が弱く
なります。お使いの機種によって、この項目が無い場合があります。
- バックテンション
用紙の張りを調整します。印刷中に用紙にしわが発生するときは、[高い] や [より高い] に設定してくださ
い。
- パスごとの乾燥時間
用紙によってインクが乾燥しにくいことがあります。インクの乾燥を補助するためにプリントヘッドの移動
（パス）を停止させる時間を設定します。印刷結果にインク垂れやにじみが起きるときは、乾燥時間を長めに
設定してください。時間を長く設定するほど、印刷時間が長くなります。
- ページごとの乾燥時間
インク濃度や用紙によっては、インクが乾燥しにくいことがあります。1ページ印刷後にインクが乾燥するまで
用紙送りを停止する時間を設定します。印刷結果にインク垂れやにじみが起きるときは、乾燥時間を長めに設
定してください。時間を長く設定するほど、印刷時間は長くなります。
- 用紙幅検出
用紙セット時に用紙幅を検出する/しないを選択します。用紙を正しくセットしていても、用紙設定エラーが表示
されるときは [オフ] に設定して印刷してみてください。ただし、[オフ] で印刷すると用紙外に印刷され
ることがあります。変更した設定は、用紙をセットし直すとは有効になります。お使いの機種によって、この項
目が無い場合があります。
- 自動カット
ロール紙で1ページ印刷するごとに自動的にカットする/しないを選択します。[オン] にすると、用紙セット
時に先端が水平でないときの先端カットも自動で行います。プリンタードライバーを介して印刷するときは、
プリンタードライバーの設定が優先されます。
- 斜め給紙軽減動作
斜め給紙を軽減する動作をさせる/させないを選択します。お使いの機種によって、この項目が無い場合があり
ます。

4. 設定内容を確認して、[設定] をクリックします。

 ユーザー用紙設定は、設定ファイルとしてエクスポートしたり、インポートしたりすることができます。同じプリンターを複数台導入していて共通のユーザー用紙設定を使いたいときに便利です。

サーバーや共有フォルダーを設定する

メールや共有フォルダーを利用するスキャンなどの機能を使用する場合に必要なサーバーや共有フォルダーを設定します。

関連情報

➔ [「サーバーと各機能の関連」 34ページ](#)

サーバーと各機能の関連

プリンターの機能とサーバーや共有フォルダーの関係は以下の通りです。
それぞれの機能を使用する場合はサーバーや共有フォルダーを設定してください。

	メールサーバー	FTPサーバー	ファイルサーバー (共有フォルダー)
スキャン to メール機能	○		
スキャン to FTP機能		○	
スキャン to フォルダー機能			○
メール通知	○		

関連情報

➔ [「メールサーバーを設定する」 34ページ](#)

➔ [「共有フォルダー設定」 38ページ](#)

メールサーバーを設定する

Web Configを使ってメールサーバーを設定します。
メールサーバーを設定してプリンターがメール送信できるようになると、以下が実現できます。

- メールを利用してスキャン結果を転送する
- プリンターから通知メールの受け取り

設定の前に以下を確認してください。

- プリンターがメールサーバーにアクセスできるネットワークに接続されているか
- プリンターと同じメールサーバーを使用するコンピューターのメール設定情報

- 参考**
- インターネット上のメールサーバーを利用する場合は、サービスを提供しているプロバイダーやウェブサイトから設定情報を確認してください。
 - プリンターの操作パネルを使っても設定できます。メニューは以下の通りです。
[設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] - [詳細設定] - [メールサーバー] - [サーバー設定] .

1. Web Configで [ネットワーク] タブ - [メールサーバー] - [基本] を選択します。
2. 各項目を設定します。
3. [設定] を選択します。

設定結果が表示されます。

設定が終了したら、接続確認をしてください。

関連情報

- ➔ 「メールサーバーとの接続を確認する」 36ページ
- ➔ 「メールサーバー設定項目」 35ページ
- ➔ 「Web Configの起動」 26ページ

メールサーバー設定項目

EPSON L3110 Series

情報確認 印刷 スキャンコピー ファクス ネットワーク ネットワークセキュリティ 本体セキュリティ デバイス管理 Epson Open Platform

ネットワーク基本
無線LAN
有線LAN
Wi-Fi Direct
メールサーバー
➔基本
➔接続確認
LDAPサーバー
➔基本
➔検索設定
➔接続確認
Kerberos設定
MS Network
Epson Connect設定
Google クラウド プリント設定

メールサーバー > 基本

メールサーバーのセキュア機能を使用するには証明書が必要です。
以下のページで設定してください。
・相手サーバー検証用CA証明書
・ルート証明書更新

認証方式:	SMTP認証
認証用アカウント:	XXXXXXXX
認証用パスワード:	*****
送信元アドレス:	epson@epsonetest.com
SMTPサーバーアドレス:	192.0.2.127
SMTPサーバーポート番号:	25
セキュア接続:	なし
証明書の検証:	<input checked="" type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効

証明書の検証を有効にすることをお勧めします。
無効にするとメールサーバーの安全性を確認せずに接続します。

POP3サーバーアドレス:	
POP3サーバーポート番号:	

設定

項目	設定値と説明	
認証方式	プリンターがメールサーバーにアクセスする際の認証方式を指定します。	
	認証しない	メールサーバーが認証を必要としない場合に設定します。
	SMTP認証	メール送信時にSMTPサーバー（メール送信サーバー）で認証をします。メールサーバーがSMTP認証に対応している必要があります。
	POP before SMTP	メール送信する前にPOP3サーバー（メール受信サーバー）で認証をします。選択した場合はPOP3サーバーの設定をしてください。

項目	設定値と説明	
認証用アカウント	<p>〔認証方式〕に〔SMTP認証〕または〔POP before SMTP〕を選択した場合、認証用のアカウント名を入力します。入力できる文字は、ASCII (0x20-0x7E) の255文字以内です。</p> <p>〔SMTP認証〕を選択した場合、SMTPサーバーの認証用アカウントを入力してください。〔POP before SMTP〕を選択した場合、POP3サーバーの認証用アカウントを入力してください。</p>	
認証用パスワード	<p>〔認証方式〕に〔SMTP認証〕または〔POP before SMTP〕を選択した場合、認証用のパスワードを入力します。入力できる文字はASCII (0x20-0x7E) の20文字以内です。</p> <p>〔SMTP認証〕を選択した場合、SMTPサーバーの認証アカウントのパスワードを入力してください。〔POP before SMTP〕を選択した場合、POP3サーバーの認証アカウントのパスワードを入力してください。</p>	
送信元アドレス	<p>システム管理者のアドレスなど送信元のメールアドレスを入力します。認証にも使用されるため、お使いのメールサーバーに登録されていて実際に送信できるアドレスを入力してください。入力できる文字は、: () < > [] ; ¥ を除くASCII (0x20-0x7E) で表せる255文字以内です。ただし、ピリオド (.) は先頭文字にできません。</p>	
SMTPサーバーアドレス	A～Z a～z 0～9 . - を使用し、255文字以内で入力します。IPv4形式とFQDN形式での入力が可能です。	
SMTPサーバー ポート番号	1～65535までの範囲で、半角数字で入力します。	
セキュア接続	メールサーバーとの通信の暗号化方式を選択します。	
	なし	〔認証方式〕で〔POP before SMTP〕を選択した場合は暗号化しません。
	SSL/TLS	〔認証方式〕で〔認証しない〕または〔SMTP認証〕を選択したときに選択できます。通信の開始から暗号化します。
	STARTTLS	〔認証方式〕で〔認証しない〕または〔SMTP認証〕を選択したときに選択できます。通信の開始は暗号化せず、受信環境によってその後の通信を暗号化するかが変わります。
証明書の検証	有効にするとメールサーバーの証明書の正当性をチェックします。〔有効〕にすることをお勧めします。設定するには、相手サーバー検証用CA証明書をプリンターにインポートする必要があります。	
POP3サーバーアドレス	〔認証方式〕に〔POP before SMTP〕を選択した場合、POP3サーバーアドレスを入力します。入力できる文字は、A～Z a～z 0～9 . - で、255文字以内です。IPv4形式とFQDN形式での入力が可能です。	
POP3サーバー ポート番号	〔認証方式〕で〔POP before SMTP〕を選択した場合にポート番号を指定します。入力できる文字は、1～65535の範囲で、半角数字で入力します。	

関連情報

➔ [「メールサーバーを設定する」34ページ](#)

メールサーバーとの接続を確認する

メールサーバーとの接続確認ができます。

1. Web Configで〔ネットワーク〕タブ - 〔メールサーバー〕 - 〔接続確認〕を選択します。

2. **【確認開始】** を選択します。

メールサーバーとの接続診断が開始されます。接続テストが終了すると結果が表示されます。



プリンターの操作パネルを使っても設定できます。メニューは以下の通りです。

[設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] - [詳細設定] - [メールサーバー] - [コネクションテスト]

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「メールサーバー接続確認結果」 37ページ](#)

メールサーバー接続確認結果

メッセージ	原因
接続に成功しました。	サーバーとの接続に成功した場合に表示されます。
SMTPサーバーとの通信でエラーが発生しました。以下を確認してください。・ネットワーク設定	以下のような場合に通信エラーが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • プリンターがネットワークに接続されていない • SMTPサーバーがダウンしている • 通信中にネットワークが切断された • 異常なデータを受信した
POP3サーバーとの通信でエラーが発生しました。以下を確認してください。・ネットワーク設定	以下のような場合に通信エラーが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • プリンターがネットワークに接続されていない • POP3サーバーがダウンしている • 通信中にネットワークが切断された • 異常なデータを受信した
SMTPサーバーとの接続に問題があります。以下を確認してください。・SMTPサーバーアドレス・DNSサーバー	以下のような場合に通信エラーが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • DNSサーバーとの接続に失敗した • SMTPサーバーアドレスの名前解決に失敗した
POP3サーバーとの接続に問題があります。以下を確認してください。・POP3サーバーアドレス・DNSサーバー	以下のような場合に通信エラーが表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> • DNSサーバーとの接続に失敗した • POP3サーバーアドレスの名前解決に失敗した
SMTPサーバーの認証に失敗しました。以下を確認してください。・認証方式・認証用アカウント・認証用パスワード	SMTPサーバーでの認証処理に失敗したときに表示されます。
POP3サーバーの認証に失敗しました。以下を確認してください。・認証方式・認証用アカウント・認証用パスワード	POP3サーバーでの認証処理に失敗したときに表示されます。
サポートしていない通信方式です。以下を確認してください。・SMTPサーバーアドレス・SMTPサーバーポート番号	プリンターがサポートしていないプロトコルで通信しようとした場合に表示されません。

メッセージ	原因
SMTPサーバーとの接続に失敗しました。セキュア接続をなしに変更してください。	サーバーとクライアントでSMTPセキュア接続の設定が合っていない、またはサーバーがSMTPセキュア接続（SSL接続）をサポートしていない場合に表示されます。
SMTPサーバーとの接続に失敗しました。セキュア接続をSSL/TLSに変更してください。	サーバーとクライアントでSMTPセキュア接続の設定が合っていない、またはサーバーがSMTPセキュア接続にSSL/TLS接続することを要求してきている場合に表示されます。
SMTPサーバーとの接続に失敗しました。セキュア接続をSTARTTLSに変更してください。	サーバーとクライアントでSMTPセキュア接続の設定が合っていない、またはサーバーがSMTPセキュア接続にSTARTTLS接続することを要求してきている場合に表示されます。
サーバーの安全性が確認できませんでした。以下を確認してください。・日付/時刻	プリンターの日時設定が正しくない、またはサーバーに対応するルート証明書は保有しているが、期限切れの場合に表示されます。
サーバーの安全性が確認できませんでした。以下を確認してください。・相手サーバー検証用CA証明書	サーバーに対応するルート証明書をプリンターが保有していない、または相手サーバー検証用CA証明書がインポートされていない場合に表示されます。
サーバーの安全性が確認できませんでした。	サーバーから取得した証明書が壊れている場合などに表示されます。
SMTPサーバーの認証に失敗しました。認証方式をSMTP認証に変更してください。	サーバーとクライアントで認証方式が一致していない場合に表示されます。サーバーはSMTP認証をサポートしているのに、プリンターはSMTP認証を実行していません。
SMTPサーバーの認証に失敗しました。認証方式をPOP before SMTPに変更してください。	サーバーとクライアントで認証方式が一致していない場合に表示されます。サーバーはSMTP認証をしていないのに、プリンターはSMTP認証を実行しようとしています。
送信元アドレスが正しくありません。お使いのメールサービスで取得したアドレスに変更してください。	送信元アドレスの指定が間違っていた場合に表示されます。
プリンターが処理動作中のためアクセスできません。	プリンターが動作中で接続設定ができなかったときに表示されます。

関連情報

- ➡ [「メールサーバーとの接続を確認する」36ページ](#)

共有フォルダー設定

スキャンの結果を保存するための共有フォルダーを設定します。

プリンターは共有フォルダーのあるコンピューターに、コンピューターのユーザーとしてログオンしてファイルを書き込みます。

共有フォルダーと一緒にMS Networkを設定してください。

ここで設定した共有フォルダーは、スキャンの宛先として指定できます。

共有フォルダーの作成

共有フォルダーを作成する前に


共有フォルダーの作成前に以下を確認してください。

- プリンターが共有フォルダーを作成するコンピューターにアクセスできるネットワークに接続されているか
- 共有フォルダーを作成するコンピューターの名前にマルチバイト文字が使用されていないか

！重要 コンピューター名にマルチバイト文字が含まれていると、共有フォルダーへのファイル保存が失敗する可能性があります。その場合、コンピューター名にマルチバイト文字が含まれていないコンピューターに変更するか、コンピューター名を変更してください。コンピューター名を変更する場合、コンピューターの管理やリソースへのアクセスに影響が出る可能性がありますので、必ずシステムの管理者に確認してから行ってください。

ネットワークプロファイルの確認

共有フォルダーを作成するコンピューターで、フォルダーの共有が可能かどうか確認します。

1. 共有フォルダーを作成するコンピューターへ管理者権限のユーザーアカウントでログオンします。
2. [コントロール パネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] を選択します。
3. [共有の詳細設定] をクリックし、表示されたネットワークプロファイルから [(現在のプロファイル)] とあるプロファイルの  をクリックします。
4. [ファイルとプリンターの共有] で [ファイルとプリンターの共有を有効にする] が選択されているか確認します。
選択されている場合は、[キャンセル] をクリックして画面を閉じます。
変更した場合は、[変更の保存] をクリックして画面を閉じます。

共有フォルダーの作成場所とセキュリティの例

共有フォルダーを作成する場所によって、セキュリティや利便性が変わります。

プリンターや他のコンピューターから共有フォルダーを扱うには、以下の両方でフォルダーの読み取りや変更の権限が必要です。

- [共有] タブ - [詳細な共有] - [アクセス許可] の共有アクセス許可
ネットワーク経由のアクセスを制御します。
- [セキュリティ] タブのアクセス許可
ネットワークとローカルからのアクセスを制御します。

以下のデスクトップに共有フォルダーを作成した例で、共有フォルダーの [共有アクセス許可] に [Everyone] を設定すると、ネットワーク経由で共有フォルダーにアクセスできる全てのユーザーにアクセス許可を与えることになります。

しかし、デスクトップはユーザーフォルダーの配下にあるフォルダーのため、ユーザーフォルダーのローカルアクセスのセキュリティ設定が継承されて、ユーザーフォルダーにアクセス許可のないユーザーはアクセスできません。[セキュリティ] でアクセス許可が設定されているユーザーやグループ（この場合はコンピューターのログオンユーザーと Administrator）がフォルダーにアクセスできます。

以下の例を参考に適切な場所に共有フォルダーを作成してください。

ここでは「scan_folder」というフォルダーの作成を例に説明します。

ファイルサーバー向けの設定例

ここでは、以下の環境条件でファイルサーバーなど共有コンピューターのドライブのルートに共有フォルダーを作成することを例に説明します。

共有フォルダーを作成するコンピューターと同じドメインなどアクセス制御できるユーザーがアクセスできます。

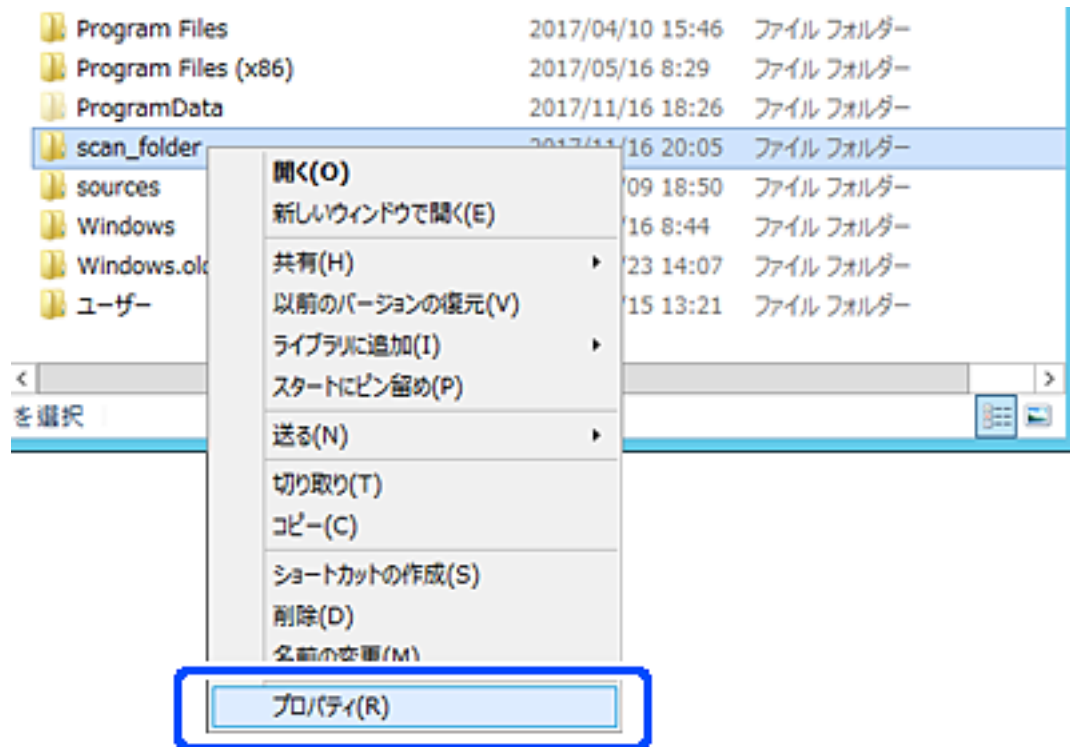
ファイルサーバーや共有のコンピューターなどを設置していて、組織内の誰にでも自由な読み書きを許可する場合に設定してください。

- フォルダー作成場所：ドライブ直下
- フォルダパス：C:\scan_folder
- ネットワーク経由のアクセス設定（共有アクセス許可）：Everyone
- ファイルシステムのアクセス設定（セキュリティ）：Authenticated Users

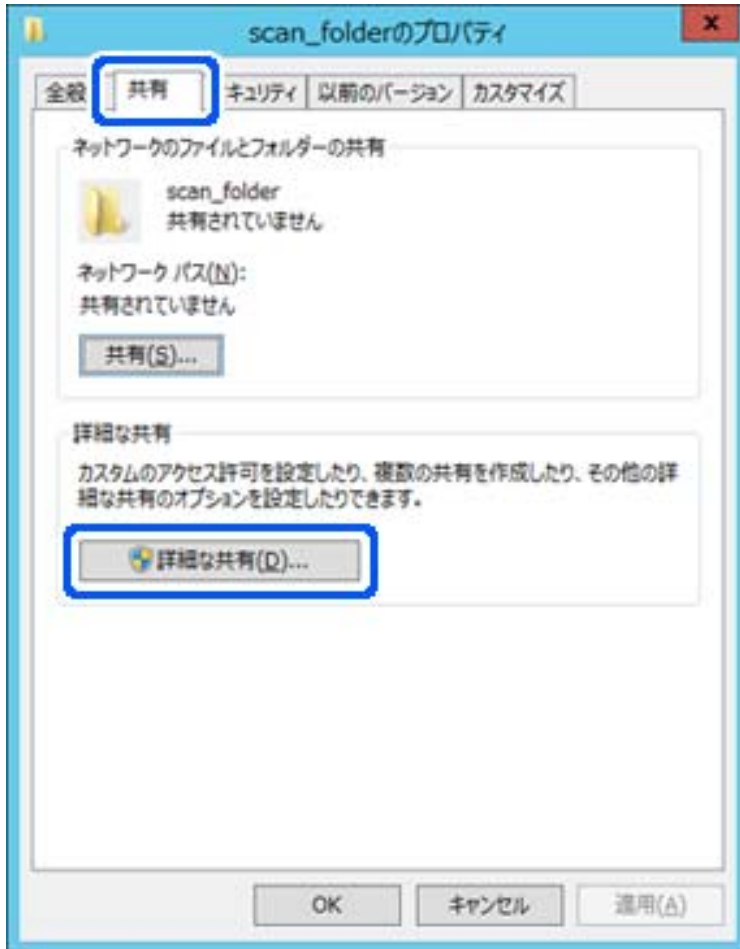
1. 共有フォルダーを作成するコンピューターへ管理者権限のユーザーアカウントでログオンします。
2. エクスプローラーを起動します。
3. Cドライブのルートにフォルダーを作成し「scan_folder」と名前を付けます。

フォルダー名は、半角英数字12文字以内で入力してください。文字数を超えると、お使いの環境によっては正常にアクセスできないことがあります。

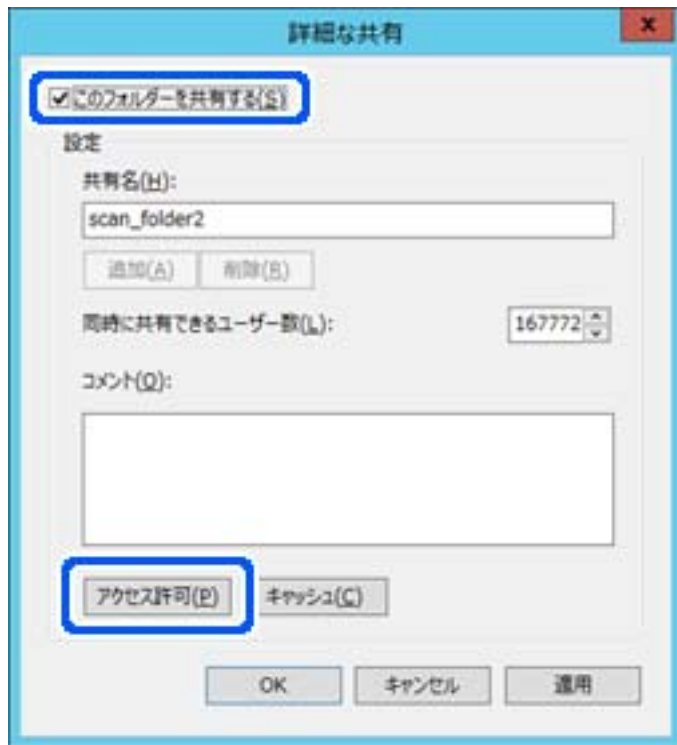
4. フォルダを右クリックして「プロパティ」を選択します。



5. [共有] タブで [詳細な共有] をクリックします。



6. [このフォルダーを共有する] にチェックを入れ、 [アクセス許可] をクリックします。

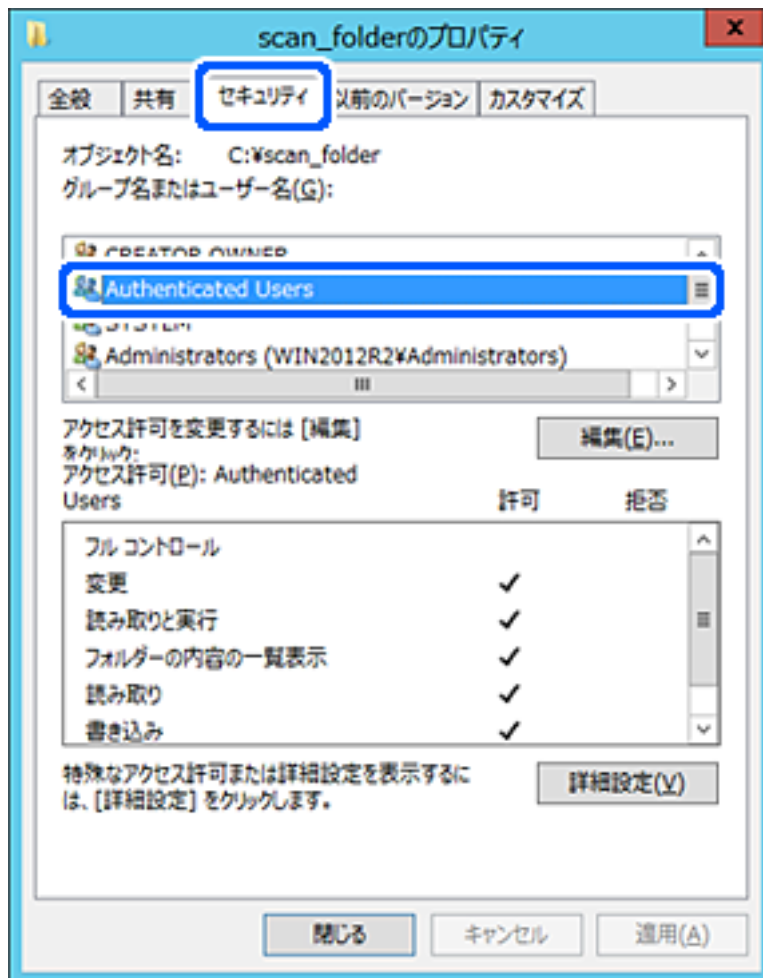


7. [グループ名またはユーザー名] の [Everyone] グループを選択し、[変更] の [許可] にチェックを入れて [OK] をクリックします。



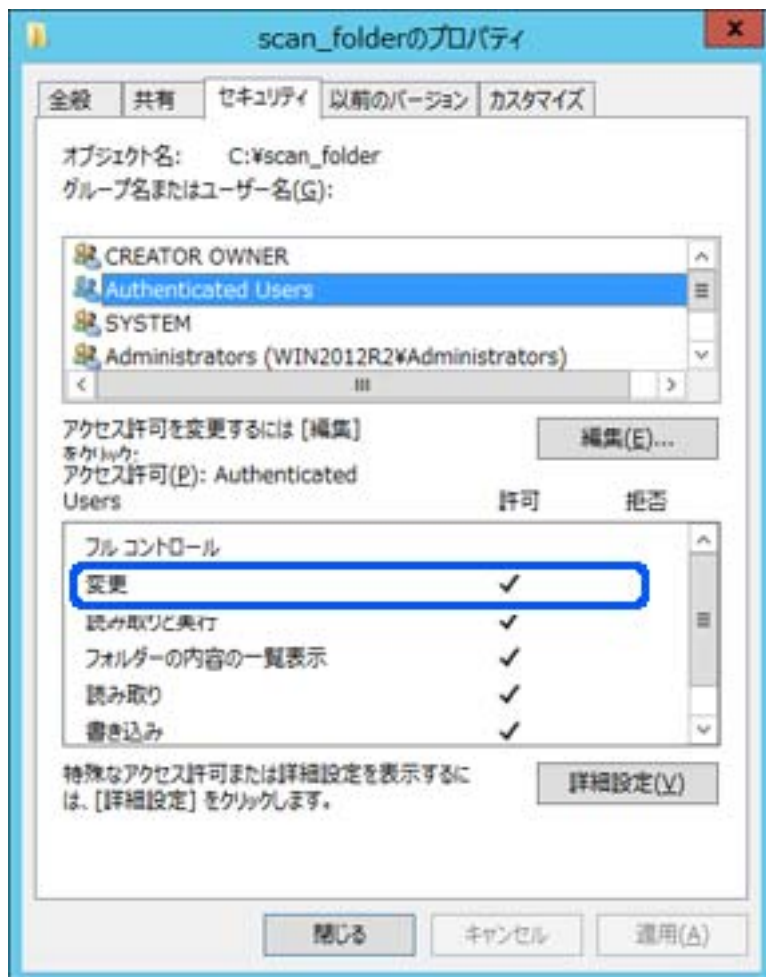
8. [OK] をクリックします。

9. [セキュリティ] タブを選択し、[グループ名またはユーザー名] にある [Authenticated Users] を選択します。



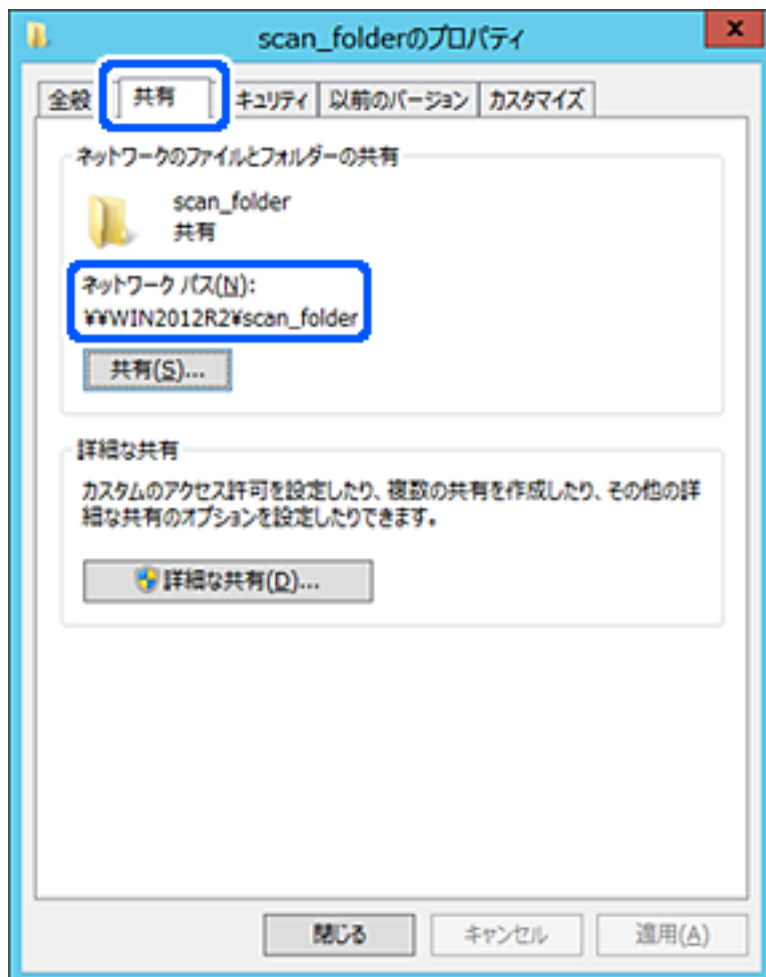
「Authenticated Users」はドメインやコンピューターにログオンできる全てのユーザーが含まれるグループです。ドライブ直下にフォルダーを作成した場合に表示される特殊グループです。表示されていない場合は [編集] から追加できます。詳しくは「関連情報」にあるトピックをご覧ください。

10. [Authenticated Usersのアクセス許可] にある [変更] の [許可] にチェックがあることを確認します。
チェックがない場合は [Authenticated Users] を選択して [編集] をクリックし、[アクセス許可] で [変更] の [許可] にチェックを入れ、[OK] をクリックします。



11. [共有] タブを選択します。

共有フォルダーのネットワークパスが表示されます。このパスをプリンターのアドレス帳の登録で使します。メモやコピーをしておいてください。



12. [OK] または [閉じる] をクリックして、画面を閉じます。

同じドメインネットワークのコンピューターから、共有フォルダーにファイルが読み書きできるか確認してください。

関連情報

➔ [「アクセス許可をするグループやユーザーを追加する」 53ページ](#)

個人のコンピューター向けの設定例

ここでは、ログオンしているユーザーのデスクトップに共有フォルダーを作成することを例に説明します。デスクトップやドキュメントフォルダーなどユーザーフォルダー配下のフォルダーは、ログオンしたユーザーとコンピューターの管理者権限を持つユーザーがアクセスできます。

個人のコンピューターにスキャン結果を保存し、ネットワーク経由で他のユーザーに閲覧やコピー、削除などを許可しない場合に設定してください。

- フォルダー作成場所：デスクトップ
- フォルダーパス：C:¥Users¥xxxx¥Desktop¥scan_folder

- ネットワーク経由のアクセス設定（共有アクセス許可）：Everyone
- ファイルシステムのアクセス設定（セキュリティ）：追加しない、または個別にアクセスを許可するユーザーまたはグループ

1. 共有フォルダーを作成するコンピューターへ管理者権限のユーザーアカウントでログオンします。

2. エクスプローラーを起動します。

3. デスクトップにフォルダーを作成し「scan_folder」と名前を付けます。

フォルダー名は、半角英数字12文字以内で入力してください。文字数を超えると、お使いの環境によっては正常にアクセスできないことがあります。

4. フォルダーを右クリックして【プロパティ】を選択します。



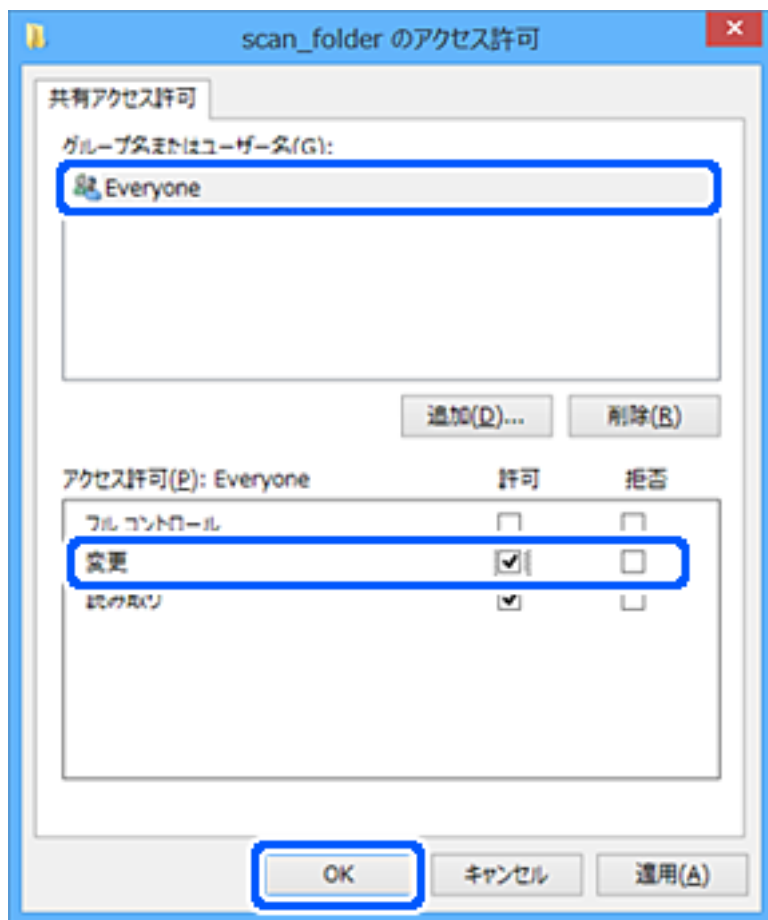
5. [共有] タブの画面で [詳細な共有] をクリックします。



6. [このフォルダーを共有する] にチェックを入れ、 [アクセス許可] をクリックします。

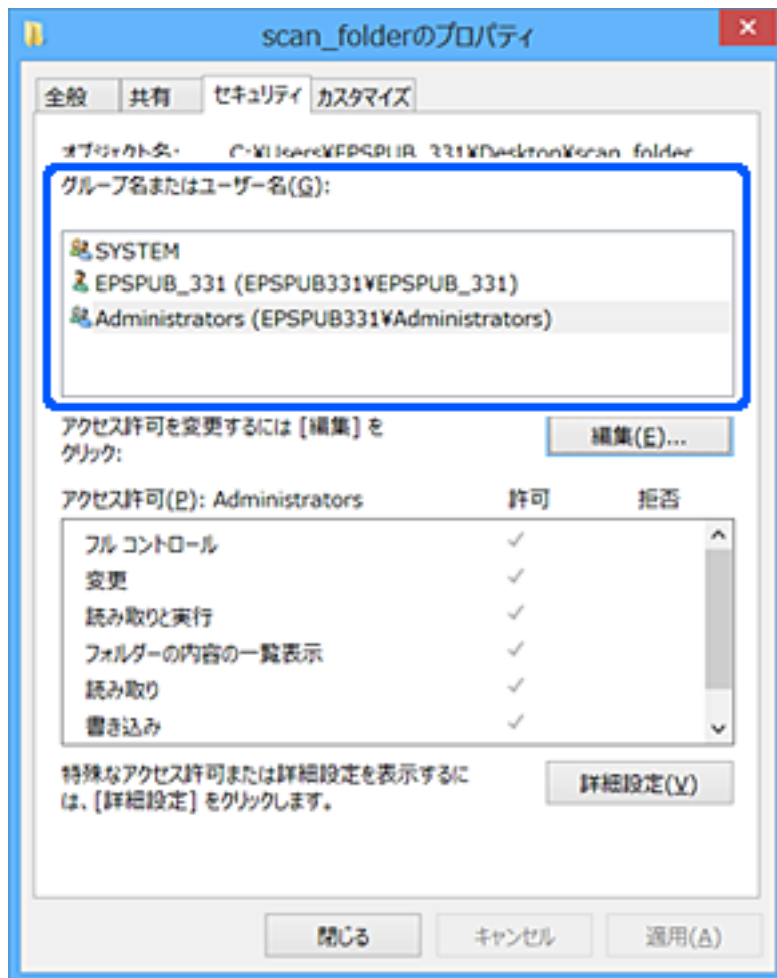


7. [グループ名またはユーザー名] の [Everyone] グループを選択し、[変更] の [許可] にチェックを入れて [OK] をクリックします。



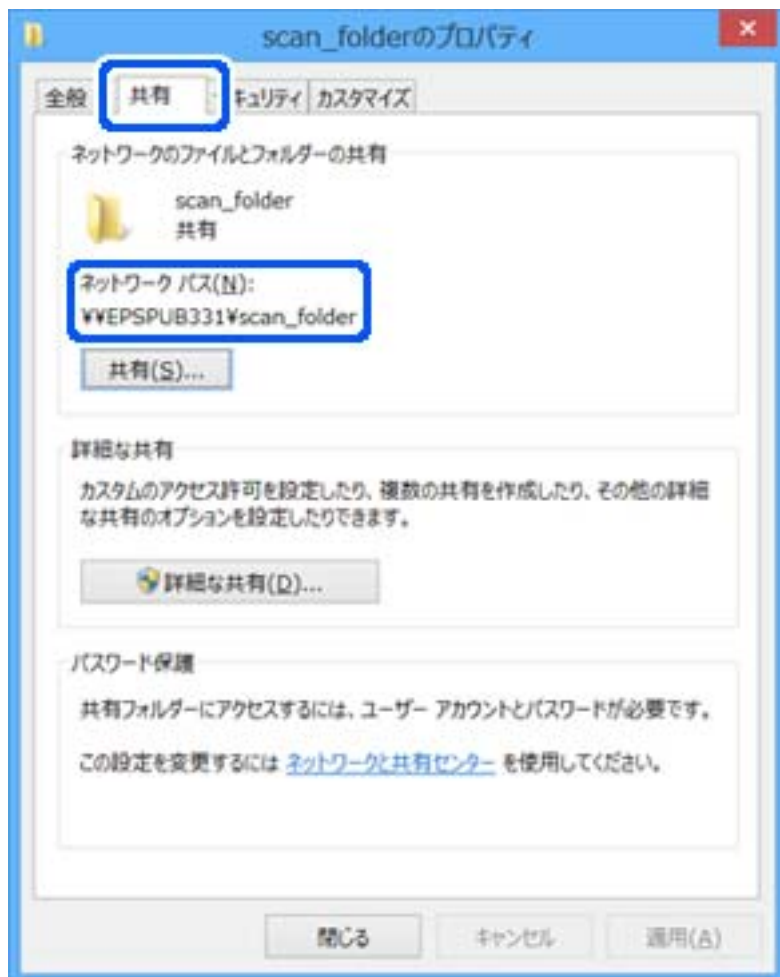
8. [OK] をクリックします。
9. [セキュリティ] タブを選択します。
10. [グループ名またはユーザー名] にあるグループまたはユーザーを確認します。
ここに表示されているグループまたはユーザーが共有フォルダーにアクセスできます。
この場合はこのコンピューターにログオンしているユーザーとAdministratorが共有フォルダーにアクセスできます。

必要に応じてアクセス許可を追加してください。アクセス許可は [編集] から追加できます。詳しくは「関連情報」にあるトピックをご覧ください。



11. [共有] タブを選択します。

共有フォルダーのネットワークパスが表示されます。このパスをプリンターのアドレス帳の登録で使します。メモやコピーをしておいてください。



12. [OK] または [閉じる] をクリックして、画面を閉じます。

アクセスを許可したユーザーまたはグループのコンピューターから、共有フォルダーにファイルが読み書きできるか確認してください。

関連情報

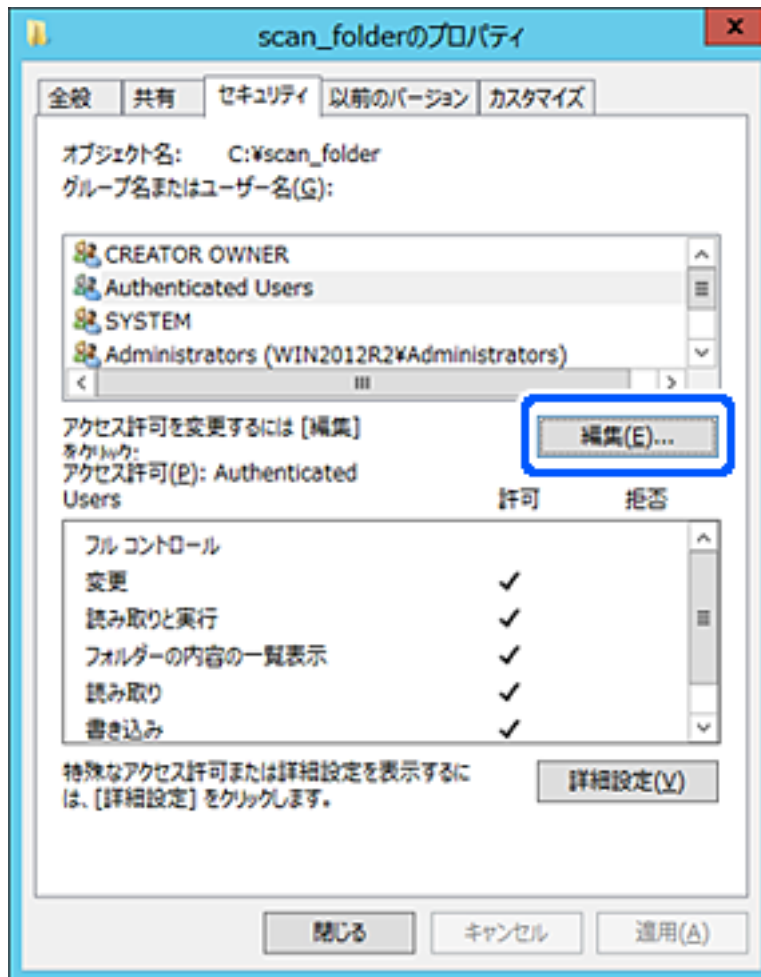
➔ [「アクセス許可をするグループやユーザーを追加する」](#) 53ページ

アクセス許可をするグループやユーザーを追加する

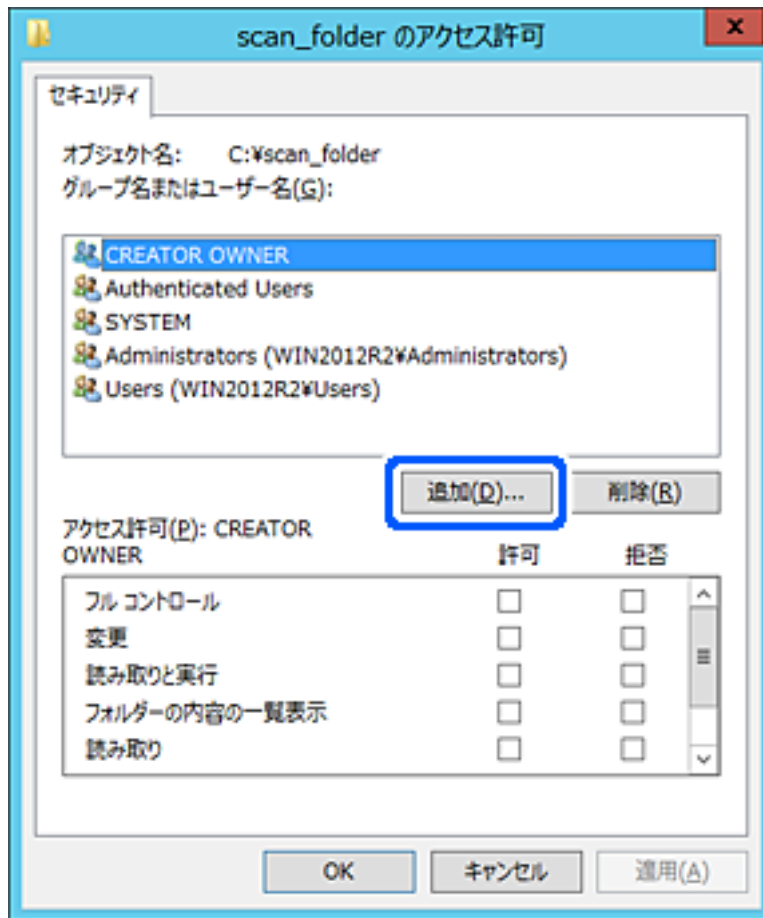
以下の手順で共有フォルダーにアクセスを許可するグループやユーザーを追加できます。

1. フォルダーを右クリックして [プロパティ] を選択します。
2. [セキュリティ] タブを選択します。

3. [編集] をクリックします。

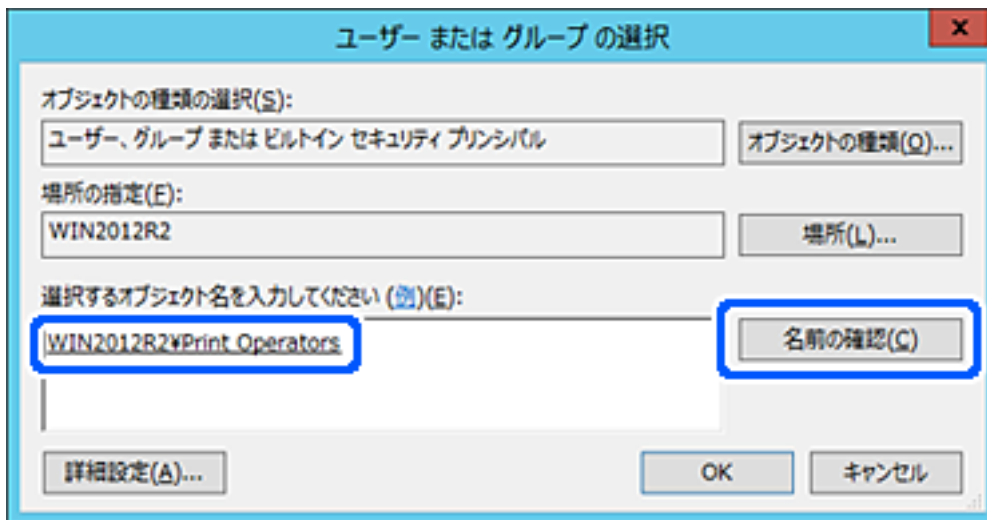


4. [グループ名またはユーザー名] の下の [追加] をクリックします。



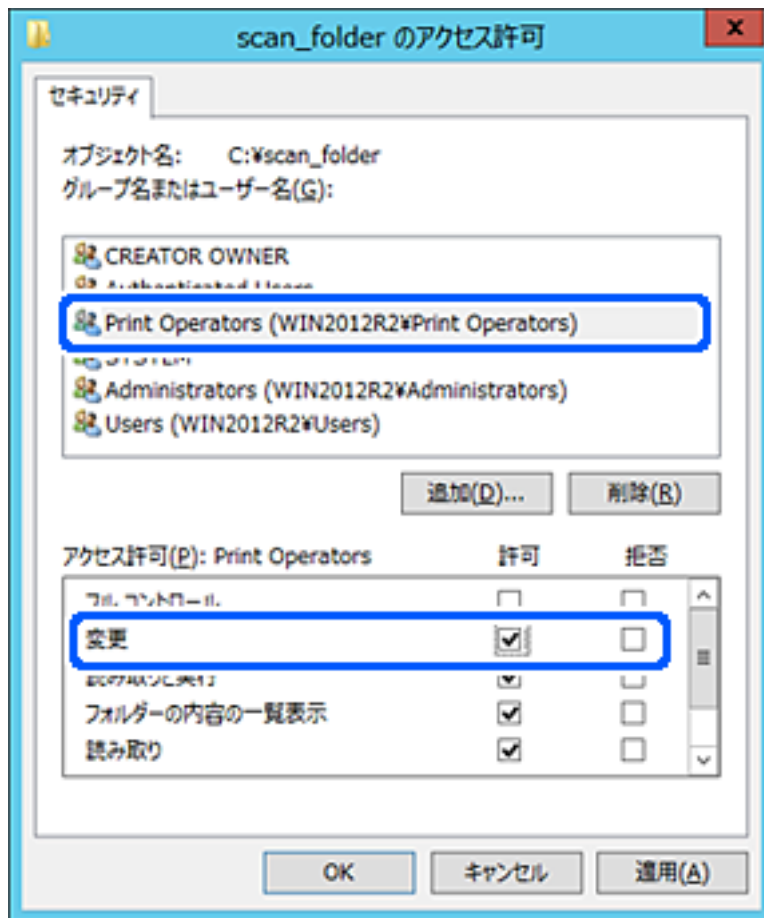
5. アクセスを許可したいグループやユーザー名を入力し、[名前の確認] をクリックします。
名前に下線が入ります。

- 参考** グループやユーザーの完全な名前がわからない場合は、名前の一部を入力して「名前の確認」をクリックしてください。名前の一部が合致するグループやユーザー名が一覧表示され、そこから選択することができます。一つだけ合致した場合は、「選択するオブジェクト名を入力してください」に下線が入った完全な名前が表示されません。



6. [OK] をクリックします。

7. アクセス許可の画面で、[グループ名またはユーザー名] に入力したユーザー名を選択して [変更] のアクセス許可にチェックを入れ、[OK] をクリックします。



8. [OK] または [閉じる] をクリックして、画面を閉じます。

アクセスを許可したユーザーまたはグループのコンピューターから、共有フォルダーにファイルが読み書きできるか確認してください。

関連情報

- ➔ [「アドレス帳を使う」58ページ](#)

Microsoftネットワーク共有を使用する

有効にすると、以下が実現できます。

- プリンターに接続しているUSBストレージをネットワークで共有
- コンピューターの共有フォルダーにスキャン結果を転送

1. Web Configで [ネットワーク] タブ - [MS Network] を選択します。
2. [Microsoftネットワーク共有を使用する] を選択します。
3. 各項目を設定します。

4. [次へ] をクリックします。
5. 設定内容を確認して [設定] をクリックします。
6. コンピューターからエクスプローラーのURL欄に以下のように入力し、Enterキーを押します。
共有名のネットワークフォルダーがあり、アクセスできるか確認してください。
¥¥プリンターのIPアドレス
設定例：¥¥192.0.2.111

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

MS Networkの設定項目

項目	説明
Microsoftネットワーク共有を使用する	MS Network共有を有効にする場合はチェックを入れます。
ホスト名	プリンターのMS Network ホスト名が表示されます。変更するには、[ネットワーク] タブ - [ネットワーク基本] の [デバイス名] を変更してください。
ワークグループ	MS Networkのワークグループ名を入力します。入力できる文字は、ASCII文字で15文字以内です。

アドレス帳を使う

宛先設定の概要

プリンターのアドレス帳をスキャンの宛先に利用できます。

参考 メール送信機能を使うには、メールサーバーの設定が必要です。

関連情報

- ➔ [「アドレス帳の設定」 58ページ](#)
- ➔ [「メールサーバーを設定する」 34ページ](#)

アドレス帳の設定

アドレス帳に登録できる宛先の種類は以下です。

- [メール] :メールの宛先です。
- [ネットワークフォルダー (SMB)]、[FTP] :スキャンデータの保存先です。

設定ツールによる宛先設定機能差

アドレス帳の宛先は、Web ConfigやEpson Device Admin、プリンターの操作パネルから設定できます。ただし、設定できる項目が異なります。

機能	Web Config	Epson Device Admin	操作パネル
宛先登録	○	○	○
宛先編集	○	○	○
グループ登録	○	○	○
グループ編集	○	○	○
宛先やグループの削除	○	○	○
宛先の一括削除	○	○	-
ファイルのインポート	○	○	-
ファイルへエクスポート	○	○	-
常用の指定	○	○	○
常用の並べ替え	-	-	○

Web Configで宛先を登録する

参考 操作パネルからも設定できます。

1. Web Configの [スキャン/コピー] タブから [アドレス帳] を選択します。
2. 登録したい番号を選択して [編集] をクリックします。
3. 設定したい宛先の [登録名] と [検索名] を入力します。
4. 設定したい宛先の [種別] を選択します。

参考 登録後は [種別] を変更できません。登録後に種別の変更をしたい場合は、宛先を削除して再登録してください。

5. 各項目を設定して、 [適用] をクリックします。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「宛先の設定項目」 60ページ](#)
- ➔ [「設定のバックアップ」 84ページ](#)

宛先の設定項目

EPSON L3110 Series

情報確認 印刷 スキャンコピー **ファクス** ネットワーク ネットワークセキュリティ 本体セキュリティ デバイス管理 Epson Open Platform

送信設定
 >基本
 >特検文書送信ボックス
 >ポーリング送信ボックス
 >通知ボックス

受信設定
 >基本
 >受信ファクスの処理
 >条件出力設定
 >迷惑ファクス防止設定
 >受信ボックス
 >親類ボックス

レポート設定
 印刷設定
 セキュリティ設定
アドレス帳
 お気に入り
 ユーザーデフォルト設定
 >ファクス

アドレス帳

番号: 2

登録名:

検索名:

種別:

常用指定: する しない

ファクス番号:

ファクス送信モード:

Fコード(SUBSEP):

パスワード(SIDPWD):

項目	設定値と説明
共通設定	
登録名	アドレス帳に表示する名称をUnicode (UTF-8) で表せる30文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。
検索名	検索に使われる名称をUnicode (UTF-8) で表せる30文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。
種別	登録するアドレスの種別を選択します。
常用指定	チェックを付けると登録したアドレスを常用にします。常用に設定すると、スキャンのトップ画面に表示され、アドレス帳を開かなくても宛先を指定できます。
メール	
メールアドレス	A~Z a~z 0~9 ! # \$ % & ' * + - . / = ? ^ _ { } ~ @を使用し、255文字以内の半角で入力します。
ネットワークフォルダー (SMB)	

項目	設定値と説明
保存先	¥¥ “フォルダーパス” 保存先フォルダーにする位置を” ¥¥” を除いて、Unicode (UTF-8) で表せる1～253文字以内で入力します。 ブラウザによっては、円マークがバックスラッシュで表示されることがあります。
ユーザー名	ネットワークフォルダーにアクセスするためのユーザー名をUnicode (UTF-8) で表せる30文字以内で入力します。ただし、制御文字 (0x00～0x1f, 0x7F) を除きます。
パスワード	ネットワークフォルダーにアクセスするためのパスワードをUnicode (UTF-8) で表せる20文字以内で入力します。ただし、制御文字 (0x00～0x1f, 0x7F) を除きます。
FTP	
セキュア接続	[FTPS] を選択するとセキュアで通信します。
保存先	ftp://“ホスト名”/“フォルダーパス” (ASCII (0X20-0X7E) で表せる1～253文字以内で入力します。ftp://は入力不要です。)
ユーザー名	FTPサーバーにアクセスするためのユーザー名をUnicode (UTF-8) で表せる30文字以内で入力します。ただし、制御文字 (0x00～0x1f, 0x7F) を除きます。匿名による接続を認めているサーバーではFTPやAnonymousなどを入力します。指定しない場合は空白にします。
パスワード	FTPサーバーにアクセスするためのパスワードをUnicode (UTF-8) で表せる20文字以内で入力します。ただし、制御文字 (0x00～0x1f, 0x7F) を除きます。指定しない場合は空白にします。
接続モード	メニューから接続モードを選択します。プリンターとFTPの間にファイアウォールがある場合は、[パッシブモード] を選択します。
ポート番号	FTPサーバーのポート番号を1～65535以内の数字で入力します。
証明書の検証	有効にするとFTPサーバーの証明書の正当性をチェックします。[セキュア接続] が [FTPS] のときに選択できます。 設定するには、相手サーバー検証用CA証明書をプリンターにインポートする必要があります。

関連情報

➔ [「Web Configで宛先を登録する」59ページ](#)

宛先をグループに登録する

種別が [メール] の場合、複数の宛先をまとめてグループとして登録できます。

1. Web Configの [スキャン/コピー] タブから [アドレス帳] を選択します。
2. 登録したい番号を選択して [編集] をクリックします。
3. [種別] から登録したいグループを選択します。

4. [グループに入れる宛先] の [選択] をクリックします。
登録できる宛先が一覧表示されます。
5. グループに登録したいデータを選択して [選択] をクリックします。



6. [登録名] と [検索名] を入力します。
7. 登録するグループを常用にするかどうかを選択します。

参考 宛先は、複数のグループに登録できます。

8. [適用] をクリックします。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「設定のバックアップ」 84ページ](#)

アドレス帳のバックアップとインポート

アドレス帳は、Web Configやツールを使用してバックアップやインポートができます。

Web Configの場合、アドレス帳を含めてプリンター設定をエクスポートするとバックアップできます。バイナリーファイルでエクスポートされるので編集できません。

アドレス帳を含めてプリンター設定をインポートすると、アドレス帳を上書きします。

Epson Device Adminを使うと、デバイスのプロパティ画面からアドレス帳だけをエクスポートできます。また、パスワードなどセキュリティ項目を含めずにエクスポートするとSYLK形式やcsv形式に保存できるので、編集してからインポートできます。

スキャン機能を使う

プリンターの操作パネルを使ったスキャン機能を使用できるようにします。

操作パネルを使ってスキャンするには

プリンターの操作パネルを使ったスキャン to フォルダ機能やスキャン to メール機能、メールやフォルダなどへのスキャン結果の転送は、コンピューターからジョブを実行して行います。

関連情報

➔ [「サーバーやフォルダの設定」63ページ](#)

サーバーやフォルダの設定

機能名	設定	設定場所	必要なもの
スキャン to フォルダ機能 (SMB)	保存フォルダの作成と共有設定	保存先フォルダのあるコンピューター	保存フォルダを作成するコンピューターへの管理者権限ユーザーアカウント
	スキャン to フォルダ (SMB) の宛先	デバイス本体のアドレス帳	保存フォルダがあるコンピューターへログインするためのユーザー名、パスワード、保存フォルダへの書き込みの権利
スキャン to フォルダ機能 (FTP)	FTPサーバーログイン設定	デバイス本体のアドレス帳	保存先FTPサーバーへのログイン情報、保存フォルダへの書き込みの権利
スキャン to メール機能	メールサーバーの設定	デバイス本体	メールサーバーの設定情報

関連情報

➔ [「メールサーバーを設定する」34ページ](#)

システムの詳細を設定する

操作パネルの動作を設定する

プリンターの操作パネルに関する設定をします。以下の設定ができます。

1. Web Configで [デバイス管理] タブ - [パネル] を選択します。
2. 必要に応じて以下の項目を設定します。
 - 表示言語
操作パネルの表示言語を選択します。
 - パネルロック
[オン] にすると、操作パネルでシステム管理者権限が必要な項目は選択できなくなります。選択するにはプリンターに管理者としてログオンします。管理者パスワードを設定していないとパネルロックは無効になります。
 - 無操作タイマー設定
[オン] にすると、利用者制限の利用者またはシステム管理者としてログオンしている場合、設定した時間内に操作パネルの操作がなかったときに、自動でログオフして初期画面に移行します。
10秒～240分まで1秒単位で設定できます。

参考 プリンターの操作パネルからも設定できます。

- 表示言語： [設定] - [本体設定] - [基本設定] - [言語選択/Language]
- パネルロック： [設定] - [本体設定] - [管理者用設定] - [セキュリティー設定] - [管理者設定] - [管理者ロック]
- 無操作タイマー設定： [設定] - [本体設定] - [基本設定] - [無操作タイマー設定]（オン/オフのみ設定できます。）

3. [設定] をクリックします。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

無操作時の省電力設定をする

プリンターの操作パネルが一定時間操作されなかった場合に、節電モードへ移行する時間と自動で電源を切る時間を設定できます。使用する環境に合わせて時間を設定してください。

1. Web Configで [デバイス管理] タブ - [省電力] を選択します。
2. [節電移行時間] に操作パネル無操作時に節電モードへ移行する時間を設定します。

参考 プリンターの操作パネルからも設定できます。

[設定] - [本体設定] - [基本設定] - [スリープ移行時間設定]

3. [自動電源オフ時間] に電源が切れるまでの時間を選択します。

参考 プリンターの操作パネルからも設定できます。
[設定] - [本体設定] - [基本設定] - [自動電源オフ]

4. [設定] をクリックします。

関連情報

➔ [\[Web Configの起動\] 26ページ](#)

タイムサーバーと日付/時刻を同期する

タイムサーバー（NTPサーバー）と連携すると、プリンターとネットワーク上のコンピューターとの時刻を同期できます。タイムサーバーは、組織内で運用している場合やインターネット上に公開している場合があります。CA証明書を使っている場合、連携すると時間に関するトラブルを防ぐことができます。

1. Web Configで [デバイス管理] タブ - [日付/時刻] - [タイムサーバー] を選択します。
2. [タイムサーバーを使用する] を [使用する] にします。
3. [タイムサーバーアドレス] にタイムサーバーのアドレスを入力します。
IPv4、IPv6アドレスまたはFQDNが使用できます。252文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。
4. [更新間隔（分）] を入力します。
1分単位で10,080分まで設定できます。
5. [設定] をクリックします。

参考 [タイムサーバーステータス] でサーバーとの接続状態を確認できます。

関連情報

➔ [\[Web Configの起動\] 26ページ](#)

スキャン、コピーの標準値を設定する（ユーザーデフォルト設定）

機能ごとに標準値を設定できます。
標準値を設定できるのは以下の機能です。

- スキャン to フォルダー 機能
- スキャン to メール 機能
- スキャン to 外部メモリー 機能
- コピー

1. Web Configの [スキャン/コピー] タブ - [ユーザーデフォルト設定] から標準値を設定する機能を選択します。

2. 各項目を設定します。

3. [設定] をクリックします。

無効の組み合わせの設定値があった場合は、設定できる組み合わせに自動修正されます。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

AirPrint設定

印刷をAirPrintで行うための設定をします。

Web Configで [ネットワーク] タブ - [AirPrint設定] を選択します。

項目	説明
Bonjourサービス名	Bonjourのサービス名をASCII (0x20-0x7E)で表せる41文字以内で入力します。
ロケーション	プリンターの設定場所など任意のロケーション情報を、UTF-8で表せる127バイト以内の文字列で入力します。
位置情報 緯度、経度 (WGS84)	プリンターの位置情報を入力します。入力は任意です。 WGS-84測地系の値を使用し、緯度と経度を「.」で区切ります。 緯度は-90~+90、経度は-180~+180の範囲で入力できます。また、小数点以下は6位まで入力でき、+は省略できます。
最優先プロトコル	優先するプロトコルを、IPPとPort9100から選択します。
Wide-Area Bonjour	Wide-Area Bonjourを使用するかどうか設定します。使用する場合、セグメントを越えた検索ができるように、プリンターがDNSサーバーに登録されている必要があります。
iBeacon対応機器からの探索	iBeacon対応機器からの探索の有効、無効を設定します。有効にするとiBeacon対応機器からの探索ができるようになります。
AirPrintを有効にする	IPP、Bonjour、AirPrintが有効になり、IPPIはセキュア通信のみになります。

本体のセキュリティー編

この章では、デバイス本体のセキュリティー設定について説明しています。

本体のセキュリティー機能の紹介

エプソンデバイスのセキュリティー機能を紹介します。

機能名	どんな機能が	何を設定するのか	何を防止できるのか
管理者パスワードの設定	ネットワークやUSBの接続設定、ユーザーデフォルト設定など、システムに関わる設定をロックし、管理者以外の変更ができないようにします。	システム管理者がデバイスにパスワードを設定します。 Web Config、操作パネルのどちらからも設定や変更ができません。	デバイスに保持されているIDやパスワード、ネットワーク設定、アドレス帳等の情報が不正に参照または変更されるのを防ぎます。また、ネットワーク環境やセキュリティーポリシー、またはそれらに類する情報の漏えいなど、広範囲のセキュリティーリスクにつながる危険性を低減します。
利用者制限設定	利用者ごとに印刷、スキャン、コピーなどデバイスで利用できる機能を制限します。あらかじめ登録したユーザーアカウントでログオンした場合に、特定の機能の使用を許可します。また、操作パネルからのログオン後、一定時間操作がないと自動でログオフされます。	任意のユーザーアカウントを登録し、コピーやスキャンなど許可する機能を選択します。ユーザーアカウントは10件まで登録できます。	利用者の業務内容や役割に応じた最小限の機能を許可することで、文書データの漏えいや不正閲覧のリスクが低減できます。
外部インターフェイス設定	USBポートなどデバイスへ接続するインターフェイスを制御できます。	USBメモリーなど外部機器を接続するUSBポートやコンピューターとのUSB接続の有効、無効を設定します。	<ul style="list-style-type: none"> USBポート制御：機密文書の不正スキャンによるデータ持ち出しが低減できます。 コンピューターのUSB接続：ネットワークを経由しない印刷を禁止することで、デバイスの不正使用を防止できます。

関連情報

- ➔ [「Web Configの概要」 25ページ](#)
- ➔ [「EpsonNet Config」 107ページ](#)
- ➔ [「管理者パスワードの設定」 68ページ](#)
- ➔ [「利用できる機能を制限する」 74ページ](#)
- ➔ [「外部インターフェイスを無効にする」 76ページ](#)

管理者パスワードの設定

管理者パスワードを設定すると、プリンターのユーザーがシステム管理に関する設定を変更することを防ぎます。管理者パスワードはWeb Config、操作パネル、ソフトウェア（Epson Device Admin）のいずれからでも設定、変更ができます。ツールの操作方法についてはそれぞれのマニュアルをご覧ください。

関連情報

- ➔ [「操作パネルから管理者パスワードを設定する」 68ページ](#)
- ➔ [「Web Configから管理者パスワードを設定する」 68ページ](#)
- ➔ [「Epson Device Admin」 107ページ](#)

操作パネルから管理者パスワードを設定する

プリンターの操作パネルから管理者パスワードを設定します。

1. プリンターの操作パネルで **「設定」** を選択します。
2. **「本体設定」** - **「管理者用設定」** - **「セキュリティー設定」** を選択します。
3. **「管理者設定」** を選択します。
4. **「管理者パスワード」** - **「新規設定」** を選択します。
5. 管理者パスワードを入力します。
6. パスワードを再入力します。
7. 確認画面を閉じます。

管理者設定画面に戻ります

参考 管理者パスワードは、**「管理者パスワード」** から **「変更」** または **「設定クリア」** を選択して、管理者パスワードを入力すると変更や削除ができます。

Web Configから管理者パスワードを設定する

Web Configを使って管理者パスワードを設定します。

1. Web Configで **「本体セキュリティー」** タブ - **「管理者パスワード変更」** を選択します。

2. [新しいパスワード] と [新しいパスワードの確認] にパスワードを入力します。必要に応じてユーザー名を入力します。

パスワードを変更するには、現在のパスワードを入力します。

3. [設定] を選択します。



- ロックされている項目を設定、変更するには [ログオン] をクリックして管理者パスワードを入力します。
- 管理者パスワードを削除するには、[本体セキュリティ] タブ - [管理者パスワード削除] をクリックして管理者パスワードを入力します。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

パネル操作を制限する


管理者パスワードを設定してパネルの管理者ロックを有効にすると、プリンターのシステム設定に関する項目をユーザーが変更できないようにロックできます。


ロックされた機能进行操作するには管理者パスワードが必要です。

管理者ロックを有効にする


パスワード設定したプリンターの管理者ロック を有効にします。
先に管理者パスワードを設定してください。

操作パネルを使って管理者ロックを有効にする

1. プリンターの操作パネルで [設定] を選択します。
2. [本体設定] - [管理者用設定] - [セキュリティー設定] の順に選択します。
3. [管理者設定] を選択します。
4. [管理者ロック] から [オン] を選択します。
5. 確認画面で [はい] を選択します。
6.  をタップします。

ホーム画面に  が表示されていることを確認してください。

Web Configを使って管理者ロックを有効にする

1. Web Configで [ログオン] をクリックします。
2. ユーザー名（設定している場合）とパスワードを入力して [確認] をクリックします。
3. [デバイス管理] タブ - [パネル] の順に選択します。
4. [パネルロック] から [オン] を選択します。
5. [設定] をクリックします。
6. プリンターの操作パネルのホーム画面で  が表示されていることを確認してください。

本体設定メニューの管理者ロック項目

管理者ロックによって操作パネルの [設定] - [本体設定] メニュー内でパネルロックされる項目一覧です。
一部機能は個別に有効、無効を設定できます。

本体設定 メニュー	パネルロック
基本設定	×

本体のセキュリティー編

本体設定 メニュー		パネルロック
	画面の明るさ設定	×
	音の設定	×
	スリープ移行時間設定	○
	自動電源オフ	○
	プレーカー連動起動	○
	日付/時刻設定	○
	言語選択/Language	○*1
	無操作タイマー設定	○
	キーボード	×
	長さ単位	×
プリンター設定		×
	給紙装置設定	×
	ユーザー用紙設定	×
	印刷言語	○
	外部機器(PC)印刷設定	○
	HP-GL/2固有設定	○
	外部メモリー設定	○
	こすれ軽減	○*1
	セルフチェック&クリーニング	○
	双方向印刷	×
	コンピューターのUSB接続	○
	USB I/Fタイムアウト時間設定	○
ネットワーク設定		○

本体のセキュリティー編

本体設定 メニュー		パネルロック
	無線LAN接続設定	○
	有線LAN接続設定	○
	ネットワーク情報	○
	有線・無線接続状態	○*2
	Wi-Fi Direct接続状態	○*2
	メールサーバー設定情報	○*2
	ステータスシート印刷	○*2
	接続診断	○*3
	詳細設定	○
	デバイス名	○
	TCP/IP	○
	プロキシサーバー	○
	メールサーバー	○
	共有フォルダー	○
	IPv6アドレス	○
	Link Speed & Duplex	○
	HTTPをHTTPSにリダイレクト	○
	IPsec/IPフィルタリングの無効化	○
	IEEE802.1Xの無効化	○
	iBeacon対応機器からの探索	○
	スキャン設定	○
	読み取り前宛先確認	○
	メールサーバー	○
	原稿読み取り設定	○
	管理者用設定	○

本体設定 メニュー		パネルロック
アドレス帳管理		○
	アドレス帳登録・変更	○*1*4
	常用管理	○*4
	アドレス帳印刷	○
	アドレス帳表示方法設定	○*4
	アドレス帳検索設定	○*4
セキュリティー設定		○
	機能制限	○
	利用者制限	○
	管理者設定	○
	管理者パスワード	○
	管理者ロック	○
初期設定に戻す		○
ファームウェアのアップデート		○

○=ロックされます。

×=ロックされません。

*1 : [本体設定] - [管理者用設定] - [セキュリティー設定] - [機能制限] でロックをオン/オフできます。

*2 : 管理者ロックで上位階層がロックされますが、[設定] - [情報確認/印刷] 内の同名メニューから操作できます。

*3 : 管理者ロックで上位階層がロックされますが、ホーム画面 -  |  - [接続方法の説明] - [ネットワークにつながらないときは] 内の同名メニューから操作できます。

*4 : 管理者ロックで上位階層がロックされますが、[設定] - [アドレス帳管理] 内の同名メニューから操作できます。

関連情報

➔ [「個別に制御できる項目」74ページ](#)

その他の管理者ロック項目

本体設定メニュー以外で管理者ロックが有効になるメニューは以下の通りです。

- お気に入り
 - 新規登録
 - 削除
 - 名称変更
 - お気に入りからのユーザー設定変更

表示や機能を個別に制御する

管理者ロックの対象項目の一部は、個別に有効、無効が設定できます。

アドレス帳の登録や変更、ジョブ履歴の表示など、必要に応じてユーザーが情報を操作することができるようになります。

1. プリンターの操作パネルで「設定」を選択します。
2. 「本体設定」 - 「管理者用設定」 - 「セキュリティー設定」の順に選択します。
3. 「機能制限」を選択します。
4. 設定を変更したい機能の項目を選択し、「オン」または「オフ」にします。

個別に制御できる項目

以下の項目は、個別に管理者が表示や設定変更を許可できます。

- アドレス帳の登録・変更許可：「設定」 - 「アドレス帳管理」 - 「アドレス帳登録・変更」
アドレス帳の登録、変更を制御します。「オン」にすると登録や変更ができるようになります。
- スキャン to メール機能 宛先履歴表示：「スキャン」 - 「メール」 - 「宛先」 - 「履歴」
スキャン to メール機能の履歴の表示を制御します。「オン」にすると履歴を表示します。
- スキャン to メール機能 送信履歴表示：「スキャン」 - 「メール」 - 「メニュー」 - 「送信履歴の表示」
スキャン to メール機能のメール送信履歴の表示を制御します。「オン」にすると送信履歴を表示します。
- 言語選択の変更許可：「設定」 - 「言語選択/Language」
操作パネルの表示言語の変更を制御します。「オン」にすると言語変更できるようになります。
- こすれ軽減の変更許可：「設定」 - 「本体設定」 - 「プリンター設定」 - 「こすれ軽減」
こすれ軽減の設定変更を制御します。設定を変更する場合は「オン」を選択します。
- 宛先情報の保護：
短縮ダイヤル登録にある宛先情報の表示を制御します。「オン」にすると宛先が伏字 (***) で表示されます。

関連情報

- ➡ [「その他の管理者ロック項目」73ページ](#)

利用できる機能を制限する

プリンターにユーザーアカウントを登録して機能と紐付け、ユーザーが利用できる機能を制御できます。

利用制限を有効にした場合、ユーザーは操作パネルからパスワードを入力してログオンするとコピーなどプリンター上の機能が利用できるようになります。

ユーザーが利用できない機能は選択できなくなります。

利用制限を設定する

利用者制限を利用するためにユーザーアカウントを作成して利用者制限機能を有効にします。

ユーザーアカウントを作成する

利用者制限のアカウントを作成します。

1. Web Configで【本体セキュリティー】タブ - 【利用者制限設定】 - 【ユーザー設定】を選択します。
2. 登録する番号の【登録】をクリックします。
3. 各項目を設定します。

- ユーザー名：
ユーザー名一覧への表示名を1～14文字以内の半角英数字を使って入力します。
- パスワード：
ASCII (0x20-0x7E)の20文字以内で入力します。パスワードを初期化する場合は空白にします。
- 以下の機能の使用を許可する。
使用を許可する機能にチェックを付けます。

4. 【適用】をクリックします。

一定時間経過するとユーザー設定の一覧へ戻ります。

【ユーザー名】に登録したユーザー名が表示されていて、【登録】が【編集】に変わったことを確認してください。

ユーザーアカウントを編集する

登録した利用者制限のアカウントを編集します。

1. Web Configで【本体セキュリティー】タブ - 【利用者制限設定】 - 【ユーザー設定】を選択します。
2. 編集する番号の【編集】をクリックします。
3. 内容を変更します。
4. 【適用】をクリックします。

一定時間経過するとユーザー設定の一覧へ戻ります。

ユーザーアカウントを削除する

登録した利用者制限のアカウントを削除します。

1. Web Configで【本体セキュリティー】タブ - 【利用者制限設定】 - 【ユーザー設定】を選択します。
2. 削除する番号の【編集】をクリックします。

3. [削除] をクリックします。

！重要 [削除] をクリックすると、確認メッセージなしでユーザーアカウントが削除されます。削除は慎重に行ってください。

一定時間経過するとユーザー設定の一覧へ戻ります。

利用者制限を有効にする

利用者制限を有効にすると設定したユーザーアカウント以外でプリンターを使用できなくなります。

1. Web Configで [本体セキュリティー] タブ - [利用者制限設定] - [基本] を選択します。
2. [利用者制限を有効にする] にチェックを付けます。
3. [設定] をクリックします。

一定時間経過すると設定終了のメッセージが表示されます。

プリンターの操作パネルでコピーやスキャンなどのアイコンが選択できない状態になっていることを確認してください。

外部インターフェイスを無効にする

プリンターにデバイスを接続するインターフェイスを無効にできます。ネットワーク経由以外の印刷を制限する場合に設定します。

参考 プリンターの操作パネルからも設定できます。

- 外部メモリー： [設定] - [本体設定] - [プリンター設定] - [外部メモリー設定] - [外部メモリー]
- コンピューターのUSB接続： [設定] - [本体設定] - [プリンター設定] - [コンピューターのUSB接続]

1. Web Configで [本体セキュリティー] タブ - [外部インターフェイス] を選択します。
2. 制限したい機能で [無効] を選択します。
制限を解除する場合は [有効] を選択してください。
 - 外部メモリー
外部機器接続用USBポートを経由する外部メモリーへのデータ保存を禁止します。
 - コンピューターのUSB接続
コンピューターからのUSB 接続を制限できます。制限する場合は [無効] に設定します。
3. [設定] をクリックします。
4. 無効にしたポートが使用できなくなっているか確認します。

- 外部メモリー
USBメモリーなどストレージを外部機器接続用USBポートに接続し、反応がないことを確認します。

本体のセキュリティー編

- コンピューターのUSB接続

確認するコンピューターにドライバーがインストールされている場合：

プリンターとコンピューターをUSBケーブルで接続し、印刷ができないことを確認します。

確認するコンピューターにドライバーがインストールされていない場合：

Windows)

デバイスマネージャーを表示したままプリンターをコンピューターにUSBケーブルで接続し、デバイスマネージャーの表示内容が変化しないことを確認します。

Mac OS)

プリンターをコンピューターにUSBケーブルで接続し、[プリンターとスキャナー] からプリンターを追加しようとしてもプリンターがリストに表示されないことを確認します。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)


運用・管理編


この章では、デバイスの日常的な運用や管理に関わる事項を説明しています。

管理者としてプリンターにログオンする

プリンターに管理者パスワードを設定している場合、ロックされている項目を操作するには管理者としてプリンターにログオンする必要があります。

操作パネルからプリンターにログオンする

1.  をタップします。
2. [管理者] をタップします。
3. 管理者パスワードを入力します。
4. [OK] をタップします。

認証されると画面に  が表示され、ロックされているメニュー項目が操作できるようになります。

ログオフするには  をタップします。

参考 [設定] - [本体設定] - [基本設定] - [無操作タイマー設定] を [オン] にすると、一定時間操作パネルを操作しない場合に自動でログオフします。

Web Configで管理者としてログオンする

管理者としてWeb Configにログオンすると、管理者ロックされている項目を操作できます。

1. ブラウザーにプリンターのIPアドレスを入力してWeb Configを起動します。
2. [ログオン] をクリックします。
3. [ユーザー名] と [現在のパスワード] にユーザー名と管理者パスワードを入力します。
4. [確認] をクリックします。

認証されるとロックされている項目が表示され、[管理者ログオフ] が表示されます。





ログオフするには [管理者ログオフ] をクリックします。

参考 [デバイス管理] タブ - [パネル] - [無操作タイマー設定] を [オン] にすると、一定時間操作パネルを操作しない場合に自動でログオフします。

プリンターの情報を確認する

操作パネルから情報を確認する

操作パネルから以下の情報の確認や印刷ができます。

- 消耗品
[設定] - [消耗品情報]
インクやメンテナンスボックスの情報を確認できます。
- 本体ステータスシート
[設定] - [情報確認/印刷] - [本体ステータスシートの印刷]
プリンター情報や消耗品情報などのステータスシートを印刷できます。
- ネットワーク情報
[設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] - [ネットワーク情報]
[設定] - [情報確認/印刷] - [ネットワーク]
ネットワーク接続状態、メールサーバー設定などの確認とステータスシートの印刷ができます。
- ネットワーク接続診断レポート
[設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] - [接続診断]
ホーム画面の  |  - [接続方法の説明] - [ネットワークにつながらないときは]
プリンターのネットワーク接続状況を診断し、レポートの印刷ができます。
- ネットワーク接続状況
ホーム画面の  |  - [ルーター]
有線・無線の接続状況が確認できます。

Web Configから情報を確認する

Web Configの [情報確認] から、以下の情報を確認できます。

- 製品情報
言語、ステータス、製造番号、MACアドレスなどが確認できます。
- ネットワーク情報
ネットワーク接続状態、IPアドレス、DNSなどネットワークに関する情報が確認できます。
- ハードウェア情報
無線LANなど各機能のステータスを確認できます。
- パネルのスナップショット
デバイスの操作パネルに表示されている画面イメージのスナップショットを表示します。

イベント発生時にメール通知を受け取る

メール通知の概要

印刷の停止やプリンターエラーなど、プリンターにイベントが発生したときに、指定したアドレスにメールで通知する機能です。

宛先は5つまで登録でき、それぞれに受け取りたい通知を設定できます。

この機能を使うには、設定前にメールサーバーの設定が必要です。

関連情報

➔ [「メールサーバーを設定する」34ページ](#)

メール通知を設定する

Web Configを使ってメール通知の設定をします。

1. Web Configで [デバイス管理] タブ - [メール通知] を選択します。
2. メール通知の件名を設定します。
2つのプルダウンメニューで件名に表示する内容を選択します。
 - 選択された内容が [件名] の横に表示されます。
 - 左右に同じ内容は設定できません。
 - [ロケーション] の文字数が多い場合は、32バイト以降の文字が省略されます。
3. 通知メールを送信するメールアドレスを入力します。
A-Z a-z 0-9 ! # \$ % & ' * + - . / = ? ^ _ { | } ~ @ を使用し、255文字以内で入力します。
4. メール通知の言語を選択します。
5. 通知を受け取りたいイベントの行で、通知する宛先番号と重なるチェックボックスにチェックを付けます。
[通知設定] の番号は [宛先設定] の宛先の番号に対応しています。
設定例：

用紙がなくなった場合の通知を「宛先設定」の1に設定したアドレスに送信したいときは、「用紙なし」の行にある「1」の列のチェックボックスにチェックを付けます。



6. 「設定」をクリックします。

何らかのイベントを作って、メール通知が送信されることを確認してください。

例：用紙をセットしていない給紙方法を指定して印刷

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「メールサーバーを設定する」 34ページ](#)

メール通知の設定項目

項目	設定値と説明
インク残量限界値以下	インク残量が限界値以下になった場合に通知します。
インク残量少	インク残量が限界値に近づいた場合に通知します。
メンテナンスボックス空き容量なし	メンテナンスボックスがいっぱいになった場合に通知します。
メンテナンスボックス空き容量少	メンテナンスボックスがいっぱいになる手前で通知します。

項目	設定値と説明
管理者パスワード変更	管理者パスワードが変更された場合に通知します。
用紙なし	印刷指定の給紙装置で用紙なしエラーが発生した場合に通知します。
用紙残量少	印刷指定の給紙装置で用紙がなくなる手前で通知します。
印刷停止（※）	紙詰まり、用紙サイズ/用紙種類の不一致などで、印刷が停止したときに通知します。
プリンターエラー	プリンターエラーが発生した場合に通知します。
スキャナーエラー	スキャナーエラーが発生した場合に通知します。
無線LAN故障	無線LANインターフェイスにエラーが発生した場合に通知します。
印刷ジョブ終了（※2）	プルダウンメニューで設定した数の印刷ジョブが終了するたびにメールを送信します。

ファームウェアのアップデート

新しいファームウェアがある場合、プリンターのファームウェアをアップデートすると、機能が向上したり、不具合が解消されたりします。

操作パネルを使ってプリンターのファームウェアをアップデートする

プリンターがインターネットに接続できると、操作パネルでプリンターのファームウェアをアップデートできます。ファームウェアがあるかどうかを定期的を確認して、ある場合には通知するようにも設定できます。

1. ホーム画面で **【設定】** を選択します。
2. **【本体設定】** - **【管理者用設定】** - **【ファームウェアのアップデート】** - **【アップデート】** の順に選択します。

参考 新しいファームウェアがあるかどうか定期的を確認したいときは、**【定期通知設定】** - **【オン】** の順に選択します。

3. **【確認開始】** を選択します。

新しいファームウェアがあるかどうか確認が始まります。

- 新しいファームウェアが見つかったというメッセージが表示されたら、画面の指示に従ってファームウェアを更新します。

！重要

- 更新中はプリンターの電源を切ったり、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。プリンターが故障するおそれがあります。
- ファームウェアの更新に失敗すると、次回電源を入れたときに「Recovery Mode」（リカバリーモード）と表示され、プリンターが動かなくなります。コンピューターからファームウェアの更新をし直してください。
リカバリーモードになるとネットワーク接続での更新ができないため、以下の手順で作業してください。
 - エプソンのウェブサイトからファームウェアをダウンロードする
 - コンピューターとプリンターをUSBケーブルで接続する
 - ファームウェアを更新する<http://www.epson.jp/support/>
詳しくはダウンロードページの「ファームウェアのアップデート方法」をご覧ください。

Web Configでファームウェアをアップデートする

プリンターがインターネットに接続できると、Web Configからファームウェアをアップデートできます。

- Web Configで [デバイス管理] タブ - [ファームウェアアップデート] を選択します。
- [確認開始] をクリックします。
ファームウェアの確認が始まり、更新されたファームウェアがあるとファームの情報が表示されます。
- [開始] をクリックし、画面の案内に従って操作します。

参考 Epson Device Adminを使ってもファームウェアをアップデートできます。デバイス一覧でファームウェアの情報が確認ができます。この方法は、複数のデバイスのファームウェアをアップデートするのに便利です。詳細はEpson Device Adminのマニュアルやヘルプをご覧ください。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「Epson Device Admin」 107ページ](#)

プリンターをインターネットに接続しないでファームウェアをアップデートする

コンピューターでエプソンのウェブサイトから機種用のファームウェアをダウンロードし、USBケーブルで接続してアップデートすることもできます。ネットワーク経由でアップデートができない場合に、この方法をお使いください。

- エプソンのウェブサイトアクセスして、ファームウェアをダウンロードします。
www.epson.jp/support/
- ファームウェアをダウンロードしたコンピューターと、プリンターをUSBケーブルで接続します。

3. ダウンロードしたexeファイルをダブルクリックします。
Epson Firmware Updaterが起動します。
4. この後は、画面の指示に従って操作します。

設定のバックアップ

Web Configで設定した設定値をファイルにエクスポートできます。アドレス帳や設定値のバックアップ、プリンターの置き換え時などに利用できます。

バイナリーファイルでエクスポートされるので編集できません。

設定をエクスポートする

プリンターの設定値をエクスポートします。

1. Web Configで【デバイス管理】タブ - 【設定のエクスポート/インポート】 - 【エクスポート】を選択します。
2. エクスポートしたい設定を選択します。
チェックが付いた項目の設定値がエクスポートされます。親のカテゴリーを選択すると、子のカテゴリーが同時に選択されます。ただし、IPアドレスなどネットワーク内に同じ設定値が複数あるとエラーになる項目は選択できないようになっています。
3. エクスポートファイルを暗号化するために任意のパスワードを入力します。
ここで指定したパスワードはインポートするときに必要になります。パスワードを指定しない場合は空白にします。
4. 【エクスポート】をクリックします。

！重要 デバイス名やIPv6アドレスなどのネットワーク情報を含めてエクスポートしたいときは【本体ごとの個別設定を選択可能にする】にチェックを付けて、項目を選択してください。なお、この項目をチェックしてから選択した設定値は、プリンターの置き換え時のみにお使いください。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

設定をインポートする

Web Configの設定ファイルをプリンターにインポートします。

重要 プリンター名やIPアドレスなどの個別情報を含む設定値をインポートするときは、同一のネットワーク内に同じIPアドレスを持つプリンターが存在しないことを確認してください。IPアドレスが重複する場合は、インポートしても内容は反映されません。

1. Web Configで [デバイス管理] タブ - [設定のエクスポート/インポート] - [インポート] を選択します。
 2. エクスポートされたファイルを選択し、暗号化パスワードを入力します。
 3. [次へ] をクリックします。
 4. インポートする設定を選択して [次へ] をクリックします。
 5. [設定] をクリックします。
- 設定がプリンターに反映されます。

トラブルを解決する

トラブルを解決するための糸口

- エラーメッセージの確認
何らかのトラブルが発生した場合、始めにプリンターの操作パネルやドライバーの画面などにメッセージが出ていないか確認してください。通知メールを送信するように設定してあると、イベントが発生した場合に素早く状態を把握できます。
- ネットワーク接続診断レポート
ネットワークとプリンターの状況を診断して、結果がレポートされます。
プリンター側から判別できるエラーを見つけることができます。
- 通信状態の確認
サーバーやクライアントコンピューターの通信状態をpingやipconfigなどのコマンドを使って確認します。
- 接続テスト
メールサーバーとの接続は、プリンターから接続テストをすることで確認できます。また、クライアントコンピューターからサーバーへの接続テストをして通信状態を確認します。
- 設定の初期化
設定や通信状態に問題がない場合、プリンターのネットワーク設定を無効にしたり、初期状態に戻して設定をやり直したりすると、トラブルが解消する場合があります。

プリンターの状態を確認する

トラブルの原因を特定するために、プリンターやネットワークの状況を確認します。

エラーメッセージを確認する

メール通知からエラー表示を確認する

メール通知を設定している場合、プリンターからエラーに関するメールが届いていないか確認します。
対処方法が記載されている場合はそれに従ってください。

関連情報

➔ [「イベント発生時にメール通知を受け取る」80ページ](#)

プリンター画面のメッセージを確認する

プリンターの画面にメッセージが表示されたら、画面の指示または以下の対処方法に従ってトラブルを解決してください。

トラブルを解決する

メッセージ	原因・対処方法
<p>プリンターエラーが発生しました。電源を入れ直してください。詳しくはマニュアルをご覧ください。 エラーコード：XXXXXX</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： プリンターの内部に異物が混入したか、プリンターエラーが発生しました。 • 対処方法： プリンター内部に用紙や保護材が入っていたら取り除いてください。電源を入れ直しても同じメッセージが表示される場合は、エラーコードを控えてから、エプソンの修理窓口にご連絡ください。
<p>インク量が限界値以下のためインクカートリッジ交換が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： インク残量が限界値を超えました。 • 対処方法： プリントヘッドの品質を維持するため、インクが完全になくなる前に動作を停止するように設計されています。新しいインクカートリッジと交換してください。
<p>メンテナンスボックスの装着状態を確認してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： メンテナンスボックスが正しく装着されていません。 • 対処方法： メンテナンスボックスの装着状態を確認して、正しく装着してください。
<p>メンテナンスボックスの空き容量がなくなりました。ボックスの交換が必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： メンテナンスボックスの容量がいっぱいになりました。 • 対処方法： ガイドンスに従ってメンテナンスボックスを交換してください。
<p>メンテナンスボックスの空き容量が不足しているためクリーニングできません。交換の案内が表示されるまで印刷できます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： ヘッドクリーニングをするために必要なメンテナンスボックスの容量が足りません。 • 対処方法： プリンターの電源をオフにして、メンテナンスボックスを交換してください。取り外したメンテナンスボックスは、クリーニング終了後に再度装着して使用できます。
<p>メンテナンスボックスをセットし直してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： メンテナンスボックスが正しく認識されませんでした。 • 対処方法： 一旦メンテナンスボックスを外し、再度装着してください。それでも認識しない場合は、新しいメンテナンスボックスと交換してください。
<p>アドレスとサブネットマスクの組み合わせが有効ではありません。詳しくはマニュアルをご覧ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： 設定したIPアドレスの組み合わせが不正です。 • 対処方法： IPアドレス、またはデフォルトゲートウェイに正しい値を入力してください。
<p>このサービスを利用するには、ルート証明書のアップデートが必要です。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： クラウドサービスに使用するルート証明書の期限が切れています。 • 対処方法： Web Configを起動して、以下からルート証明書を更新してください。 [ネットワークセキュリティ] - [ルート証明書更新]

メッセージ	原因・対処方法
Recovery Mode	<ul style="list-style-type: none"> • 原因： ファームウェアのアップデートに失敗し、通常モードに復帰できませんでした。 • 対処方法： ファームウェアのアップデートに失敗したため、リカバリーモードで起動しました。以下の手順でもう一度ファームウェアをアップデートしてください。 1. コンピューターとプリンターをUSB接続します（リカバリーモード中のアップデートは、ネットワーク接続ではできません）。 2. エプソンのウェブサイトから最新のファームウェアをダウンロードしてアップデートを開始します。 詳しくはダウンロードページの「アップデート方法」をご覧ください。

遠隔地にあるプリンターのパネル表示を確認する

Web Configを使って遠隔地にあるプリンターのパネル表示を確認できます。

1. **確認したいプリンターのWeb Configを起動します。**
メール通知を受け取っている場合は、メールに記載されているURLからWeb Configを起動できます。
2. **【情報確認】タブ - 【パネルのスナップショット】の順に選択します。**
プリンターの現在のパネルがWeb Configに表示されます。
更新する場合は、**【最新の状態へ更新】**をクリックします。

ネットワーク接続診断レポートを印刷する

プリンターと無線LANルーター（アクセスポイント）の接続状態を確認するために、ネットワーク接続診断レポートを印刷します。

1. **印刷用紙をセットします。**
2. **ホーム画面で【設定】を選択します。**
3. **【本体設定】 - 【ネットワーク設定】 - 【接続診断】を選択します。**
診断が始まります。
4. **【接続診断結果を印刷する】を選択します。**
5. **ネットワーク接続診断レポートを印刷します。**
エラーがある場合はネットワーク接続診断レポートの内容を確認して対処してください。
6. **画面を閉じます。**

関連情報

➔ 「ネットワーク接続診断レポートの見方と対処方法」 89ページ

ネットワーク接続診断レポートの見方と対処方法

ネットワーク接続診断レポートのメッセージとエラー番号を確認して対処してください。

ネットワーク接続診断レポート

診断結果 NG

エラー番号 (E-7)

以下のネットワーク設定情報を確認し、「ネットワーク (SSID)」が無線接続したいSSIDかを確認してください。
正しければパスワードを確認し、設定し直してください。

何らかのトラブルが発生したときは、マニュアル等をご覧の上、対処してください。

診断項目

指定のネットワーク (SSID) の有無の確認	OK
無線モードの確認	OK
セキュリティー方式の確認	OK
MACアドレスフィルタリング設定の確認	OK
パスワードの確認	NG
IPアドレスの確認	未診断
IP詳細設定の確認	未診断

ネットワーク設定情報

プリンター名	EPSON XXXXXX
プリンター型番	XX-XXX Series
IPアドレス	0.0.0.0
サブネットマスク	255.255.255.0
デフォルトゲートウェイ	
ネットワーク (SSID)	
無線セキュリティー設定	WPA2-PSK (AES)
電波状態	悪い
MACアドレス	

a. エラー番号

b. ネットワーク環境に関するメッセージ

E-1

対処方法：

- LAN ケーブルが、プリンターやハブなどのネットワーク機器にしっかり差し込まれているか確認してください。
- ハブなどのネットワーク機器の電源が入っているか確認してください。
- プリンターを無線LAN (Wi-Fi) で使用したい場合は、プリンターの無線LANが有効になっていないため、無線LAN 接続設定をやり直してください。

E-2, E-3, E-7

対処方法：

- 無線LANルーターの電源が入っているか確認してください。
- コンピューターやその他の機器が無線LANルーターと正常に通信できているか確認してください。
- 無線LANルーターの電源を切ります。10秒くらい待ってから、電源を入れてください。
- プリンターと無線LANルーターは近くに置き、間にある障害物は取り除いてください。
- SSIDを直接入力したときは、入力したSSIDが正しいかを確認してください。SSIDはネットワーク接続診断レポートの [ネットワーク設定情報] で確認できます。
- 1つの無線LANルーターに複数のSSIDが存在する場合、表示されたSSIDから選択してください。SSIDが非対応の周波数を使用していると、SSIDは表示されません。
- プッシュボタンを使った自動設定をする場合は、お使いの無線LANルーターがWPSに対応しているか確認してください。WPSに対応していないときは、プッシュボタンを使った自動設定はできません。
- SSIDにASCII文字（半角英数字、記号）以外の文字列が使われていないか確認してください。プリンターは、ASCII文字以外の文字列が含まれたSSIDは表示できません。
- 無線LANルーターに接続する場合は、SSIDとパスワードを事前に確認してください。無線LANルーターをメーカー設定値のまま使用している場合は、ラベルなどに書かれているSSIDとパスワードが設定されています。SSIDとパスワードがわからない場合は無線LANルーターを設定した人に確認するか、無線LANルーターのマニュアルをご覧ください。
- スマートデバイスなどのテザリング機能で生成したSSIDに接続したい場合は、スマートデバイスのマニュアルなどでSSIDとパスワードを確認してください。
- 無線LAN（Wi-Fi）で突然接続できなくなった場合は、以下を確認してください。どれかに当てはまる場合は、以下のウェブサイトでインストーラーをダウンロードして、ネットワーク設定をやり直してください。
<http://epson.sn>- [セットアップ]
 - お使いのネットワーク環境に、新たに別のスマートデバイスからプッシュボタン自動設定（AOSS/WPS）で設定したか
 - この無線LAN（Wi-Fi）ネットワークは、プッシュボタン自動設定以外の方法で設定されたか
 - 株式会社バッファロー製の無線LANルーターで、プッシュボタンで設定（AOSS）できるタイプを使っているか

E-5

対処方法：

無線LANルーターが以下のいずれかのセキュリティー方式になっているかを確認してください。なっていない場合は、以下のセキュリティー方式を使用するよう無線LANルーターの設定を変更し、プリンターのネットワーク設定をし直してください。

- WEP-64 bit (40 bit)
- WEP-128 bit (104 bit)
- WPA PSK (TKIP/AES)*¹
- WPA2 PSK (TKIP/AES)*¹
- WPA (TKIP/AES)
- WPA2 (TKIP/AES)

トラブルを解決する

- WPA3-SAE (AES)*2
- WPA2/WPA3-Enterprise*2

*1 WPA PSKはWPA Personal、WPA2 PSKはWPA2 Personalとも呼ばれます。

*2 WPA3-SAE(AES) とWPA3-Enterprise は、機種により非対応です。詳細はプリンターのマニュアルをご覧ください。

E-6

対処方法：

- MACアドレスフィルタリングが無効になっていることを確認してください。有効の場合は、プリンターのMACアドレスを登録して、フィルタリングされないようにしてください。詳しくは無線LANルーターのマニュアルをご覧ください。プリンターのMACアドレスはネットワーク接続診断レポートの [ネットワーク設定情報] で確認できます。
- 無線LANルーターのWEPセキュリティー方式でShared認証が有効になっている場合は、認証キーおよびインデックスが正しいことを確認してください。
- 無線LANルーターに設定されている同時接続可能な機器数が、接続するネットワーク機器の台数より少ない場合は、接続できる数を増やしてください。設定方法は、無線LANルーターのマニュアルをご覧ください。

E-8

対処方法：

- プリンターの TCP/IP 設定を自動にしているときは、無線LANルーターのDHCPを有効にしてください。
- プリンターの TCP/IP 設定を手動設定にしているときは、手動で設定したIPアドレスが有効範囲外 (0.0.0.0 など) のため、無効になっています。有効なIPアドレスをプリンターの操作パネルから設定してください。

E-9

対処方法：

以下を確認してください。

- プリンターを利用する機器の電源が入っているか
- プリンターを利用する機器から、インターネットへのアクセスや同じネットワーク上の、他のコンピューター、ネットワーク機器にアクセスできるか

上記を確認してもプリンターと他のネットワーク機器が接続できない場合は、無線LANルーターの電源を切ります。10秒くらい待ってから、電源を入れてください。続いて、以下のウェブサイトでインストーラーをダウンロードして、ネットワーク設定をやり直してください。

<http://epson.sn-> [セットアップ]

E-10

対処方法：

以下を確認してください。

- ネットワーク上の他の機器の電源が入っているか
- プリンターのTCP/IP設定を手動にしているときは、ネットワークアドレス（IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ）が正しいか

ネットワークアドレスが間違っている場合は、設定し直してください。IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイはネットワーク接続診断レポートの「ネットワーク設定情報」で確認できます。

DHCPを有効にしているときは、プリンターのTCP/IP設定でIPアドレスを自動にしてください。IPアドレスを手動で設定したい場合は、ネットワーク接続診断レポートの「ネットワーク設定情報」でプリンターのIPアドレスを確認し、プリンターのネットワーク設定画面で手動を選択して、設定してください。サブネットマスクは「255.255.255.0」に設定してください。

それでもプリンターと他のネットワーク機器が接続できない場合は、無線LANルーターの電源を切ります。10秒くらい待ってから、電源を入れてください。

E-11

対処方法：

以下を確認してください。

- プリンターのTCP/IP設定を手動設定にしたときは、プリンターに設定されたデフォルトゲートウェイのアドレスが正しいか
- デフォルトゲートウェイに指定した機器の電源が入っているか

デフォルトゲートウェイのアドレスを正しく設定してください。プリンターのデフォルトゲートウェイのアドレスはネットワーク接続診断レポートの「ネットワーク設定情報」で確認できます。

E-12

対処方法：

以下を確認してください。

- ネットワーク上の他の機器の電源が入っているか
- 手動で設定したプリンターのネットワークアドレス（IPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ）が正しいか
- 他の機器のネットワークアドレス（サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ）が同一になっているか
- 他の機器のIPアドレスと重複していないか

上記を確認してもプリンターと他のネットワーク機器が接続できない場合は、以下の対処を試してみてください。

- 無線LANルーターの電源を切ります。10秒くらい待ってから、電源を入れます。
- インストーラーを使って、ネットワーク設定をやり直してください。インストーラーは以下のウェブサイトから起動できます。

<http://epson.sn-> [セットアップ]

トラブルを解決する

- セキュリティータイプ「WEP」は、無線LANルーターに複数のセキュリティーキーを登録できます。複数のキーが登録されているときは、最初（1番目）のインデックスのセキュリティーキーがプリンターに設定されているかを確認してください。

E-13

対処方法：

以下を確認してください。

- ネットワーク機器（無線LANルーター、ハブ、ルーターなど）の電源が入っているか
- プリンター以外のネットワーク機器が手動でTCP/IP設定されていないか。（他のネットワーク機器のTCP/IP設定が手動で、プリンターのTCP/IP設定のみ自動設定になっていると、プリンターだけが異なるネットワークになってしまう可能性があります。）

問題がないときは、以下をお試しください。

- 無線LANルーターの電源を切ります。10秒くらい待ってから、電源を入れます。
- プリンターと同じネットワーク上のコンピューターで、インストーラーを使ってネットワーク設定をし直してください。インストーラーは以下のウェブサイトから起動できます。
<http://epson.sn>- [セットアップ]
- セキュリティータイプ「WEP」は、無線LANルーターに複数のセキュリティーキーを登録できます。複数のキーが登録されているときは、最初（1番目）のインデックスのセキュリティーキーがプリンターに設定されているかを確認してください。

ネットワーク環境に関するメッセージ

メッセージ	対処方法
*無線環境の改善が必要です。アクセスポイントの電源を入れ直してください。それでも解消しないときはアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。	プリンターを無線LANルーターの近くに移動し、機器間にある障害物を取り除いてから無線LANルーターの電源を入れ直します。10秒くらい待ってから、電源を入れてください。それでも接続できない場合は、無線LANルーターのマニュアルをご覧ください。
*無線接続が可能な機器数の上限に達しています。機器を追加したいときは、他の機器の接続を解除してください。	Wi-Fi Direct（シンプルAP）接続で同時接続できる無線機器が最大限接続されています。他のコンピューターやスマートデバイスを追加するには、プリンターを使用していないコンピューターやスマートデバイスの接続を解除するか他のネットワークに接続させてから追加してください。 同時接続できる無線機器の台数と接続されている台数は、プリンターの操作パネルまたはネットワークステータスシートで確認できます。
周囲にWi-Fi Directと重複するSSIDが存在します。スマートデバイス(無線機器)をプリンターに接続できないときは、Wi-Fi DirectのSSIDを変更してください。	プリンターの操作パネルからWi-Fi Direct設定の画面を表示し、設定を変更するメニューから接続名を変更してください。接続名はDIRECT-XX-の後に続く文字列を変更できます。半角22文字以内で入力します。

通信状態を確認する

プリンターやコンピューターのネットワーク接続、プリンターとコンピューター間の通信が正常かどうかを確認し、トラブルの解決につなげます。

サーバーやネットワーク機器のログの確認

ネットワーク接続でのトラブル発生時は、メールサーバーやネットワーク機器のログ情報を確認したり、コマンドを使ってステータスを確認したりすると原因を特定できることがあります。

ネットワークステータスシートを印刷する

ネットワークステータスシートを印刷すると、プリンターのネットワーク情報や状態を確認できます。

1. 印刷用紙をセットします。
2. ホーム画面で [設定] を選択します。
3. [本体設定] - [ネットワーク設定] - [ネットワーク情報] を選択します。
4. [ステータスシート印刷] を選択します。
5. メッセージを確認して、ネットワークステータスシートを印刷します。
6. 画面を閉じます。
一定時間経過すると、自動で画面が閉じます。

デバイスとコンピューターの通信を確認する

コンピューターとの通信をPingで確認する - Windows

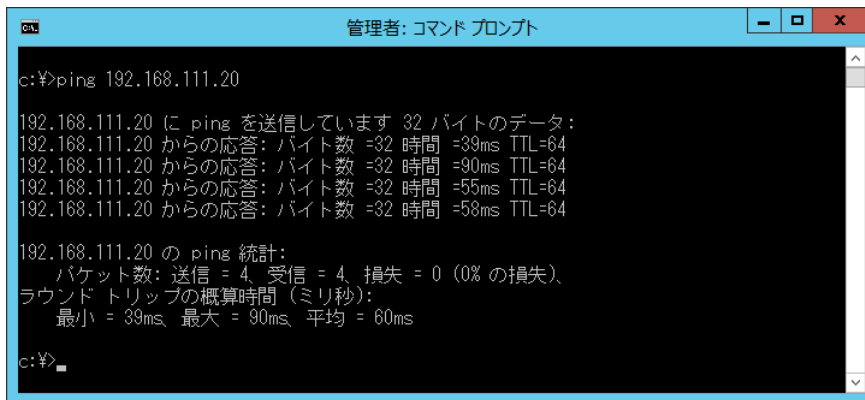
Pingを使ってコンピューターとプリンターが通信できているか確認します。以下の手順で通信を確認してください。

1. 通信を確認したいプリンターのIPアドレスを確認します。
操作パネルのネットワーク情報画面やネットワーク接続診断レポート、またはネットワークステータスシートの「IP Address」の項目で確認してください。
2. コンピューターのコマンドプロンプトを表示します。
アプリ画面を表示して、[コマンドプロンプト] を選択します。
3. 「ping xxx.xxx.xxx.xxx」と入力して、Enterキーを押します。
xxx.xxx.xxx.xxxにはプリンターのIPアドレスを入れてください。

トラブルを解決する

4. 通信状況を確認します。

プリンターとコンピューターが通信できていると以下のように表示されます。



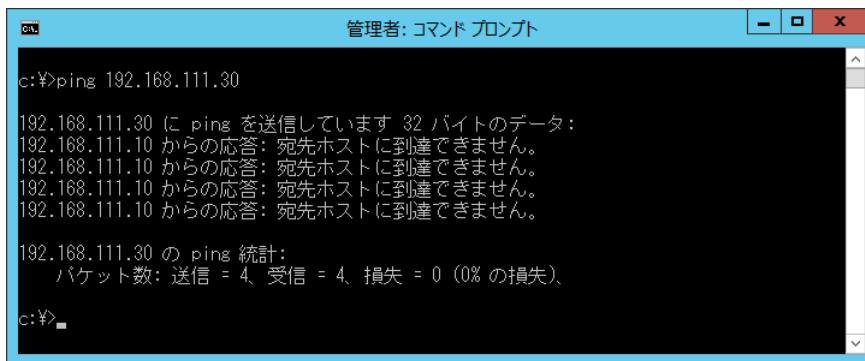
```
管理者: コマンド プロンプト
c:\>ping 192.168.111.20

192.168.111.20 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.111.20 からの応答: バイト数 =32 時間 =39ms TTL=64
192.168.111.20 からの応答: バイト数 =32 時間 =90ms TTL=64
192.168.111.20 からの応答: バイト数 =32 時間 =55ms TTL=64
192.168.111.20 からの応答: バイト数 =32 時間 =58ms TTL=64

192.168.111.20 の ping 統計:
   パケット数: 送信 = 4、受信 = 4、損失 = 0 (0% の損失)、
 ラウンドトリップの概算時間 (ミリ秒):
     最小 = 39ms、最大 = 90ms、平均 = 60ms

c:\>
```

プリンターとコンピューターが通信できていないと以下のように表示されます。



```
管理者: コマンド プロンプト
c:\>ping 192.168.111.30

192.168.111.30 に ping を送信しています 32 バイトのデータ:
192.168.111.10 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
192.168.111.10 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
192.168.111.10 からの応答: 宛先ホストに到達できません。
192.168.111.10 からの応答: 宛先ホストに到達できません。

192.168.111.30 の ping 統計:
   パケット数: 送信 = 4、受信 = 4、損失 = 0 (0% の損失)、

c:\>
```

コンピューターとの通信をPingで確認する - Mac OS

Pingを使ってコンピューターとプリンターが通信できているか確認します。以下の手順で通信を確認してください。

1. 通信を確認したいプリンターのIPアドレスを確認します。

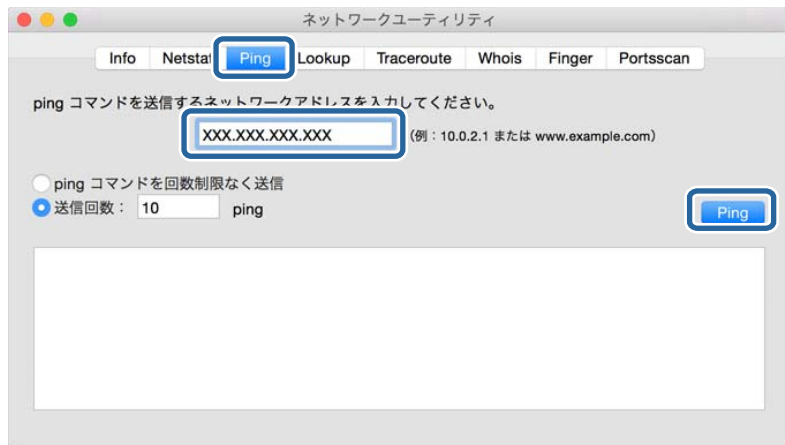
操作パネルのネットワーク情報画面やネットワーク接続診断レポート、またはネットワークステータスシートの「IP Address」の項目で確認してください。

2. ネットワークユーティリティを起動します。

[Spotlight] で「ネットワークユーティリティ」と入力して検索してください。

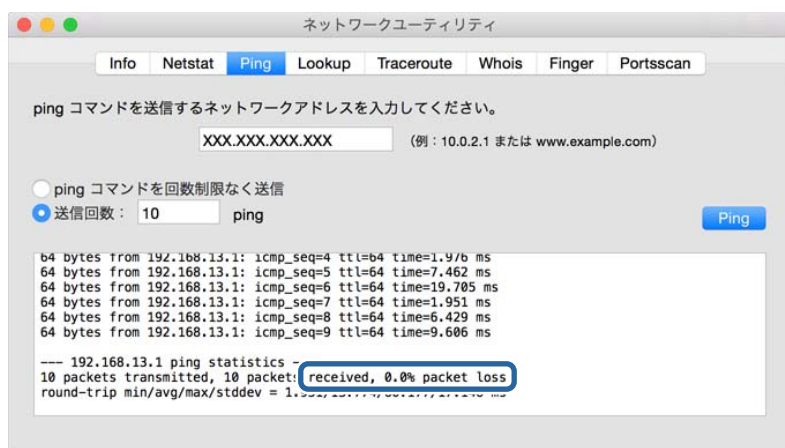
トラブルを解決する

- [Ping] タブをクリックし、手順1で確認したIPアドレスを入力して、[Ping] をクリックします。

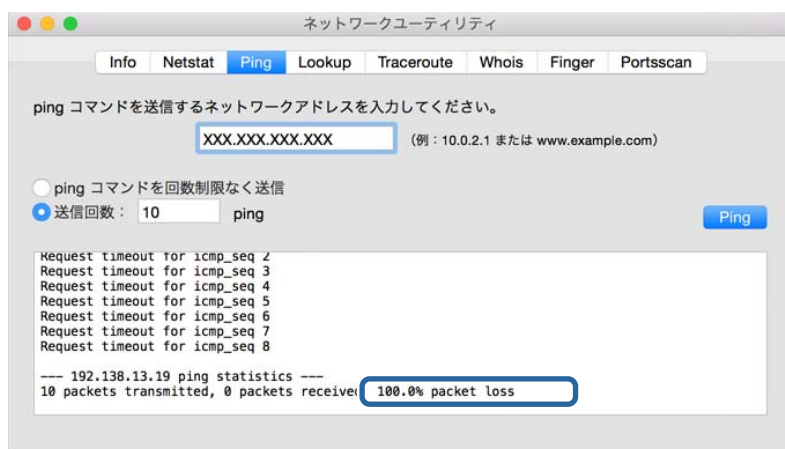


- 通信状況を確認します。

プリンターとコンピューターが通信できていると以下のように表示されます。



プリンターとコンピューターが通信できていないと以下のように表示されます。



コンピューターのネットワークを確認する - Windows

Windowsのコマンドプロンプトからコマンドを使って、コンピューターの接続情報やプリンターとの接続経路などを確認します。トラブル解決につながります。

- ipconfigコマンド

コンピューターが現在使用しているネットワークインターフェースの接続状況を表示します。

実際に通信している情報と設定情報の差がないかを比較して、正常に接続されているかを確認できます。同じネットワークに複数のDHCPサーバーがあるような場合、コンピューターに割り当てられている実際のアドレスや、参照しているDNSサーバーなどを知ることができます。

- 書式 : ipconfig /all
- 例 :

```

c:\>ipconfig /all

Windows IP 構成

   ホスト名 . . . . . : WIN2012R2
   プライマリ DNS サフィックス . . . . . : pubs.net
   ノード タイプ . . . . . : ハイブリッド
   IP ルーティング有効 . . . . . : いいえ
   WINS プロキシ有効 . . . . . : いいえ
   DNS サフィックス検索一覧 . . . . . : pubs.net

イーサネット アダプター イーサネット:

   接続固有の DNS サフィックス . . . . . :
   説明 . . . . . : Gigabit Network Connection
   物理アドレス . . . . . : xx-xx-xx-xx-xx-xx
   DHCP 有効 . . . . . : いいえ
   自動構成有効 . . . . . : (はい)
   リンクローカル IPv6 アドレス . . . . . : fe80::38fb:7546:18a8:d20e%13(優先)
   IPv4 アドレス . . . . . : 192.168.111.10(優先)
   サブネット マスク . . . . . : 255.255.255.0
   デフォルト ゲートウェイ . . . . . : 192.168.111.1
   DHCPv6 IAID . . . . . : 283142549
   DHCPv6 クライアント DUID . . . . . : 00-01-00-01-21-0A-D4-46-E0-69-95-3C-91-49
   DNS サーバー . . . . . : 192.168.111.2
   NetBIOS over TCP/IP . . . . . : 有効


Tunnel adapter isatap.{12345678-ABCD-EFGH-IJKL-MNOPQRSTUVWXYZ}:

   メディアの状態 . . . . . : メディアは接続されていません
   接続固有の DNS サフィックス . . . . . :
   説明 . . . . . : Microsoft ISATAP Adapter #2
   物理アドレス . . . . . : 00-00-00-00-00-00-E0
   DHCP 有効 . . . . . : いいえ
   自動構成有効 . . . . . : (はい)

c:\>
  
```

トラブルを解決する

- pathpingコマンド
宛先ホストまでに通過するルーターのリストや通信のルーティングを確認できます。
 - 書式：pathping xxx.xxx.xxx.xxx
 - 例：pathping 192.0.2.222



```
c:\>pathping 192.168.111.20

EPSONAB12AB [192.168.111.20] へのルートをトレースしています
経由するホップ数は最大 30 です:
  0  WIN2012R2.pubs.net [192.168.111.10]
  1  EPSONAB12AB [192.168.111.20]

統計を 25 秒間計算しています...
          ソースからここまで      このノード/リンク
ホップ  RTT   損失/送信 = Pct  損失/送信 = Pct  アドレス
  0                               WIN2012R2.pubs.net [192.168.111.10]
  1   62ms   3/ 100 = 3%      0/ 100 = 0%  EPSONAB12AB [192.168.111.20]

トレースを完了しました。

c:\>
```

接続テストをする

プリンターやプリンターと同じセグメントに接続されているコンピューターから、サーバーやフォルダーとの接続が正常かを確認し、トラブルの解決につなげます。

メールサーバー

プリンターとメールサーバーの接続をプリンターのテスト機能で確認できます。

関連情報

➔ [「メールサーバーとの接続を確認する」36ページ](#)

FTPサーバー

FTPサーバーの接続を、同じセグメントにあるコンピューターで確認します。アドレス帳に登録するFTPサーバーに、プリンターと同じセグメントのネットワーク上にあるコンピューターから、エクスプローラーを使ってアクセスができるか確認してください。

- パスの指定例：
 - FTPサーバー名：epsonftp
 - フォルダ名：manual
 - ftp://epsonftp/manual/

この場合はanonymousでログオンします。ユーザー名とパスワードを設定してある場合は、認証失敗時に表示されるダイアログにユーザー名とパスワードを入力するか、以下のようにユーザー名とパスワードを含めます。

ftp://username:password@epsonftp (ユーザー名：ftpusername、パスワード：ftppasswordの場合)

- 同じセグメント上のネットワーク指定例：
 - プリンターのIPアドレス：192.168.111.12、サブネットマスク：255.255.255.0
 - IPアドレスが192.168.111.2～192.168.111.255のコンピューターから確認

関連情報

- ➔ [「Web Configで宛先を登録する」 59ページ](#)

共有フォルダー

共有フォルダーへの接続を、同じセグメントにあるコンピューターで確認します。アドレス帳に登録する共有フォルダーに、プリンターとセグメントが同じネットワーク上のコンピューターでエクスプローラーからアクセスできるか確認してください。

関連情報

- ➔ [「Web Configで宛先を登録する」 59ページ](#)

DNSサーバー

コンピューターで参照しているDNSサーバーを確認します。プリンターと同じネットワークセグメント上にあるコンピューターのネットワークアダプターの状態を確認して、プリンターのDNS設定と同じかどうか確認してください。コンピューターのDNS設定は以下で確認できます。

- Windows：[コントロール パネル] - [ネットワークとインターネット] - [ネットワークと共有センター] - [アダプターの設定の変更]
複数のネットワーク/I/Fがある場合は、コマンドプロンプトでipconfig /allを入力して確認することもできます。
- Mac OS：[システム環境設定] - [ネットワーク] - [詳細] - [DNS] を選択します。

関連情報

- ➔ [「Web Configで宛先を登録する」 59ページ](#)

設定の初期化

Web Configから無線LANを無効にする

Web Configから無線LAN (Wi-Fi) を無効にします。無線LAN (Wi-Fi) 接続時に無線LANを無効にすると、無線接続が切断されます。

1. Web Configで[ネットワーク] タブ - [無線LAN] の順に選択して、[無効にする] を選択します。
2. メッセージを確認して、[設定] を選択します。



Web ConfigからWi-Fi Direct (シンプルAP) を無効にする

Web ConfigからWi-Fi Direct (シンプルAP) を無効にします。

1. Web Configで [ネットワーク] タブ - [Wi-Fi Direct] を選択します。
2. [Wi-Fi Direct] を [無効] にします。
3. [次へ] をクリックします。
4. メッセージを確認して、[設定] を選択します。

操作パネルから無線LANを無効にする

無線LAN (Wi-Fi) 接続時に無線LANを無効にすると、無線接続が切断されます。

1. ホーム画面で  をタップします。
2. [ルーター] を選択します。
ネットワーク状態が表示されます。
3. [設定を変更する] をタップします。
4. [その他] - [無線LANを無効にする] の順に選択します。
5. メッセージを確認して、設定を開始します。
6. 完了メッセージが表示されたら、画面を閉じます。
一定時間経過すると自動で画面が閉じます。
7. ネットワーク接続設定画面を閉じます。
8.  ボタンを押します。

操作パネルからWi-Fi Direct (シンプルAP) 接続を無効にする

参考 Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続で複数のコンピューターやスマートデバイスがプリンターと接続されていた場合、Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続を無効にすると、全ての接続が切断されます。特定の機器だけを切断したいときは、スマートデバイス側から接続を切断してください。

1. ホーム画面で  をタップします。
2. [Wi-Fi Direct] を選択します。
Wi-Fi Directの情報が表示されます。

3. [設定を変更する] をタップします。
4. [Wi-Fi Directを無効にする] を選択します。
5. [設定を無効にする] をタップします。
6. 完了メッセージが表示されたら、画面を閉じます。
一定時間経過すると自動で画面が閉じます。

操作パネルからネットワーク設定を初期の状態に戻す

ネットワーク設定全てを初期の状態に戻します。

1. プリンターのホーム画面で [設定] を選択します。
2. [本体設定] - [管理者用設定] - [初期設定に戻す] - [ネットワーク設定] を選択します。
3. メッセージを確認して、 [はい] を選択します。
4. 完了メッセージが表示されたら、画面を閉じます。
一定時間経過すると自動で画面が閉じます。

トラブル事例

Web Configにアクセスできない

プリンターのIPアドレスが設定されていない

プリンターに有効なIPアドレスが設定されていない可能性があります。プリンターの操作パネルでIPアドレスを設定してください。現在の設定は、ネットワークステータスシートやプリンターの操作パネルで確認できます。

WebブラウザがSSL/TLSの暗号強度に対応していない

SSL/TLSには暗号強度があります。Web Configは以下のメッセージ暗号化をサポートしているブラウザで起動できます。ブラウザの暗号強度の対応ビットをご確認ください。

- 80bit: AES256/AES128/3DES
- 112bit: AES256/AES128/3DES
- 128bit: AES256/AES128
- 192bit: AES256
- 256bit: AES256

CA署名証明書の有効期限が切れた

証明書の有効期限に問題がある場合、Web ConfigにSSL/TLS通信 (https) で接続したときに「有効期限が切れている」と表示されます。証明書の有効期限内に表示される場合は、プリンターの時刻が正しく設定されているか確認してください。

証明書とプリンターのコモンネームが一致していない

コモンネームの不一致が起こると、Web ConfigにSSL/TLS通信 (https) で接続したときに「セキュリティー証明書の名前が一致しません...」と表示されます。これは以下のIPアドレスが一致していないために発生します。

- 自己署名証明書の作成や更新時、CSRの作成時にコモンネームで記述したIPアドレス
- Web Configの起動時にブラウザに入力したIPアドレス

自己署名証明書の場合はプリンター名を変更してください。証明書が更新されて接続できるようになります。CA署名証明書の場合は該当のプリンター用に証明書を取得し直してください。

ブラウザにローカルアドレスのプロキシサーバー設定がされていない

プリンターでプロキシサーバーを使用する設定にしている場合、ブラウザでローカルアドレスへの接続にプロキシサーバーを経由しないよう設定します。

- Windows :
[コントロールパネル] - [ネットワークとインターネット] - [インターネットオプション] - [接続] - [LANの設定] の [プロキシ サーバー] で、LAN (ローカルアドレス) にプロキシサーバーを使わない設定にします。
- Mac OS :
[システム環境設定] - [ネットワーク] - [詳細] - [プロキシ] で [プロキシ設定を使用しないホストとドメイン] にローカルアドレスを登録します。
記入例：
ローカルアドレス192.168.1.XXX、サブネットマスク255.255.255.0 の場合：192.168.1.*
ローカルアドレス192.168.XXX.XXX、サブネットマスク255.255.0.0 の場合：192.168.*.*

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「IPアドレスを設定する」 19ページ](#)

操作パネルから共有フォルダーにスキャンできない

プリンター画面のメッセージを確認する

エラーが発生したときは、操作パネルにエラーメッセージが表示されます。

トラブルを解決する

メッセージ	対処方法
DNSエラーが発生しました。DNS設定を確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> • プリンターのアドレス帳に登録しているアドレスと、共有フォルダーのアドレスが同じに設定されているか確認してください。 • コンピューター名にひらがな、カタカナ、漢字、全角英数字の2バイト文字が使用されているときは、半角英数字に直して設定し、アドレス帳に登録し直してください。 • コンピューターのIPアドレスが手動で固定設定されているときは、ネットワークパスのコンピューター名をコンピューターのIPアドレスに置き換えてみてください。 例) \\EPSON02\SCAN → \\192.168.xxx.xxx\SCAN • 保存先コンピューターの電源が入っているか、またはスリープ状態になっていないか確認をしてください。スリープ状態のときは、共有フォルダーに保存できません。 • 保存先のコンピューターのファイヤーウォール、セキュリティソフトを一時的に停止して確認してください。エラーが解決したら、セキュリティソフトの設定を確認してください。 • IPアドレスがDHCPのとき、一度LANを切断すると、次にLANに接続したときにIPアドレスが変わることがあります。IPアドレスの取得をやり直してください。 • [設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] - [詳細設定] - [TCP/IP] の順に選択して、DNS設定を確認してください。 • サーバー、コンピューター、アクセスポイントのDNS設定を確認してください。 • DNSサーバーの管理テーブルが更新されていないとき、コンピューター名とIPアドレスが一致していないことがあります。コンピューター名とIPアドレスを確認してください。
認証エラーが発生しました。認証方式とアカウント名、パスワードを確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> • フォルダーの共有アクセスを許可しているユーザーのログオン名/パスワードと、アドレス帳に登録しているユーザー名/パスワードが一致しているか確認してください。また、パスワードの有効期限が切れていないか確認してください。 • [保存先] の設定を確認してください。
通信エラーが発生しました。ネットワーク接続状態を確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> • MS Networkが有効になっているかを確認してください。 • プリンターのアドレス帳に登録しているアドレスと、共有フォルダーのアドレスが同じに設定されているか確認してください。 • アドレス帳に登録しているユーザーのアクセス許可が、共有フォルダーのプロパティの [共有] タブと [セキュリティ] タブの両方に追加されていて、変更の許可にチェックが入っている必要があります。 • [保存先] の設定を確認してください。 • プリンターが正常にネットワーク接続できているか、ネットワーク接続診断をして確認してください。
同じ名前のファイルがあります。ファイル名を変更してスキャンし直してください。	<ul style="list-style-type: none"> • 保存先フォルダーにある同じ名前のファイルを削除してください。 • [ファイル設定] でファイルヘッダーを別の文字に変更してください。
スキャンしたファイルが大きすぎます。XXページが送信済みです。保存先を確認してください。	<ul style="list-style-type: none"> • 保存先フォルダーの容量を増やしてください。 • 原稿の枚数を減らしてください。 • スキャンの解像度を低くするか圧縮率を高くして、スキャンした画像のサイズを小さくしてください。
FTPサーバーとの接続に失敗しました。通信モードをFTPに変更してください。	アドレス帳に登録している通信モードをFTPに変更してください。通信モードについては『ユーザーズガイド』をご覧ください。

トラブルを解決する

メッセージ	対処方法
FTPサーバーとの接続に失敗しました。通信モードをFTPSに変更してください。	アドレス帳に登録している通信モードをFTPSに変更してください。通信モードについては『ユーザーズガイド』をご覧ください。
サーバーの安全性が確認できませんでした。以下を確認してください。日付/時刻設定	<ul style="list-style-type: none"> プリンターの日付や時刻の設定が正しいか確認してください。 Web Configを起動して、以下から相手サーバー検証用CA証明書の情報を確認してください。 [ネットワークセキュリティ] - [相手サーバー検証用CA証明書] Web Configを起動して、以下からルート証明書を更新してください。 [ネットワークセキュリティ] - [ルート証明書更新]
サーバーの安全性が確認できませんでした。Web Configで、相手サーバー検証用CA証明書を確認してください。	Web Configを起動して、以下から相手サーバー検証用CA証明書をプリンターにインポートしてください。 [ネットワークセキュリティ] - [相手サーバー検証用CA証明書]
サーバーの安全性が確認できませんでした。	サーバーから取得した証明書が壊れている場合などに表示されます。Web Configを起動して、以下から相手サーバー検証用CA証明書の情報を確認してください。 [ネットワークセキュリティ] - [相手サーバー検証用CA証明書]

エラーの発生箇所を確認する

共有フォルダーに保存するとき、以下の項目を上から順に行います。エラーが発生したとき、エラーの発生箇所を判断できます。

項目	動作内容	エラーメッセージ
接続	プリンターから保存先コンピューターに接続する。	DNSエラーが発生しました。DNS設定を確認してください。
		FTPサーバーとの接続に失敗しました。通信モードをFTPに変更してください。
		FTPサーバーとの接続に失敗しました。通信モードをFTPSに変更してください。
		サーバーの安全性が確認できませんでした。以下を確認してください。日付/時刻設定
		サーバーの安全性が確認できませんでした。Web Configで、相手サーバー検証用CA証明書を確認してください。
		サーバーの安全性が確認できませんでした。
コンピューターへのログオン	ユーザー名とパスワードを入れてログオンする。	認証エラーが発生しました。認証方式とアカウント名、パスワードを確認してください。
保存場所の確認	共有フォルダーのネットワークパスを確認する。	通信エラーが発生しました。ネットワーク接続状態を確認してください。

項目	動作内容	エラーメッセージ
ファイル名の確認	フォルダー内に同じ名前のファイルがないかを確認する。	同じ名前のファイルがあります。ファイル名を変更してスキャンし直してください。
ファイルの書き込み	フォルダーにファイルを書き込む。	スキャンしたファイルが大きすぎます。XXページが送信済みです。保存先を確認してください。

保存に時間がかかる

以下の設定を確認してください。

- [設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] - [詳細設定] - [TCP/IP] の順に選択して、DNS設定を確認してください。
- サーバー、コンピューター、アクセスポイントのDNS設定を確認してください。

プリンター共有時のトラブル

共有サーバーの動作が重い

共有プリンターの動作が重いときは以下の手順で対処してください。

1. プリントサーバーのコンピューターで [コントロールパネル] - [デバイスとプリンター] を選択します。
2. 共有したいプリンターアイコン (プリントキュー) を右クリックして、[プリンターのプロパティ] - [全般] タブを選択し、[基本設定] を選択します。
3. プリンタードライバーの [ユーティリティ] タブで [通知の設定] を選択します。
4. [共有プリンターをモニターさせる] にチェックを付けます。

プリントサーバーのプリンター設定がクライアントコンピューターに反映されない

以下の手順でクライアントコンピューターのドライバーを再インストールしてください。

1. プリントサーバーのコンピューターで [コントロールパネル] - [デバイスとプリンター] を選択します。
2. 共有するプリンターアイコンを右クリックし、[プリンターのプロパティ] - [詳細設定] タブを選択します。
3. [標準の設定] を選択し、プリンターの設定を行って [OK] をクリックします。

トラブルを解決する

4. クライアントコンピューターから共有プリンターのプリンタードライバーを削除します。

5. クライアントコンピューターにプリンタードライバーを再インストールします。



- クライアントコンピューターでプリンター設定を変更すると、プリントサーバーのプリンター設定（デフォルト設定など）がクライアントコンピューターに反映されなくなります。
- [お気に入り] ・ [ユーザー定義サイズ] ・ [カスタムメディア設定] ・ [メニューの整理] など、一部の設定は、クライアントコンピューターに反映されません。これらの設定は、プリントサーバーのプリンタードライバーから設定ファイル（お気に入り設定など）を書き出し、クライアントコンピューターで読み込むことで反映できます。

付録

ネットワーク関連のソフトウェア

デバイスの設定、管理用のソフトウェアを紹介します。

Epson Device Admin


Epson Device Adminは、ネットワーク上のデバイスの管理を行う多機能なアプリケーションソフトです。以下のような機能があります。

- セグメントを越えて1台から2000台のプリンターやスキャナーの監視、管理
- 消耗品やステータスの詳細なレポート機能
- ファームアップデート機能
- デバイスのネットワークへの導入
- 複数デバイスへの同じ設定値の適用

Epson Device Adminはエプソンのウェブサイトからダウンロードしてください。詳細はEpson Device Adminのヘルプやマニュアルをご覧ください。

Epson Device Adminの起動（Windowsのみ）

[すべてのプログラム] - [EPSON] - [Epson Device Admin] から [Epson Device Admin] を選択します。

 **参考** Windowsファイアウォールの警告画面が表示された場合は、Epson Device Adminを例外のプログラムに登録してください。

EpsonNet Config

EpsonNet Configはネットワーク上のデバイスの設定ができるアプリケーションソフトです。有線でネットワークに接続されていれば、IPアドレスのないデバイスでもIPアドレスの設定や接続形態の変更ができます。LCDパネルのないデバイスのネットワーク設定も容易に行えます。

詳細はEpsonNet Configのヘルプやマニュアルをご覧ください。



EpsonNet Configの起動 - Windows

[すべてのプログラム] – [EpsonNet] – [EpsonNet Config SE] から [EpsonNet Config] を選択します。

参考 Windowsファイアウォールの警告画面が表示された場合は、EpsonNet Configを例外のプログラムに登録してください。

EpsonNet Configの起動 - Mac OS

[移動] – [アプリケーション] – [Epson Software] – [EpsonNet] – [EpsonNet Config SE] から [EpsonNet Config] を選択します。

EpsonNet Print (Windowsのみ)

TCP/IP上でネットワーク印刷するためのソフトウェアです。インストーラーからプリンタードライバーなどと共にインストールされます。ネットワーク印刷にはEpsonNet Printポートを作成します。

- スプーラー画面にプリンターのステータスが表示できます。
- DHCP機能によって変更されたIPアドレスを自動追従します。
- ルーターを越えた場所（別セグメント）のプリンターも使用できます。
- 印刷データの送信プロトコルが使い分けられます。
- IPv6アドレスには対応していません。

EpsonNet SetupManager

ネットワークプリンターのドライバーやEPSONプリンターウィンドウ！3のインストールから印刷ポートの設定までを自動で実行するパッケージを作成するソフトウェアです。環境の異なるドライバーのパッケージを一括して作成できるため、ドライバーの配布やインストール、設定など管理者が行う環境構築作業を大幅に軽減できます。詳細はエプソンのウェブサイトをご覧ください。

ツールを使ったアドレス帳のエクスポートや一括登録

Epson Device Adminを使うと、アドレス帳だけをバックアップしたり、エクスポートしたファイルを編集して一括で登録したりできます。

アドレス帳だけをバックアップする場合や、プリンターの置き替え時に置き替え前のプリンターからアドレス帳を引き継ぐような場合に役立ちます。

アドレス帳をエクスポートする

アドレス帳の情報をファイルに保存します。

SYLK形式やcsv形式で保存したファイルは表計算ソフトやテキストエディターなどで編集できます。情報の削除や追加などをしてから一括で登録できます。

パスワードや個人情報などセキュリティー項目を含む情報は、パスワードを設定したバイナリー形式で保存できます。このファイルは編集できません。セキュリティー項目を含む情報のバックアップとして活用できます。

1. Epson Device Adminを起動します。
2. サイドバータスクメニューで [デバイス] を選択します。
3. デバイスリストで設定するデバイスを選択します。
4. リボンメニューの [ホーム] タブから [デバイスの設定] をクリックします。
管理者パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して [OK] をクリックします。
5. [共通] - [アドレス帳] をクリックします。
6. [エクスポート] - [エクスポートする項目] からエクスポート形式を選択します。
 - 全ての項目
暗号化したバイナリーファイルをエクスポートします。パスワードや個人情報などセキュリティー項目を含めたい場合に選択します。このファイルは編集できません。こちらを選択した場合はパスワードの設定が必要です。[設定] をクリックして、パスワードをASCII文字（8～63文字）で設定します。このパスワードはバイナリーファイルのインポート時に入力が必要です。
 - セキュリティー情報を除く項目
SYLK形式またはcsv形式のファイルをエクスポートします。エクスポートした情報を編集したい場合に選択します。
7. [エクスポート] をクリックします。

8. ファイルを保存する場所を指定し、ファイルの種類を選択して [保存] をクリックします。
エクスポート完了メッセージが表示されます。
9. [OK] をクリックします。
指定した場所にファイルが保存されていることを確認してください。

アドレス帳をインポートする

アドレス帳の情報をファイルからインポートします。

SYLK形式やcsv形式で保存したファイルや、セキュリティー項目を含む情報をバックアップしたバイナリーファイルをインポートできます。

1. Epson Device Adminを起動します。
2. サイドバータスクメニューで [デバイス] を選択します。
3. デバイスリストで設定するデバイスを選択します。
4. リボンメニューの [ホーム] タブから [デバイスの設定] をクリックします。
管理者パスワードを設定している場合は、パスワードを入力して [OK] をクリックします。
5. [共通] - [アドレス帳] をクリックします。
6. [インポート] の [参照] をクリックします。
7. インポートするファイルを選択して [開く] をクリックします。
バイナリーファイルを選択した場合、 [パスワード] にファイルをエクスポートしたときに設定したパスワードを入力します。
8. [インポート] をクリックします。
確認画面が表示されます。
9. [OK] をクリックします。
読み込み内容の検証が始まり、結果を表示します。
 - 読み込んだ情報を編集する
読み込んだ情報を個別に編集したい場合にクリックします。
 - 更にファイルを読み込む
複数のファイルをインポートしたい場合にクリックします。
10. [インポート] をクリックし、インポート完了画面で [OK] をクリックします。
デバイスのプロパティ画面に戻ります。
11. [送信] をクリックします。
12. 確認メッセージで [OK] をクリックします。
設定がプリンターに反映されます。

13. 送信完了画面で [OK] をクリックします。

プリンターの情報が更新されます。

Web Configや操作パネルからアドレス帳を開き、更新されていることを確認してください。

操作パネルを使って無線LANに接続する (WPS)

プリンターの操作パネルでWPS機能を使った無線LAN接続ができます。

関連情報

- ➔ [「プッシュボタンで自動設定する \(AOSS/WPS\) 」 111ページ](#)
- ➔ [「PINコードで設定する \(WPS\) 」 112ページ](#)

プッシュボタンで自動設定する (AOSS/WPS)

アクセスポイントのプッシュボタンで無線LAN (Wi-Fi) を自動設定する方法です。以下の条件に当てはまる場合は、この方法で設定できます。

- アクセスポイントがAOSSやWPS (Wi-Fi Protected Setup) に対応している
- 既存の無線LAN (Wi-Fi) をプッシュボタンで設定している

参考 プッシュボタンの位置がわからない、またはプッシュボタンがなくソフトウェアで操作する場合は、アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

1. ホーム画面で  |  をタップします。

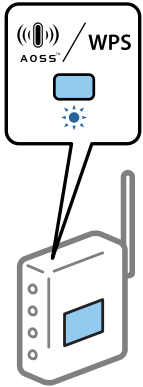
2. [ルーター] を選択します。

3. [設定に進む] をタップします。

既にネットワーク接続している場合は、接続状態の詳細が表示されます。設定を変更する場合は [無線LAN接続に変更する] または [設定を変更する] をタップします。

4. [プッシュボタンで設定(AOSS/WPS)] を選択します。

5. アクセスポイントのプッシュボタンをランプが点滅するまで押します。



プッシュボタンの位置がわからない、またはボタンが見当たらない場合は、アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

6. [設定を開始する] をタップします。

7. 画面を閉じます。

一定時間経過すると自動で画面が閉じます。

参考 接続に失敗した場合はアクセスポイントを再起動し、アクセスポイントとプリンターを近づけてから再度設定してください。それでも解決しないときは、ネットワーク接続診断レポートを印刷して対処方法を確認してください。

8. ネットワーク接続設定画面を閉じます。

PINコードで設定する (WPS)

PINコードを使ってアクセスポイントに接続する方法です。アクセスポイントがWPS (Wi-Fi Protected Setup) に対応している場合は、この方法で設定できます。PINコードをアクセスポイントに入力するときに、コンピューターを使います。

1. ホーム画面で  |  をタップします。

2. [ルーター] を選択します。

3. [設定に進む] をタップします。

既にネットワーク接続している場合は、接続状態の詳細が表示されます。設定を変更する場合は [無線LAN接続に変更する] または [設定を変更する] をタップします。

4. [その他] - [PINコード自動設定(WPS)] の順に選択します。

5. プリンターに表示されているPINコード (8桁の数字) を、2分以内にコンピューターからアクセスポイントに入力します。

参考 PINコードの入力方法は、アクセスポイントのマニュアルをご覧ください。

6. [設定を開始する] をタップします。

7. 画面を閉じます。

[閉じる] を選択しなくても、一定時間を経過すると次の画面に進みます。

参考 接続に失敗した場合はアクセスポイントを再起動し、アクセスポイントとプリンターを近づけてから再度設定してください。それでも解決しないときは、ネットワーク接続診断レポートを印刷して対処方法を確認してください。



8. ネットワーク接続設定画面を閉じます。

Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続を使う

Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続は、プリンターとデバイスを直接Wi-Fiで接続します。

プリンターが接続されているネットワークを経由しないので、ログオン権限のないネットワークに接続されたプリンターを一時的に使用するような場合にも使用できます。

操作パネルから Wi-Fi Direct (シンプルAP) 接続を有効にする

1. プリンターの操作パネルで  |  を選択します。

2. [Wi-Fi Direct] を選択します。

既にWi-Fi Direct (シンプルAP) が有効になっている場合は、接続状態が表示されます。

3. [設定に進む] を選択します。

4. [設定を開始する] を選択します。

Wi-Fi Direct (シンプルAP) が有効になると、ネットワーク (SSID) とパスワードが表示されます。

5. 画面を閉じます。

参考 スマートフォンやタブレットなどから、表示されたSSIDとパスワードを使ってWi-Fiで接続します。

Wi-Fi Direct (シンプルAP) の設定を変更する

Wi-Fi Direct (シンプルAP) が有効なとき、 |  - [Wi-Fi Direct] - [設定を変更する] を選択すると、以下のメニューが表示され設定を変更できます。

接続名を変更する

プリンターに接続するWi-Fi Direct (シンプルAP) の接続名 (SSID) を任意の値に変更します。接続名 (SSID) に設定できるのは、操作パネルのソフトキーボードに表示されたASCII文字です。

接続名 (SSID) を変更すると接続しているデバイスは全て切断されます。接続名を変更した場合は、接続する機器から新しい接続名 (SSID) で接続し直してください。

パスワードを変更する

プリンターに接続するWi-Fi Direct (シンプルAP) のパスワードを変更します。パスワードに設定できるのは、操作パネルのソフトキーボードに表示されたASCII文字です。

パスワードを変更すると接続しているデバイスは全て切断されます。パスワードを変更した場合は、接続する機器から新しいパスワードで接続し直してください。

Wi-Fi Directを無効にする

Wi-Fi Direct (シンプルAP) を無効にします。無効にすると接続しているデバイスは全て切断されます。

初期設定に戻す

Wi-Fi Direct (シンプルAP) 設定の全てを購入時の設定に戻します。

また、プリンターが保持しているスマートデバイスのWi-Fi Direct機能を使った接続情報の登録を削除します。

参考 以下の設定項目は、Web Configの [ネットワーク] タブ - [Wi-Fi Direct] から設定できます。

- Wi-Fi Direct (シンプルAP) を有効または無効にする
- ネットワーク名 (SSID) を変更する
- パスワードを変更する
- Wi-Fi Direct (シンプルAP) の設定を初期の状態に戻す

接続方法を変更する

既存のネットワーク接続方法を変更します。ネットワークが正常に動いている状態で変更してください。

IPアドレス取得を手動設定にしている場合、接続変更するネットワークで同じIPアドレスが使えるか、ネットワーク管理者に確認してから操作を始めてください。

参考 無線LANを有効にすると、有線LANは無効になります。

関連情報

- ➔ [「有線LANから無線LANへの接続変更」 114ページ](#)
- ➔ [「無線LANから有線LANへの接続変更」 115ページ](#)

有線LANから無線LANへの接続変更

操作パネルで無線LAN接続に変更する

プリンターの操作パネルで有線LAN接続から無線LAN接続に変更します。変更方法は操作パネルを使った無線LAN接続設定と同じです。このマニュアル内の無線LAN接続設定の説明をご覧ください。


関連情報

- ➔ [「無線LAN \(Wi-Fi\) に接続する」 24ページ](#)

Web Configで無線LAN接続に変更する

Web Configを使って有線LANから無線LANに接続変更します。

1. Web Configで [ネットワーク] タブ - [無線LAN] を選択します。
管理者パスワードが設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを入力して管理者としてログオンします。
2. [設定] をクリックします。
3. 表示されたSSIDの一覧から接続したいネットワーク (SSID) を選択して、パスワードを入力します。
アクセスポイントの設定によってはSSID が表示されないことがあります。その場合は [SSID入力] を選択して、接続するSSIDを直接入力してください。
4. [次へ] をクリックします。
5. 表示された内容を確認して [設定] をクリックします。
6. プリンターに接続されているLANケーブルを抜きます。

 **参考** Epson Device Adminを使用して接続変更することもできます。詳細はEpson Device Adminのマニュアルやヘルプをご覧ください。

関連情報

- ➔ [\[Web Configの起動\] 26ページ](#)
- ➔ [\[Epson Device Admin\] 107ページ](#)

無線LANから有線LANへの接続変更

操作パネルで有線LAN接続に変更する

無線LAN (Wi-Fi) 接続時に操作パネルから有線LAN接続に変更するには以下の手順で操作します。

1. ホーム画面で [設定] を選択します。
2. [本体設定] - [ネットワーク設定] - [有線LAN接続設定] を選択します。
3. [設定を開始する] をタップします。
4. メッセージを確認して画面を閉じます。
一定時間経過すると、自動で画面が閉じます。
5. プリンターとルーターをLANケーブルで接続します。


関連情報

- ➔ [\[有線LANに接続する\] 23ページ](#)

Web Configで有線LAN接続に変更する

Web Configを使って無線LAN接続から有線LAN接続に変更します。

1. Web Configで [ネットワーク] タブ - [無線LAN] を選択します。
管理者パスワードが設定されている場合は、ユーザー名とパスワードを入力して管理者としてログオンします。
2. [無効にする] をクリックします。
3. メッセージを確認して、 [OK] を選択します。
4. プリンターとハブ (LANスイッチ) をLANケーブルで接続します。

 **参考** Epson Device Adminを使用して接続変更することもできます。詳細はEpson Device Adminのマニュアルやヘルプをご覧ください。

関連情報

- ➔ [\[Web Configの起動\] 26ページ](#)
- ➔ [\[Epson Device Admin\] 107ページ](#)

プリンターが使用するポート

プリンターは以下のポートを使用します。必要に応じてあらかじめネットワーク管理者にポート使用を許可してもらいます。

付録

送信元 (クライアント)	用途	送信先 (サーバー)	プロトコル	ポート番号	
プリンター	ファイル送信 (プリンター本体のスキャン to ネットワークフォルダー機能利用時)	FTPサーバー	FTP (TCP)	20	
				21	
		ファイルサーバー	SMB (TCP)	445	
				NetBIOS (UDP)	137
					138
	NetBIOS (TCP)	139			
	メール送信 (プリンター本体のスキャン to メール機能利用時)	SMTPサーバー	SMTP (TCP)	25	
			SMTP SSL/TLS (TCP)	465	
			SMTP STARTTLS (TCP)	587	
	POP before SMTP接続 (プリンター本体のスキャン to メール機能利用時)	POPサーバー	POP3 (TCP)	110	
WSDの制御	クライアントコンピューター	WSD (TCP)	5357		
クライアントコンピューター	ファイル送信 (プリンター本体のFTP印刷利用時)	プリンター	FTP (TCP)	20	
				21	
	EpsonNet Configなどのアプリケーションソフト、プリンタードライバーからのプリンター探索	プリンター	ENPC (UDP)	3289	
	EpsonNet Configなどのアプリケーションソフト、エプソンのプリンタードライバーからのプリンターMIB情報の取得と設定	プリンター	SNMP (UDP)	161	
	LPRデータの転送	プリンター	LPR (TCP)	515	
	RAWデータの転送	プリンター	RAW (Port9100) (TCP)	9100	
	AirPrint (IPP/IPPS印刷) のデータの転送	プリンター	IPP/IPPS (TCP)	631	
	WSDのプリンター探索	プリンター	WS-Discovery (UDP)	3702	

エンタープライズセキュリティ設定編

この章では、高度なセキュリティ機能を説明しています。

セキュリティ設定と防止できる脅威

ネットワークにプリンターを接続すると、離れた場所からアクセスして使用できます。また、プリンターを共有してたくさんの方が使用でき、業務効率や利便性の向上に役立ちます。反面、不正アクセスや不正使用、データの改ざんなどのリスクも高くなります。インターネットにアクセスできる環境の場合はさらにリスクが高まります。

外部からのアクセスの保護を施していないプリンターは、本体に記憶している印刷履歴などをインターネットから読み取ることができてしまいます。

リスクを回避するため、エプソン製プリンターにはさまざまなセキュリティ技術を搭載しています。

お客様の情報環境での条件に合わせて、必要なセキュリティ設定をしてください。

機能名	どんな機能が	何を設定するのか	何を防止できるのか
SSL/TLS通信	ブラウザ経由でのコンピューターとの通信やファームウェアアップデートなどプリンターからインターネット上のエプソンサーバーにアクセスするような場合に通信内容がSSL/TLS通信で暗号化されます。	CA署名証明書をCA局から取得し、プリンターにインポートします。	CA署名証明書によってプリンターの身分が明確になることで、なりすましや不正アクセスを防げます。また、通信内容がSSL/TLSによって保護されるため、設定情報や印刷データ内容の漏えいが防げます。
プロトコルの制御	プリンターやコンピューター間の通信で使用するプロトコルやサービスを制御して、機能を有効、無効にします。	機能に対応したプロトコルやサービスを個別に許可、禁止します。	不要な機能を使用できなくすることで、意図されない利用によるセキュリティリスクを軽減できます。
IPsec/IPフィルタリング	特定のクライアントからのデータや、特定の種類のデータだけを通過、遮断する設定ができます。IPsecはIPパケット単位で保護(暗号化および認証)するため、セキュアでないプロトコルも安全に通信できます。	基本ポリシー、個別ポリシーを作成し、プリンターにアクセスできるクライアントやデータの種類を設定します。	プリンターへの不正アクセス、通信データの傍受や改ざんを防止できます。
IEEE802.1X	無線LAN や有線LAN へ認証された利用者だけに接続を許可します。許可された利用者だけがプリンターを使用できるようにします。	RADIUS サーバー (認証サーバー) への認証設定をします。	不正なプリンターへのアクセスや使用を防止できます。

関連情報

- ➔ [「プリンターとのSSL/TLS通信」 120ページ](#)
- ➔ [「利用するプロトコルを制御する」 128ページ](#)
- ➔ [「IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する」 133ページ](#)
- ➔ [「IEEE802.1X環境にプリンターを接続する」 145ページ](#)

セキュリティ機能の設定

IPsec/IPフィルタリングやIEEE802.1Xなどの設定は、改ざん、傍受などセキュリティのリスク低減のために、SSL/TLS通信でWeb Configにアクセスして設定することをお勧めします。

また、設定に使うコンピューターは、プリンターとLANケーブルで直結し、ブラウザでIPアドレスを入力してWeb Configを起動して設定できます。セキュリティ設定が完了してからプリンターをセキュアな環境へ接続できます。

プリンターとのSSL/TLS通信

SSL/TLS (Secure Sockets Layer/Transport Layer Security) 通信でプリンターにサーバー証明書を設定して、コンピューターとの通信経路を暗号化できます。なりすましや不正アクセスを防ぎたいときに設定してください。

使用できる電子証明書

- **CA署名証明書**
認証機関 (CA局) によって署名された証明書です。CA局に申請して取得します。この証明書はプリンターの実在性を証明し、SSL/TLS通信に使用されるため、データ通信の安全が確保できます。
SSL/TLS通信に使用する場合は、サーバー証明書として利用されます。
IPsec/IPフィルタリング、IEEE802.1Xに設定する場合は、クライアント証明書として利用されます。
- **CA証明書**
CA署名証明書のチェーン内の証明書で、中間CA証明書とも呼ばれます。相手サーバーまたはWeb Configにアクセスするブラウザが、プリンターの証明書パスを検証するために使用されます。
相手サーバー検証用のCA証明書は、プリンターからアクセスするサーバーの証明書パスを検証する場合に設定します。プリンターでは、SSL/TLS通信用のCA署名証明書の証明書パスを証明するために設定します。
プリンターのCA証明書は、CA署名証明書を発行したCA局から入手できます。
また、相手サーバー検証に使用するCA署名証明書は、相手サーバーのCA署名証明書を発行したCA局から入手できます。
- **自己署名証明書**
プリンター自らが署名し、発行した証明書です。ルート証明書とも呼ばれます。発行者が自分自身を証明しているので、証明書として信頼性がなく、なりすましは防げません。
セキュリティ設定をする際にCA署名証明書なしで簡易的にSSL/TLS通信を行う場合に使用してください。
ブラウザに証明書の登録がないために、SSL/TLS通信でプリンターにアクセスするとセキュリティ警告が出ることがあります。自己署名証明書はSSL通信のみで使用できます。

関連情報

- ➔ [「CA署名証明書の取得とインポート」 120ページ](#)
- ➔ [「CA署名証明書を削除する」 125ページ](#)
- ➔ [「自己署名証明書を更新する」 127ページ](#)

CA署名証明書の取得とインポート

CA署名証明書を取得する

CA署名証明書を取得するにはCSR (証明書発行要求) を生成し、CA局に申請します。CSRはWeb Configかコンピューターで生成してください。

ここではWeb Configから取得する方法を説明します。Web Configで生成したCSRの証明書はPEM/DER形式です。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティー] タブを選択し、[SSL/TLS] - [証明書] または [IPsec/IPフィルタリング] - [クライアント証明書] または [IEEE802.1X] - [クライアント証明書] を選択します。

どれを選択しても同じ証明書が取得でき、共通で使用できます。

2. [CSR] の [生成] をクリックします。

CSR生成画面が開きます。

3. 各項目を設定します。

参考 対応している公開鍵長や省略の可否はCA局によって異なる場合があります。申請するCA局のルールに従って記載してください。

4. [設定] をクリックします。

生成されると完了メッセージが表示されます。

5. [ネットワークセキュリティー] タブを選択し、[SSL/TLS] - [証明書] または [IPsec/IPフィルタリング] - [クライアント証明書] または [IEEE802.1X] - [クライアント証明書] を選択します。

6. CA局規定のファイル形式に従い [CSR] のダウンロードボタンをクリックして、CSRをコンピューターにダウンロードします。

！重要 再度CSRを生成しないでください。交付されたCA署名証明書がインポートできなくなります。

7. 保存したCSRをCA局に送付し、CA署名証明書を入手します。

送付方法や送付形態は、CA局の規定に従ってください。

8. 入手したCA署名証明書を、プリンターに接続しているコンピューターに保存します。

指定場所にCA署名証明書ファイルが保存されたら完了です。

CSRの設定項目



項目	設定値と説明
公開鍵長	CSRに使用する公開鍵長を選択します。
コモンネーム	1～128文字以内で入力できます。IPアドレスを指定するときは、固定のIPアドレスを設定します。IPv4アドレス、IPv6アドレス、ホスト名、FQDNを「,」カンマで区切って1～5個入力できます。 先頭の要素がコモンネームに格納され、その他の要素は証明書のサブジェクトの別名フィールドに格納されます。 記入例： プリンターのIPアドレス：192.0.2.123、プリンター名：EPSONA1B2C3 コモンネーム：EPSONA1B2C3,EPSONA1B2C3.local,192.0.2.123
組織名/ 部署名/ 市町村名/ 都道府県名	ASCII (0x20-0x7E)で表せる0～64文字以内（部署名は55文字以内）で入力できます。識別名（CN）はカンマで分割できます。
国コード	ISO-3166で規定している2文字の国コードを入力します。

関連情報

➔ [「CA署名証明書を取得する」 120ページ](#)

CA署名証明書をインポートする

取得したCA署名証明書をプリンターにインポートします。

- ！重要**
- プリンターの日付と時刻が正しく設定されていることを確認してください。証明書が無効になる場合があります。
 - Web Configで生成したCSRで証明書を取得した場合、証明書をインポートできるのは一度だけです。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブを選択し、[SSL/TLS] - [証明書] または [IPsec/IPフィルタリング] - [クライアント証明書] または [IEEE802.1X] - [クライアント証明書] を選択します。

2. [インポート] をクリックします。

証明書インポート設定画面が開きます。

3. 各項目を設定します。[CA証明書1]、[CA証明書2] はプリンターにアクセスするブラウザで証明書のパスを検証する場合に設定してください。

インポートの設定内容は、CSRの生成場所や証明書のファイル形式によって異なります。以下を参考にして入力が必要な項目を設定してください。

- Web Configから取得したPEM/DER形式の証明書
 - [秘密鍵]：プリンターで保持しているため設定しない
 - [パスワード]：設定しない
 - [CA証明書1] / [CA証明書2]：任意
- コンピューターから取得したPEM/DER形式の証明書
 - [秘密鍵]：設定する
 - [パスワード]：設定しない
 - [CA証明書1] / [CA証明書2]：任意
- コンピューターから取得したPKCS#12形式の証明書
 - [秘密鍵]：設定しない
 - [パスワード]：任意
 - [CA証明書1] / [CA証明書2]：設定しない

4. [設定] をクリックします。

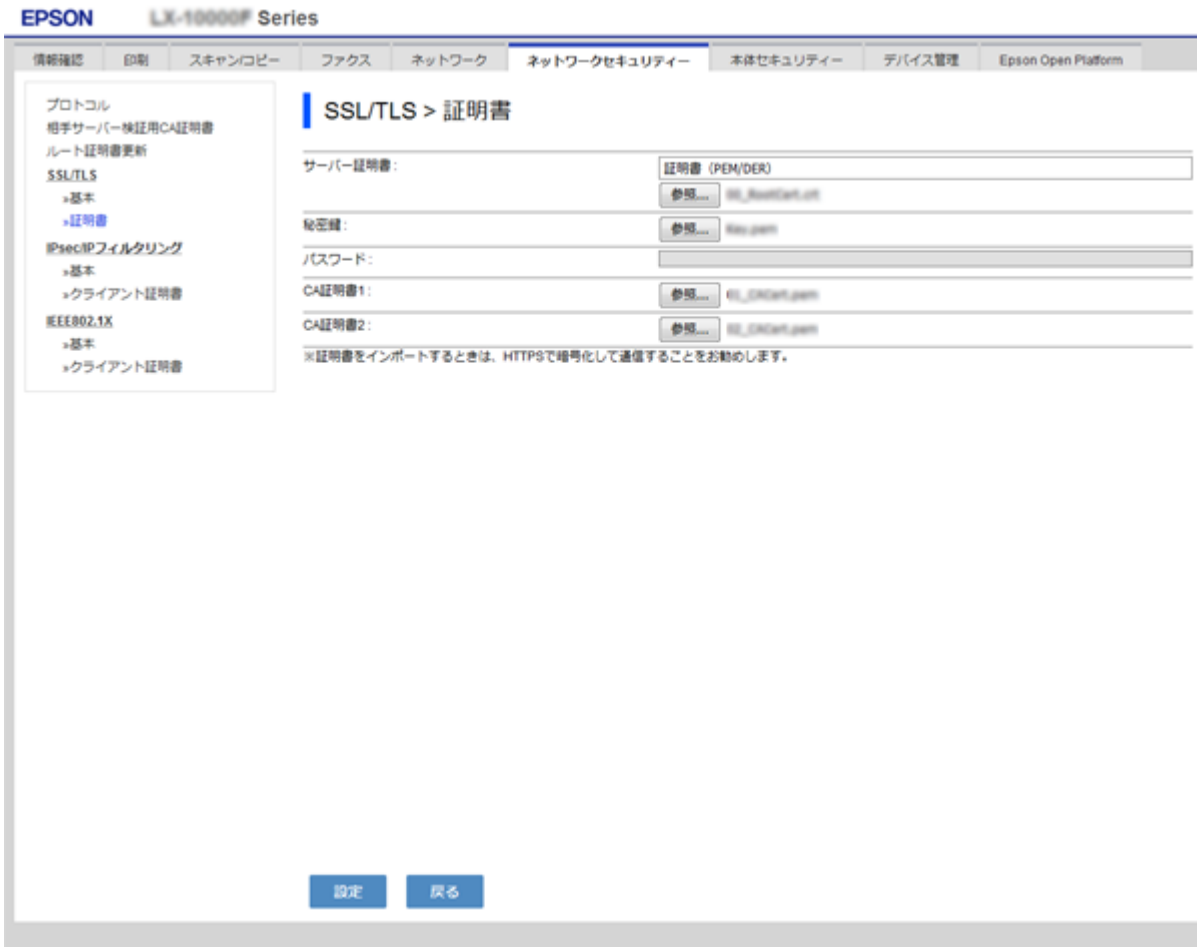
インポートされると完了メッセージが表示されます。

参考 [表示] をクリックするとインポートした証明書の情報が確認できます。

関連情報

- ➔ [\[Web Configの起動\] 26ページ](#)
- ➔ [\[CA署名証明書のインポート設定項目\] 124ページ](#)

CA署名証明書のインポート設定項目



項目	設定値と説明
サーバー証明書 または クライアント証明書	取得したCA署名証明書のファイル形式を選択し、ファイルを指定します。 SSL/TLSの場合、サーバー証明書になります。 IPsec/IP フィルタリング、IEEE802.1Xの場合はクライアント証明書になります。
秘密鍵	コンピューターで生成したCSRでPEM/DER形式の証明書を取得した場合、証明書と対になった秘密鍵ファイルを指定します。
パスワード	ファイル形式が「秘密鍵付き証明書 (PKCS#12)」の場合、証明書取得時に設定した秘密鍵暗号化のパスワードを入力します。
CA証明書1	ファイル形式が「証明書 (PEM/DER)」の場合、サーバー証明書として使うCA署名証明書を発行したCA局の証明書をインポートします。必要に応じて設定してください。
CA証明書2	ファイル形式が「証明書 (PEM/DER)」の場合、CA証明書1を発行した機関の証明書をインポートします。必要に応じて設定してください。

関連情報

➔ [「CA署名証明書をインポートする」 123ページ](#)

CA署名証明書を削除する

サービスが無効になった証明書や使用していない証明書は削除できます。

！重要 Web Configで生成したCSRで取得した証明書は、一度削除すると再インポートができません。必要な場合はCSRを再生成して取得し直してください。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブを選択します。[SSL/TLS] - [証明書] または [IPsec/IPフィルタリング] - [クライアント証明書] または [IEEE802.1X] - [クライアント証明書] を選択します。
2. [削除] をクリックします。
3. 確認のメッセージを確認して、削除します。

相手サーバー検証用CA証明書を設定する

相手サーバー検証用CA証明書を設定すると、プリンターがアクセスするサーバーの、CA証明書のパスを検証できます。これによってなりすましを防止できます。

相手サーバー検証用CA証明書は相手サーバーのCA署名証明書を発行したCA局から入手できます。

関連情報

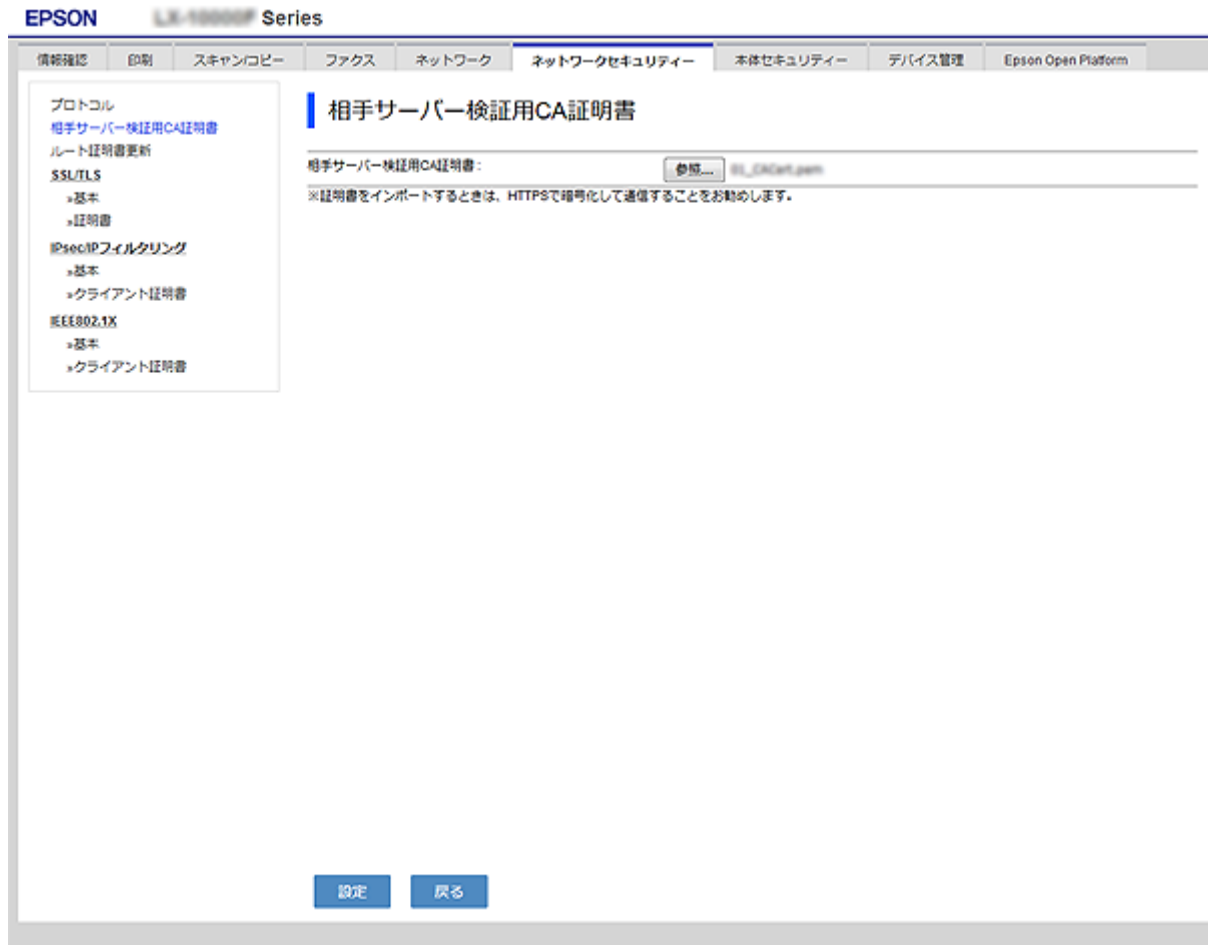
- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「CSRの設定項目」 122ページ](#)
- ➔ [「CA署名証明書をインポートする」 123ページ](#)

相手サーバー検証用CA証明書をインポートする

相手サーバー検証用CA証明書 をプリンターにインポートします。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブ - [相手サーバー検証用CA証明書] を選択します。
2. [インポート] をクリックします。

3. インポートする相手サーバー検証用CA証明書ファイルを指定します。



4. [設定] をクリックします。

インポートされると [相手サーバー検証用CA証明書] に戻り、インポートされた相手サーバー検証用CA証明書の情報が表示されます。

相手サーバー検証用CA証明書を削除する

インポート済みの相手サーバー検証用CA証明書を削除します。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブ - [相手サーバー検証用CA証明書] を選択します。

- 削除したい相手サーバー検証用CA証明書の [削除] をクリックします。



- 確認のメッセージを確認して、削除します。
- [ネットワーク再起動] をクリックし、更新された画面で削除したCA証明書が一覧にないことを確認してください。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

自己署名証明書を更新する

自己署名証明書はプリンターが発行しているので、有効期限が切れた場合や記載している内容に変更があった場合などに更新できます。

- Web Configで [ネットワークセキュリティー] タブ - [SSL/TLS] - [証明書] を選択します。
- [更新] をクリックします。

3. [コモンネーム] を入力します。

IPv4アドレス、IPv6アドレス、ホスト名、FQDNを「.」カンマで区切って5個まで、1～128文字以内で入力できます。先頭の要素がコモンネームに格納され、その他の要素は証明書のサブジェクトの別名フィールドに格納されます。

記入例：

プリンターのIPアドレス：192.0.2.123、プリンター名：EPSONA1B2C3

コモンネーム：EPSONA1B2C3,EPSONA1B2C3.local,192.0.2.123

4. 証明書の有効期間を選択します。

5. [次へ] をクリックします。

確認画面が表示されます。

6. [設定] をクリックします。

設定がプリンターに反映されます。

参考 [ネットワークセキュリティー] タブ - [SSL/TLS] - [証明書] - [自己署名証明書] にある [表示] をクリックすると証明書の情報が確認できます。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

利用するプロトコルを制御する

プリンターに印刷する場合、いろいろな経路やプロトコルから印刷できます。

使わない機能やプロトコル、サービスを無効にすることで意図しない経路からの不正なアクセスや印刷などのセキュリティーリスクを軽減できます。

プロトコルを制御する

プリンターが対応している制御可能なプロトコルの設定をします。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティー] タブ - [プロトコル] を選択します。

2. 各項目を設定します。

3. [次へ] をクリックします。

4. [設定] をクリックします。

設定がプリンターに反映されます。

有効・無効が設定可能なプロトコル

プロトコル	説明
Bonjour設定	Bonjourを使用するかを指定できます。Bonjourは機器の検索や印刷などに使われます。
iBeacon設定	iBeacon対応機器からの探索の有効・無効が設定できます。有効にするとiBeacon対応機器からの探索ができるようになります。
SLP設定	SLP機能の有効・無効が設定できます。SLPIはエプソンプリンターではプッシュスキャン機能やEpsonNet Configでのネットワーク探索に使われます。
WSD設定	WSD機能の有効・無効が設定できます。WSDデバイスの追加やWSDポートからの印刷ができるようになります。
LLTD設定	LLTDの有効・無効が設定できます。有効にするとWindowsのネットワークマップに表示されるようになります。
LLMNR設定	LLMNRの有効・無効が設定できます。有効にするとDNSが使えない状況でもNetBIOSを使用せずに名前解決ができるようになります。
LPR設定	LPR印刷を許可するかを指定できます。有効にするとLPRポートからの印刷ができるようになります。
RAW (Port9100) 設定	RAWポート (Port9100) からの印刷を許可するかを指定できます。有効にするとRAWポート (Port9100) からの印刷ができるようになります。
IPP設定	IPPからの印刷を許可するかを指定できます。有効にするとインターネット経由の印刷ができるようになります。
FTP設定	FTP印刷を許可するかを指定できます。有効にするとFTPサーバーからの印刷ができるようになります。
SNMPv1/v2c設定	SNMPv1/v2cの有効・無効を指定できます。エプソンプリンターでは機器の設定や監視などに使われます。
SNMPv3設定	SNMPv3の有効・無効を指定できます。エプソンプリンターでは暗号化した機器の設定や監視などの通信で使われます。

プロトコルの設定項目



Bonjour設定

項目	設定値と説明
Bonjourを使用する	チェックを入れるとBonjourで機器を検索または使用することを許可します。
Bonjour名	Bonjour名が表示されます。
Bonjourサービス名	Bonjourサービス名が表示されます。
ロケーション	Bonjourのロケーションが表示されます。
最優先プロトコル	Bonjour印刷の最優先プロトコルを選択します。
Wide-Area Bonjour	Wide-Area Bonjourを使用するかどうかを設定します。

iBeacon設定

項目	設定値と説明
iBeacon対応機器からの探索を有効にする	チェックを入れるとiBeacon対応機器からの探索が有効になります。

エンタープライズセキュリティ設定編

SLP設定

項目	設定値と説明
SLP機能を有効にする	チェックを入れるとSLP機能が有効になります。 EpsonNet Configでのネットワーク探索に使われます。

WSD設定

項目	設定値と説明
WSDを有効にする	チェックを入れるとWSDによるデバイス追加が有効になります。
印刷タイムアウト (秒)	WSD印刷の通信タイムアウト時間を3~3600秒の範囲で入力します。
デバイス名	WSDのデバイス名が表示されます。
ロケーション	WSDのロケーションが表示されます。

LLTD設定

項目	設定値と説明
LLTDを有効にする	チェックを入れるとLLTDが有効になります。有効にするとWindowsのネットワークマップに表示されるようになります。
デバイス名	LLTDのデバイス名が表示されます。

LLMNR設定

項目	設定値と説明
LLMNRを有効にする	チェックを入れるとLLMNRが有効になります。有効にするとDNSが使えない状況でもNetBIOSを使用せずに名前解決ができるようになります。

LPR設定

項目	設定値と説明
LPRポートからの印刷を許可する	チェックを入れるとLPRポートからの印刷を許可します。
印刷タイムアウト (秒)	LPR印刷の通信のタイムアウト時間を0~3600秒の範囲で入力します。「0」はタイムアウトなしを表します。

RAW (Port9100) 設定

項目	設定値と説明
RAWポート(Port9100)からの印刷を許可する	チェックを入れるとRAWポート (Port9100) からの印刷を許可します。

エンタープライズセキュリティ設定編

項目	設定値と説明
印刷タイムアウト (秒)	RAW (Port9100) 印刷の通信タイムアウト時間を0~3600秒の範囲で入力します。「0」はタイムアウトなしを表します。

IPP設定

項目	設定値と説明
IPPを有効にする	チェックを入れるとIPP通信が有効になります。IPPをサポートしているプリンターのみ表示されます。
非セキュア通信を許可する	〔許可する〕を選択すると非セキュア (IPP) で通信します。
通信タイムアウト (秒)	IPP印刷の通信のタイムアウト時間を0~3600秒の範囲で入力します。「0」はタイムアウトなしを表します。
URL (ネットワーク)	ネットワークに接続されている場合にIPPのURL (httpとhttps)が併記されます。URLはプリンターのIPアドレスとポート番号とIPPのプリンター名が組み合わされた値です。
URL (Wi-Fi Direct)	Wi-Fi Directで接続されている場合にIPPのURL (httpとhttps)が併記されます。URLはプリンターのIPアドレスとポート番号とIPPのプリンター名が組み合わされた値です。
プリンター名	IPPのプリンター名が表示されます。
ロケーション	IPPのロケーションが表示されます。

FTP設定

項目	設定値と説明
FTPサーバーを有効にする	チェックを入れるとFTP通信が有効になります。FTP印刷をサポートしているプリンターのみ表示されます。
通信タイムアウト (秒)	FTP印刷の通信のタイムアウト時間を0~3600秒の範囲で入力します。「0」はタイムアウトなしを表します。

SNMPv1/v2c設定

項目	設定値と説明
SNMPv1/v2cを有効にする	チェックを入れるとSNMPv1/v2cを有効にします。
アクセス権限	SNMPv1/v2cを有効にした場合にアクセス権限を設定します。〔読み込み専用〕または〔読み書き可能〕を選択します。
コミュニティ名 (読み込み専用)	ASCII (0x20~0x7E) で表せる32文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。
コミュニティ名 (読み書き可能)	ASCII (0x20~0x7E) で表せる32文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。

SNMPv3設定

項目		設定値と説明
SNMPv3を有効にする		チェックを入れるとSNMPv3が有効になります。
ユーザー名		1バイト文字を使って1～32文字以内で入力します。
認証設定		
	アルゴリズム	SNMPv3の認証用のアルゴリズムを選択します。
	パスワード	SNMPv3の認証パスワードを入力します。 ASCII (0x20-0x7E)で表せる32文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。
	パスワード確認入力	確認のため、入力したパスワードをもう一度入力します。
暗号化設定		
	アルゴリズム	暗号化アルゴリズムを選択します。
	パスワード	暗号化パスワードを入力します。 ASCII (0x20-0x7E)で表せる32文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。
	パスワード確認入力	確認のため、入力したパスワードをもう一度入力します。
コンテキスト名		Unicode (UTF-8) で表せる32文字以内で入力します。指定しない場合は空白にします。言語によって扱える文字数は異なります。

IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する

IPsec/IPフィルタリングの概要

IPsec/IPフィルタリング機能を使用すると、IPアドレス、サービスの種類、受信や送信ポートなどをフィルタリングできます。これらを組み合わせることによって、特定のクライアントからのデータや特定の種類のデータを通過させたり、遮断したりできます。IPsecと組み合わせることによってさらに強固なセキュリティ通信ができます。

 Windows Vista以降またはWindows Server 2008以降のWindowsは、IPsecに対応しています。

基本ポリシーを設定する

フィルタリングのために基本ポリシーを設定します。基本ポリシーはプリンターにアクセスする全てのクライアントに影響します。より細かくアクセスを制御するには、個別ポリシーを設定します。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブ - [IPsec/IPフィルタリング] - [基本] を選択します。

2. 各項目を設定します。
3. [次へ] をクリックします。
確認画面が表示されます。
4. [設定] をクリックします。
設定がプリンターに反映されます。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「基本ポリシーの設定項目」 134ページ](#)

基本ポリシーの設定項目

[基本ポリシー]

項目	設定値と説明
IPsec/IPフィルタリング	IPsec/IPフィルタリング機能を有効または無効にします。

- [通信処理]
IP通信の制御方法を設定します。

項目	設定値と説明
通信を通過	IPパケットの通過を許可するときに選択します。
通信を遮断	IPパケットを遮断したいときに選択します。
IPsecの使用	IPsecで送られたパケットの通過を許可するときに選択します。

エンタープライズセキュリティ設定編

- [IKEバージョン]
[IKEバージョン] で [IKEv1] または [IKEv2] を選択します。プリンターを接続する機器に合わせて選択してください。
- IKEv1
[IKEバージョン] で [IKEv1] を選択すると表示されます。

項目	設定値と説明
認証方式	CA署名証明書をインポートすると [証明書] が選択できるようになります。
事前共有キー	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、1～127文字以内で事前共有キーを設定します。
事前共有キー確認入力	確認のため、設定したキーをもう一度入力します。

- IKEv2
[IKEバージョン] で [IKEv2] を選択すると表示されます。

項目	設定値と説明	
ローカル認証	認証方式	CA署名証明書をインポートすると [証明書] が選択できるようになります。
	IDの種類	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、プリンターを何のIDで認証させるか選択します。
	ID	IDの種類に合わせてプリンターのIDを入力します。 いずれの場合も先頭に@#=は使用できません。 [識別名] : ASCII (0x20～0x7E) で表せる1バイト文字で0～255文字以内で入力します。=を含めてください。 [IPアドレス] : IPv4またはIPv6形式で入力します。 [FQDN] : 半角英数字、ドット、ハイフンを組み合わせて1～255文字以内で入力します。 [メールアドレス] : ASCII (0x20～0x7E) で表せる1バイト文字で0～255文字以内で入力します。@を含めてください。 [任意の文字列] : ASCII (0x20～0x7E) で表せる1バイト文字で0～255文字以内で入力します。
	事前共有キー	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、1～127文字以内で事前共有キーを設定します。
	事前共有キー確認入力	確認のため、設定したキーをもう一度入力します。

エンタープライズセキュリティ設定編

項目		設定値と説明
リモート認証	認証方式	CA署名証明書をインポートすると [証明書] が選択できるようになります。
	IDの種類	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、認証相手を表すIDの種類を選択します。
	ID	IDの種類に合わせてプリンターのIDを入力します。 いずれの場合も先頭に@#=は使用できません。 [識別名] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。=を含めてください。 [IPアドレス] : IPv4またはIPv6形式で入力します。 [FQDN] : 半角英数字、ドット、ハイフンを組み合わせて1~255文字以内で入力します。 [メールアドレス] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。@を含めてください。 [任意の文字列] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。
	事前共有キー	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、1~127文字以内で事前共有キーを設定します。
	事前共有キー確認入力	確認のため、設定したキーをもう一度入力します。

- [カプセル化]
[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecの通信モードを設定します。

項目	設定値と説明
トランスポートモード	主に同じLAN内だけでプリンターとIPsec通信をする場合に選択します。IPパケットのレイヤー4以上のデータ部のみが暗号化されます。
トンネルモード	主にIPsec-VPNのようなインターネットが有効なネットワークでプリンターを接続するときを選択します。IPパケットのヘッダーとデータが暗号化されます。 [リモートゲートウェイアドレス(トンネルモード)] : [カプセル化] で [トンネルモード] を選択した場合、1~39文字以内でゲートウェイアドレスを設定します。

- [セキュリティープロトコル]
[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecのセキュリティープロトコルを選択します。

項目	設定値と説明
ESP	認証とデータの完全性の保証に加えてデータ全体を暗号化します。
AH	認証とデータの完全性の保証をします。データの暗号化が禁止されていてもIPsec通信ができます。

- [アルゴリズム設定]
 全ての設定で [任意] を選択するか、全て個別に選択することをお勧めします。一部のアルゴリズム設定を [任意] にして一部を選択した場合、相手の設定によっては通信ができない場合があります。

項目		設定値と説明
IKE	暗号化アルゴリズム	IKEで利用する暗号化アルゴリズムを選択します。 IKEのバージョンで選択できる項目が異なります。
	認証アルゴリズム	IKEで利用する認証アルゴリズムを選択します。
	鍵交換アルゴリズム	IKEで利用する鍵交換アルゴリズムを選択します。 IKEのバージョンで選択できる項目が異なります。
ESP	暗号化アルゴリズム	ESPで利用する暗号化アルゴリズムを選択します。 [セキュリティプロトコル] が [ESP] のときに選択できます。
	認証アルゴリズム	ESPで利用する認証アルゴリズムを選択します。 [セキュリティプロトコル] が [ESP] のときに選択できます。
AH	認証アルゴリズム	AHで利用する認証アルゴリズムを選択します。 [セキュリティプロトコル] が [AH] のときに選択できます。

関連情報

- ➔ [「基本ポリシーを設定する」 133ページ](#)

個別ポリシーを設定する

個別ポリシーは、プリンターへの各アクセスに適用されるルールです。IPパケットを受け取ったプリンターはポリシーを参照し、IPパケットを制御します。ポリシーは、個別ポリシー1、個別ポリシー2と順に適用され、最後に基本ポリシーが適用されます。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブ - [IPsec/IPフィルタリング] - [基本] を選択します。
2. 設定したい番号のタブをクリックします。
3. 各項目を設定します。
4. [次へ] をクリックします。
確認画面が表示されます。
5. [設定] をクリックします。
設定がプリンターに反映されます。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「個別ポリシーの設定項目」 138ページ](#)

個別ポリシーの設定項目

項目	設定値と説明
この個別ポリシーを有効にする	選択している個別ポリシーを有効または無効にします。

[通信処理]

IP通信の制御方法を設定します。

項目	設定値と説明
通信を通過	IPパケットの通過を許可するときに選択します。
通信を遮断	IPパケットを遮断したいときに選択します。
IPsecの使用	IPsecで送られたパケットの通過を許可するときに選択します。

[ローカルアドレス (プリンター)]

お使いの環境に合ったIPv4アドレスまたはIPv6アドレスを選択します。IPアドレスの取得方法が自動の場合は、[自動取得したIPv4アドレスを使用する]が選択できます。

参考 IPv6アドレスが自動取得の場合、リースや有効期限切れで通信できなくなることがあります。固定のIPv6アドレスを設定してください。

[リモートアドレス (ホスト)]

通信を制御する機器のIPアドレスを入力します。IPアドレスは43文字以内で入力してください。何も入力しないと、全てのIPアドレスが制御の対象になります。

参考 IPアドレスがDHCPや自動取得 (IPv6) の場合、リースや有効期限切れで通信できなくなることがあります。固定のIPアドレスを設定してください。

[ポート指定方法]

ポートの指定方法を設定します。

- サービス名
[ポート指定方法] で [サービス名] を選択した場合、IPsecのセキュリティプロトコルを選択します。
- トランスポートプロトコル
[ポート指定方法] で [ポート番号] を選択した場合、IPsecの通信モードを設定します。

項目	設定値と説明
全てのプロトコル	全てのプロトコルタイプを制御したい場合に選択します。
TCP	ユニキャストのデータを制御したい場合などに選択します。
UDP	ブロードキャストやマルチキャストのデータを制御したい場合などに選択します。
ICMPv4	pingコマンドを制御したい場合などに選択します。

- ローカルポート番号
[ポート指定方法] で [ポート番号] を選択し、かつ [トランスポートプロトコル] で [TCP] または [UDP] を選択した場合は、受信パケットを制御するポート番号をカンマで区切って記述します。最大10個指定できます。
記入例：20,80,119,5220
何も記述しないと、全てのポートが制御の対象になります。

エンタープライズセキュリティ設定編

- リモートポート番号

[ポート指定方法] で [ポート番号] を選択し、かつ [トランスポートプロトコル] で [TCP] または [UDP] を選択した場合は、送信パケットを制御するポート番号をカンマで区切って記述します。最大10個指定できます。

記入例：25,80,143,5220

何も記述しないと、全てのポートが制御の対象になります。

[IKEバージョン]

[IKEバージョン] で [IKEv1] または [IKEv2] を選択します。プリンターを接続する機器に合わせて選択してください。

- IKEv1

[IKEバージョン] で [IKEv1] を選択すると表示されます。

項目	設定値と説明
認証方式	[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecのセキュリティプロトコルを選択します。この証明書は基本ポリシーで設定したCA署名証明書と共通です。
事前共有キー	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、1～127文字以内で事前共有キーを設定します。
事前共有キー確認入力	確認のため、設定したキーをもう一度入力します。

エンタープライズセキュリティ設定編

- IKEv2
 [IKEバージョン] で [IKEv2] を選択すると表示されます。

項目		設定値と説明
ローカル認証	認証方式	[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecのセキュリティプロトコルを選択します。この証明書は基本ポリシーで設定したCA署名証明書と共通です。
	IDの種類	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、プリンターを何のIDで認証させるか選択します。
	ID	IDの種類に合わせてプリンターのIDを入力します。 いずれの場合も先頭に@#=は使用できません。 [識別名] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。=を含めてください。 [IPアドレス] : IPv4またはIPv6形式で入力します。 [FQDN] : 半角英数字、ドット、ハイフンを組み合わせて1~255文字以内で入力します。 [メールアドレス] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。@を含めてください。 [任意の文字列] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。
	事前共有キー	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、1~127文字以内で事前共有キーを設定します。
	事前共有キー確認入力	確認のため、設定したキーをもう一度入力します。
リモート認証	認証方式	[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecのセキュリティプロトコルを選択します。この証明書は基本ポリシーで設定したCA署名証明書と共通です。
	IDの種類	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、認証相手を表すIDの種類を選択します。
	ID	IDの種類に合わせてプリンターのIDを入力します。 いずれの場合も先頭に@#=は使用できません。 [識別名] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。=を含めてください。 [IPアドレス] : IPv4またはIPv6形式で入力します。 [FQDN] : 半角英数字、ドット、ハイフンを組み合わせて1~255文字以内で入力します。 [メールアドレス] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。@を含めてください。 [任意の文字列] : ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~255文字以内で入力します。
	事前共有キー	[認証方式] で [事前共有キー] を選択した場合、1~127文字以内で事前共有キーを設定します。
	事前共有キー確認入力	確認のため、設定したキーをもう一度入力します。

[カプセル化]

[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecの通信モードを設定します。

エンタープライズセキュリティー設定編

項目	設定値と説明
トランスポートモード	主に同じLAN内だけでプリンターとIPsec通信をする場合に選択します。IPパケットのレイヤー4以上のデータ部のみが暗号化されます。
トンネルモード	主にIPsec-VPNのようなインターネットが有効なネットワークでプリンターを接続するときを選択します。IPパケットのヘッダーとデータが暗号化されます。 [リモートゲートウェイアドレス(トンネルモード)] : [カプセル化] で [トンネルモード] を選択した場合、1~39文字以内でゲートウェイアドレスを設定します。

[セキュリティープロトコル]

[通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、IPsecのセキュリティープロトコルを選択します。

項目	設定値と説明
ESP	認証とデータの完全性の保証に加えてデータ全体を暗号化します。
AH	認証とデータの完全性の保証をします。データの暗号化が禁止されていてもIPsec通信ができます。

[アルゴリズム設定]

全ての設定で [任意] を選択するか、全て個別に選択することをお勧めします。一部のアルゴリズム設定を [任意] にして一部を選択した場合、相手の設定によっては通信ができない場合があります。

項目		設定値と説明
IKE	暗号化アルゴリズム	IKEで利用する暗号化アルゴリズムを選択します。 IKEのバージョンで選択できる項目が異なります。
	認証アルゴリズム	IKEで利用する認証アルゴリズムを選択します。
	鍵交換アルゴリズム	IKEで利用する鍵交換アルゴリズムを選択します。 IKEのバージョンで選択できる項目が異なります。
ESP	暗号化アルゴリズム	ESPで利用する暗号化アルゴリズムを選択します。 [セキュリティープロトコル] が [ESP] のときに選択できます。
	認証アルゴリズム	ESPで利用する認証アルゴリズムを選択します。 [セキュリティープロトコル] が [ESP] のときに選択できます。
AH	認証アルゴリズム	AHで利用する認証アルゴリズムを選択します。 [セキュリティープロトコル] が [AH] のときに選択できます。

関連情報

- ➔ [「個別ポリシーを設定する」 137ページ](#)
- ➔ [「ローカルアドレス \(プリンター\) とリモートアドレス \(ホスト\) の組み合わせ」 142ページ](#)
- ➔ [「個別ポリシーのサービス名一覧」 142ページ](#)

ローカルアドレス（プリンター）とリモートアドレス（ホスト）の組み合わせ

		ローカルアドレス（プリンター）の設定値		
		IPv4	IPv6* ²	使用可能な全てのアドレス* ³
リモートアドレス（ホスト）の設定値	IPv4* ¹	○	×	○
	IPv6* ¹ * ²	×	○	○
	空白	○	○	○

*1 [通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合、範囲指定はできません。

*2 [通信処理] で [IPsecの使用] を選択した場合リンクローカルアドレス（fe80::）は選択できますが、個別ポリシーは無効になります。

*3 IPv6リンクローカルアドレスは除きます。

個別ポリシーのサービス名一覧

参考 非対応のサービスは表示されますが、選択できません。

サービス名	プロトコルタイプ	ローカルポート番号	リモートポート番号	制御できる機能
全て	-	-	-	全てのサービス
ENPC	UDP	3289	任意	Epson Device Adminなどのアプリケーションソフト、プリンタードライバーからのプリンター探索
SNMP	UDP	161	任意	Epson Device Adminなどのアプリケーションソフト、エプソンのプリンタードライバーからのプリンターMIB情報の取得と設定
LPR	TCP	515	任意	LPRデータの転送
RAW (Port9100)	TCP	9100	任意	RAWデータの転送
IPP/IPPS	TCP	631	任意	IPP/IPPS印刷のデータ転送
WSD	TCP	任意	5357	WSDの制御
WS-Discovery	UDP	3702	任意	WSDのプリンター探索
FTP データ (ローカル)	TCP	20	任意	FTPサーバー（FTP印刷のデータ転送）
FTP 制御 (ローカル)	TCP	21	任意	FTPサーバー（FTP印刷の制御）

サービス名	プロトコルタイプ	ローカルポート番号	リモートポート番号	制御できる機能
FTP データ (リモート)	TCP	任意	20	FTPクライアント (スキャンデータのFTP転送) ただし、制御できるのは20番のリモートポート番号を使用するFTPサーバーとのみ
FTP 制御 (リモート)	TCP	任意	21	FTPクライアント (スキャンデータのFTP転送の制御)
CIFS (リモート)	TCP	任意	445	CIFSクライアント (スキャンデータのフォルダー転送)
NetBIOS Name Service (リモート)	UDP	任意	137	CIFSクライアント (スキャンデータのフォルダー転送)
NetBIOS Datagram Service (リモート)	UDP	任意	138	
NetBIOS Session Service (リモート)	TCP	任意	139	
HTTP (ローカル)	TCP	80	任意	HTTP(S)サーバー (Web ConfigやWSDのデータ転送)
HTTPS (ローカル)	TCP	443	任意	
HTTP (リモート)	TCP	任意	80	HTTP(S)クライアント (ファームウェアアップデートやルート証明書の更新)
HTTPS (リモート)	TCP	任意	443	

IPsec/IPフィルタリングの設定例

IPsecで保護されたパケットだけを受け付ける

個別ポリシーを設定しない場合は、基本ポリシーだけが使われます。

[基本ポリシー] :

- [IPsec/IPフィルタリング] : [有効]
- [通信処理] : [IPsecの使用]
- [認証方式] : [事前共有キー]
- [事前共有キー] : 1~127文字以内の任意文字

[個別ポリシー] : 設定しない

印刷データとプリンター設定を受け付ける

指定したサービスからの印刷データとプリンター設定の通信を受け付ける場合の例です。

[基本ポリシー] :

- [IPsec/IPフィルタリング] : [有効]
- [通信処理] : [通信を遮断]

[個別ポリシー] :

- [この個別ポリシーを有効にする] : チェックを入れる
- [通信処理] : [通信を通過]
- [リモートアドレス (ホスト)] : 印刷クライアントのIPアドレス
- [ポート指定方法] : [サービス名]
- [サービス名] : [ENPC]、[SNMP]、[HTTP (ローカル)]、[HTTPS (ローカル)]、[RAW (Port9100)]
にチェックを入れる

特定のIPアドレスからの通信のみ受け付ける

管理者など特定のコンピューターからの通信のみを受け付ける場合の例です。

[基本ポリシー] :

- [IPsec/IPフィルタリング] : [有効]
- [通信処理] : [通信を遮断]

[個別ポリシー] :

- [この個別ポリシーを有効にする] : チェックを入れる
- [通信処理] : [通信を通過]
- [リモートアドレス (ホスト)] : 管理者用クライアントのIPアドレス

参考 ポリシーの設定に関わらず、プリンターの検索や設定を行うためのプロトコルは使用できます。

IPsec/IPフィルタリングで使用する証明書を設定する

IPsec/IPフィルタリングで使用するクライアント証明書を設定します。設定すると、IPsec/IPフィルタリングの認証方式で証明書を使用できるようになります。なお、相手サーバー検証用の証明書を設定する場合は、[相手サーバー検証用CA証明書]で行います。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティー] タブ - [IPsec/IPフィルタリング] - [クライアント証明書] を選択します。

2. [クライアント証明書] 画面で証明書をインポートします。

IEEE802.1XまたはSSL/TLSで、CA局が発行した証明書をインポートしている場合は証明書をコピーしてIPsec/IPフィルタリングで使用できます。コピーする場合は、[コピー元] からどの証明書を使うか選択して [コピー] をクリックしてください。



関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「CA署名証明書を取得する」 120ページ](#)

IEEE802.1X環境にプリンターを接続する

IEEE802.1Xを設定する

プリンターにIEEE802.1Xを設定すると、RADIUSサーバーと認証機能を持ったLANスイッチやアクセスポイントに接続されたネットワークで使用できます。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティ] タブ - [IEEE802.1X] - [基本] を選択します。

2. 各項目を設定します。

無線LANで使う場合は「無線LAN設定」をクリックしてSSIDを選択するか、入力してください。

参考 ここでの設定値は有線LANと無線LANで共通に使えます。

3. 「次へ」をクリックします。

確認画面が表示されます。

4. 「設定」をクリックします。

設定がプリンターに反映されます。

関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「IEEE802.1Xの設定項目」 146ページ](#)
- ➔ [「IEEE802.1Xを設定したのにつながらない」 152ページ](#)

IEEE802.1Xの設定項目

項目	設定値と説明	
IEEE802.1X (有線LAN)	[IEEE802.1X] - [基本] 画面で設定した値をIEEE802.1X (有線LAN) に対して有効または無効にするかを選択します。	
IEEE802.1X (無線LAN)	IEEE802.1X (無線LAN) の接続状態が表示されます。	
接続方法	現在のネットワーク接続方法が表示されます。	
認証方式	プリンターとRADIUSサーバーとの認証方式を設定します。	
	EAP-TLS	CA署名証明書を取得してインポートする必要があります。
	PEAP-TLS	
	EAP-TTLS	パスワードを設定する必要があります。
	PEAP/MSCHAPv2	
ユーザーID	RADIUSサーバーの認証に使うIDを設定します。 ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~128文字以内で入力します。	
パスワード	プリンターを認証するためのパスワードを設定します。 ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~128文字以内で入力します。WindowsサーバーをRADIUSサーバーとして使用する場合は、最大127文字になります。	
パスワード確認入力	確認のため、入力したパスワードをもう一度入力します。	
サーバーID	特定のRADIUSサーバーで認証したいときに使用します。設定した文字列が、RADIUSサーバーから送信されるサーバー証明書のsubjectフィールドまたはsubjectAltNameフィールドに含まれているかを検証します。 ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~128文字以内で入力します。	

項目	設定値と説明	
証明書の検証	相手サーバー証明書の検証を設定します。認証方式に関わらず設定ができます。[相手サーバー検証用CA証明書] 画面で証明書をインポートします。	
Anonymous名	[認証方式] が [PEAP-TLS] 、 [EAP-TTLS] 、 [PEAP/MSCHAPv2] の場合、PEAP認証のフェーズ1において、ユーザーIDの代わりに匿名を使用したいときに設定します。ASCII (0x20~0x7E) で表せる1バイト文字で0~128文字以内で入力します。	
暗号強度	以下のいずれかを選択します。	
	高い	AES256/3DES
	標準	AES256/3DES/AES128/RC4

関連情報

➔ [「IEEE802.1Xを設定する」 145ページ](#)

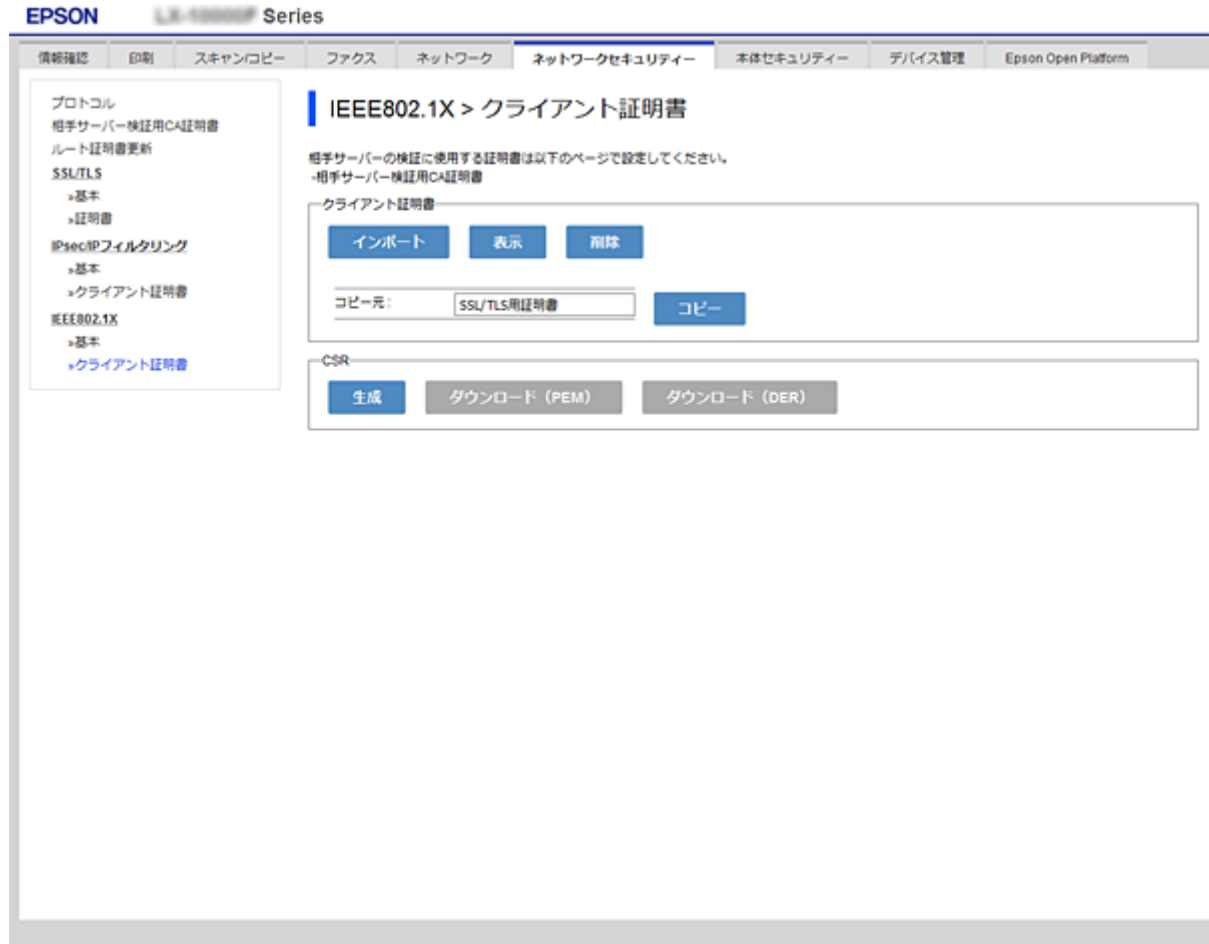
IEEE802.1Xで使用する証明書を設定する

IEEE802.1Xで使用するクライアント証明書を設定します。設定すると、IEEE802.1Xの認証方式で [EAP-TLS] と [PEAP-TLS] が使用できるようになります。なお、相手サーバー検証用の証明書を設定する場合は、[相手サーバー検証用CA証明書] で行います。

1. Web Configで [ネットワークセキュリティー] タブ - [IEEE802.1X] - [クライアント証明書] を選択します。

2. 「クライアント証明書」に使用する電子証明書を設定します。

CA局が発行した証明書をインポートした場合はコピーできます。コピーする場合は、「コピー元」からどの証明書を使うか選択して「コピー」をクリックしてください。



関連情報

- ➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)
- ➔ [「CA署名証明書の取得とインポート」 120ページ](#)

プリンターのIEEE802.1X状態表示

IEEE802.1Xの動作状態はネットワークステータスシートを印刷し、「IEEE802.1X」の項目で確認できます。ネットワークステータスシートの印刷方法はプリンターのマニュアルをご覧ください。

ステータス表示	IEEE802.1Xの動作状態
Disable	IEEE802.1X機能が無効になっています。
EAP Success	IEEE802.1X認証が成功し、ネットワークに接続されています。
Authenticating	IEEE802.1Xの認証中です。

ステータス表示	IEEE802.1Xの動作状態
Config Error	ユーザーIDが設定されていないため、認証に失敗しました。
Client Certificate Error	クライアント証明書の有効期限が切れているため、認証に失敗しました。
Timeout Error	RADIUSサーバーや認証ハブからの応答がないため、認証に失敗しました。
User ID Error	プリンターのユーザーIDまたは認証プロトコルに不備があるため、認証に失敗しました。
Server ID Error	サーバーの証明書に記載されているサーバーIDと通信しているサーバーIDが一致しないため、認証に失敗しました。
Server Certificate Error	サーバーの証明書に以下の不備があるため、認証に失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"> 証明書の有効期限切れ 証明書のチェーンの異常
CA Certificate Error	CA証明書に以下の不備があるため、認証に失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"> CA証明書の指定が間違っている 正しいCA証明書がインポートされていない CA証明書の有効期限切れ
EAP Failure	プリンターの設定に以下の不備があるため、認証に失敗しました。 <ul style="list-style-type: none"> クライアント証明書に何らかの不備がある（[認証方式]が[EAP-TLS]または[PEAP-TLS]の場合） ユーザーIDまたはパスワードの間違い（[認証方式]が[EAP-TTLS]または[PEAP/MSCHAPv2]の場合）

トラブルを解決する

セキュリティー設定の初期化

IPsec/IPフィルタリングやIEEE802.1Xなど高度なセキュア環境を構築している場合、設定ミスや機器、サーバーのトラブルなどでデバイスと通信できなくなる可能性があります。この場合、セキュリティー機能を初期化してデバイスの設定をやり直したり、一時的に使用できるようにしたりします。

操作パネルからセキュリティー機能を無効にする

操作パネルを使ってIPsec/IPフィルタリングやIEEE802.1Xを無効に設定します。

1. [設定] - [本体設定] - [ネットワーク設定] の順に選択します。
2. [詳細設定] を選択します。

3. 無効にしたい機能を選択します。
 - [IPsec/IPフィルタリングの無効化]
 - [IEEE802.1Xの無効化]
4. 確認画面で [設定開始] を選択します。
5. 設定完了のメッセージが表示されたら [閉じる] を選択します。
 [閉じる] を選択しなくても、一定時間を経過すると次の画面に進みます。

セキュア環境への接続時のトラブル

事前共有キーを忘れてしまった

事前共有キーを再設定する

Web Configの [ネットワークセキュリティー] タブ - [IPsec/IPフィルタリング] - [基本] - [基本ポリシー] または [個別ポリシー] の画面でキーを変更します。

事前共有キーを変更したら、相手先コンピューターの事前共有キーの設定もやり直してください。

関連情報

➔ [\[Web Configの起動\] 26ページ](#)

IPsec通信ができない

プリンターまたはコンピューターがサポートしていないアルゴリズムを指定している

プリンターがサポートするアルゴリズムは以下の通りです。コンピューターの設定を確認してください。

セキュリティーメソッド	アルゴリズム
IKE暗号化アルゴリズム	AES-CBC-128、AES-CBC-192、AES-CBC-256、AES-GCM-128*、AES-GCM-192*、AES-GCM-256*、3DES
IKE認証アルゴリズム	SHA-1、SHA-256、SHA-384、SHA-512、MD5
IKE鍵交換アルゴリズム	DH Group1、DH Group2、DH Group5、DH Group14、DH Group15、DH Group16、DH Group17、DH Group18、DH Group19、DH Group20、DH Group21、DH Group22、DH Group23、DH Group24、DH Group25、DH Group26、DH Group27*、DH Group28*、DH Group29*、DH Group30*
ESP暗号化アルゴリズム	AES-CBC-128、AES-CBC-192、AES-CBC-256、AES-GCM-128、AES-GCM-192、AES-GCM-256、3DES
ESP認証アルゴリズム	SHA-1、SHA-256、SHA-384、SHA-512、MD5

セキュリティメソッド	アルゴリズム
AH認証アルゴリズム	SHA-1、SHA-256、SHA-384、SHA-512、MD5

* : IKEv2のみ対応

関連情報

➔ [「IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する」 133ページ](#)

突然通信ができなくなった

プリンターのIPアドレスが変更された、または使用できなくなった

個別ポリシーのローカルアドレスに登録されているIPアドレスが変更や使用できなくなった場合、IPsecでは通信できなくなります。プリンターの操作パネルでIPsecを無効にしてください。

Web Configの [ネットワークセキュリティ] タブー [IPsec/IPフィルタリング] - [基本] - [個別ポリシー] - [ローカルアドレス (プリンター)] に設定したIPアドレスが、DHCPのリース切れや再起動、IPv6アドレスの有効期限切れや再取得失敗によって見つからない可能性があります。

IPアドレスは、固定のIPアドレスを使用してください。

コンピューターのIPアドレスが変更された、または使用できなくなった

個別ポリシーのリモートアドレスに登録されているIPアドレスが変更や使用できなくなった場合、IPsecでは通信できなくなります。

プリンターの操作パネルでIPsecを無効にしてください。

Web Configの [ネットワークセキュリティ] タブー [IPsec/IPフィルタリング] - [基本] - [個別ポリシー] - [リモートアドレス (ホスト)] に設定したIPアドレスが、DHCPのリース切れや再起動、IPv6アドレスの有効期限切れや再取得失敗によって見つからない可能性があります。

IPアドレスは、固定のIPアドレスを使用してください。

関連情報

➔ [「Web Configの起動」 26ページ](#)

➔ [「IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する」 133ページ](#)

セキュアIPP印刷のポートが作成できない

SSL/TLS通信のサーバー証明書に正しい証明書が指定されていない

正しい証明書が指定されていないとポート作成に失敗する場合があります。証明書が正しいか確認してください。

プリンターを使用するコンピューターにCA証明書がインポートされていない

コンピューターにCA証明書がインポートされていないと、ポート作成に失敗する場合があります。CA証明書がインポートされているか確認してください。

関連情報

➔ [「IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する」 133ページ](#)

IPsec/IPフィルタリング設定したのにつながらない

IPsec/IPフィルタリングの設定が間違っている

プリンターの操作パネルからIPsec/IPフィルタリングを無効にしてください。プリンターとコンピューターを接続して、IPsec/IPフィルタリングの設定をやり直してください。

関連情報

➔ [「IPsec/IPフィルタリングで暗号化通信する」 133ページ](#)

IEEE802.1Xを設定したのにつながらない

IEEE802.1Xの設定が間違っている

プリンターの操作パネルから無線LANとIEEE802.1Xを無効にしてください。プリンターとコンピューターを接続して、IEEE802.1Xの設定をやり直してください。

関連情報

➔ [「IEEE802.1Xを設定する」 145ページ](#)

電子証明書使用時のトラブル

CA署名証明書のインポートができない

入手したCA署名証明書と作成したCSRの情報が一致していない

CA署名証明書とCSRは、同一の情報である必要があります。以下の点を確認してください。

- 同時に複数の機器でCSRを作成した場合、一致しない機器に証明書をインポートしようとしたか情報を確認して、一致する機器にインポートしてください
- CA局にCSRを送付した後、プリンターに保存されているCSRを再生成したか再生成したCSRでCA署名証明書を取得し直してください。

入手したCA署名証明書のファイル容量が5KBを超えている

5KBを超えるCA署名証明書は、インポートできません。

証明書をインポートする際のパスワードが正しくない

正しいパスワードを入力してください。パスワードを忘れた場合、証明書をインポートできません。CA署名証明書を取得し直してください。

関連情報

➔ [「CA署名証明書をインポートする」 123ページ](#)

自己署名証明書が更新できない

コモンネームが入力されていない

【コモンネーム】は必ず入力してください。

コモンネームに不正な文字が使用されている

IPv4、IPv6、ホスト名、FQDNのいずれかの形式をASCII (0x20-0x7E)で表せる1～128文字以内で指定します。

【コモンネーム】にカンマやスペースが使われている

カンマが入力されると【コモンネーム】はそこで分割されます。また、カンマの前後にスペースを入れるとエラーになります。

関連情報

➔ [「自己署名証明書を更新する」127ページ](#)

CSRが作成できない

コモンネームが入力されていない

【コモンネーム】は必ず入力してください。

コモンネーム、組織名、部署名、市町村名、都道府県名に不正な文字が使用されている

IPv4、IPv6、ホスト名、FQDNのいずれかの形式をASCII (0x20-0x7E)で表せる文字で指定します。

コモンネームにカンマやスペースが使われている

カンマが入力されると【コモンネーム】はそこで分割されます。また、カンマの前後にスペースを入れるとエラーになります。

関連情報

➔ [「CA署名証明書を取得する」120ページ](#)

証明書に関する警告が表示された

メッセージ	原因と対処
サーバー証明書を指定してください。	原因： インポートするファイルが指定されていません。 対処： ファイルを選択してから【インポート】をクリックしてください。
CA証明書1の参照先を入力してください。	原因： CA証明書1が未入力で、CA証明書2が入力されています。 対処： 先にCA証明書1をインポートしてください。

メッセージ	原因と対処
以下の入力値が正しくありません。	<p>原因： ファイルパスやパスワードに不正な文字が含まれています。</p> <p>対処： 表示された項目に入力した文字が正しいか確認してください。</p>
日付/時刻が設定されていません。	<p>原因： プリンターに日付や時刻が設定されていません。</p> <p>対処： Web ConfigやEpsonNet Configまたはプリンターの操作パネルから日付や時刻を設定してください。</p>
パスワードが正しくありません。	<p>原因： CA証明書に設定されているパスワードと入力したパスワードが一致しません。</p> <p>対処： 正しいパスワードを入力してください。</p>
不正なファイルです。	<p>原因： インポートしようとしたファイルがX509形式の証明書ではありません。</p> <p>対処： 信頼されたCA局から送付された証明書ファイルを選択しているか確認してください。</p>
	<p>原因： インポートできるファイルサイズを超えています。インポートできるファイルサイズは5KBです。</p> <p>対処： ファイルが正しい場合、証明書が破損していたり改ざんされていたりする可能性があります。</p>
	<p>原因： 証明書に含まれるチェーンが不正です。</p> <p>対処： 証明書の詳細はCA局のWebサイトをご覧ください。</p>
3つ以上のCA証明書が含まれたサーバー証明書は使用できません。	<p>原因： PKCS#12形式の証明書ファイルに3つ以上のCA証明書が含まれています。</p> <p>対処： PKCS#12形式から複数のPEM形式に変換して個別にインポートするか、2つ以下のCA証明書でPKCS#12形式ファイルを再作成してインポートしてください。</p>
有効期間外の証明書です。証明書の有効期間、またはプリンターの日付/時刻設定を確認してください。	<p>原因： 証明書の有効期限が切れています。</p> <p>対処：</p> <ul style="list-style-type: none"> • 証明書の有効期限が切れている場合、新しい証明書をCA局から取得してインポートしてください。 • 証明書の有効期限が切れていない場合、プリンターの日付や時刻の設定が正しいか確認してください。

メッセージ	原因と対処
秘密鍵が必要な証明書ファイルです。	<p>原因： 証明書と対になった秘密鍵がありません。</p> <p>対処：</p> <ul style="list-style-type: none"> • コンピューターで生成したCSRで取得したPEM/DER形式の証明書の場合、秘密鍵ファイルを指定してください。 • コンピューターで生成したCSRで取得したPKCS#12形式の証明書の場合、秘密鍵を含めたファイルを作成してください。
	<p>原因： Web Configで生成したCSRで取得したPEM/DER形式の証明書を再度インポートしようとした。</p> <p>対処： Web Configで生成したCSRで取得したPEM/DER形式の証明書は、一度しかインポートできません。</p>
設定に失敗しました。	<p>原因： プリンターとコンピューターの通信が遮断された、何らかの原因でファイルが読み取りできない、などの原因で正しく設定できませんでした。</p> <p>対処： 指定しているファイルや通信状況を確認して、再度インポートしてください。</p>

関連情報

➔ [「使用できる電子証明書」 120ページ](#)

CA署名証明書を誤って削除した

CA署名証明書をバックアップ保存したファイルがない

CA署名証明書をバックアップ保存したファイルがあれば、それを使って再度インポートしてください。Web Configで生成したCSRで取得した証明書は、一度削除してしまうと再インポートができません。CSRを再生成して証明書を取得し直してください。

関連情報

- ➔ [「CA署名証明書を削除する」 125ページ](#)
- ➔ [「CA署名証明書をインポートする」 123ページ](#)